

# OITA BANK REPORT2022.7

大分銀行  
ディスクロージャー誌資料編

# OITA BANK REPORT2022.7

大分銀行  
ディスクロージャー誌資料編

1	当行グループの概況
2	当行の役員・業務組織図
3	資本の状況
4	「地域密着型金融への取り組み」
10	経営の安全性・健全性とリスクマネジメント
12	主要な業務の内容
13	店舗一覧
16	当行グループの業績（連結）
16	主要経営指標（連結）
17	連結財務諸表
29	連結リスク管理債権・セグメント情報
31	当行の業績（単体）
31	主要経営指標（単体）
32	財務諸表
36	営業の状況／損益
39	営業の状況／預金
39	営業の状況／貸出金
41	営業の状況／証券
42	営業の状況／ALM
43	営業の状況／時価等情報
45	営業の状況／デリバティブ取引情報
46	営業の状況／諸比率
47	自己資本の充実の状況等／自己資本の構成に関する事項【単体ベース】【連結ベース】
49	自己資本の充実の状況等／定性的な開示事項【単体ベース】【連結ベース】
53	自己資本の充実の状況等／定量的な開示事項【単体ベース】
60	自己資本の充実の状況等／定量的な開示事項【連結ベース】
67	銀行等の報酬等に関する情報開示【単体ベース】【連結ベース】

■本誌は、銀行法および銀行法施行規則に基づき作成したディスクロージャー資料です。  
■本誌に記載してある計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しています。  
■本誌には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は、あくまで発行日時点での予測であり、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものであります。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。

発行 2022年7月 編集  
大分銀行総合企画部 広報・SDGsグループ  
〒870-0021 大分市府内町3丁目4番1号 TEL.097-534-1111  
ホームページアドレス <https://www.oitabank.co.jp/>

# 当行グループの概況

## 銀行およびその子会社の主要な事業の内容および組織の構成

2022年6月30日現在

当行グループは、当行及び連結子会社7社で構成され、銀行業務を中心に、リース業務、クレジットカード業務などの金融サービス等に係る事業を行っております。

当行グループの事業に係わる位置づけは次のとおりであります。

### 〔銀行業〕

当行の本支店87カ店、出張所6カ店においては、預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、内国為替業務、外国為替業務、社債受託及び登録業務、先物取引等の附帯業務を行い、当行グループの中核事業と位置付けております。

また、大銀オフィスサービス株式会社は、銀行の従属業務として経理関係計算業務等を営んでおります。

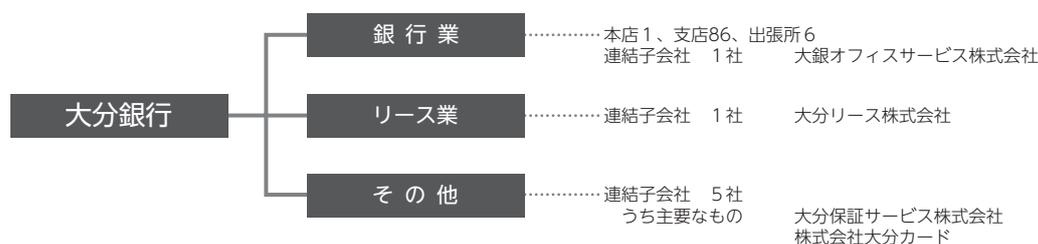
### 〔リース業〕

大分リース株式会社においては、リース業務を営み、地域のリースに関するニーズに積極的にお応えしております。

### 〔その他〕

〔銀行業〕、〔リース業〕以外の連結子会社5社は、クレジットカード業務、債務保証業務、コンピューター関連業務、投融資業務等を営み、個人顧客、法人顧客それぞれの金融ニーズ等に積極的にお応えしております。

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



## 子会社の状況

2022年6月30日現在

	名称	所在地	資本金又は出資金	事業の内容	設立年月日	議決権の所有割合
連結子会社	大銀オフィスサービス (株)	大分市府内町3丁目4番1号 〒870-0021 TEL.097-538-7614	20	経理関係計算業務	1987年6月6日	100.0 (—) [—]
	大分リース (株)	大分市中央町2丁目9番22号 〒870-0035 TEL.097-533-1181	60	リース業	1975年4月3日	100.0 (—) [—]
	大分保証サービス (株)	大分市中央町2丁目9番22号 〒870-0035 TEL.097-533-0190	20	債務保証業	1976年4月14日	100.0 (10.0) [—]
	(株)大分カード	大分市中央町2丁目9番22号 〒870-0035 TEL.097-537-4347	50	クレジットカード業	1983年5月28日	100.0 (58.8) [—]
	大銀コンピュータサービス (株)	大分市城崎町2丁目6番31号 〒870-0045 TEL.097-537-5918	30	コンピューター関連業務	1988年5月12日	100.0 (70.0) [—]
	(株)大銀経済経営研究所	大分市中央町2丁目9番22号 (大分中央町ビルディング7階) 〒870-0035 TEL.097-533-8111	30	金融・経済の調査・研究、 経営相談業務	1990年7月5日	100.0 (75.0) [—]
	大分ベンチャーキャピタル (株)	大分市東大道1丁目9番1号 〒870-0823 TEL.097-543-1919	50	ベンチャーキャピタル業	1997年10月1日	90.0 (65.0) [—]

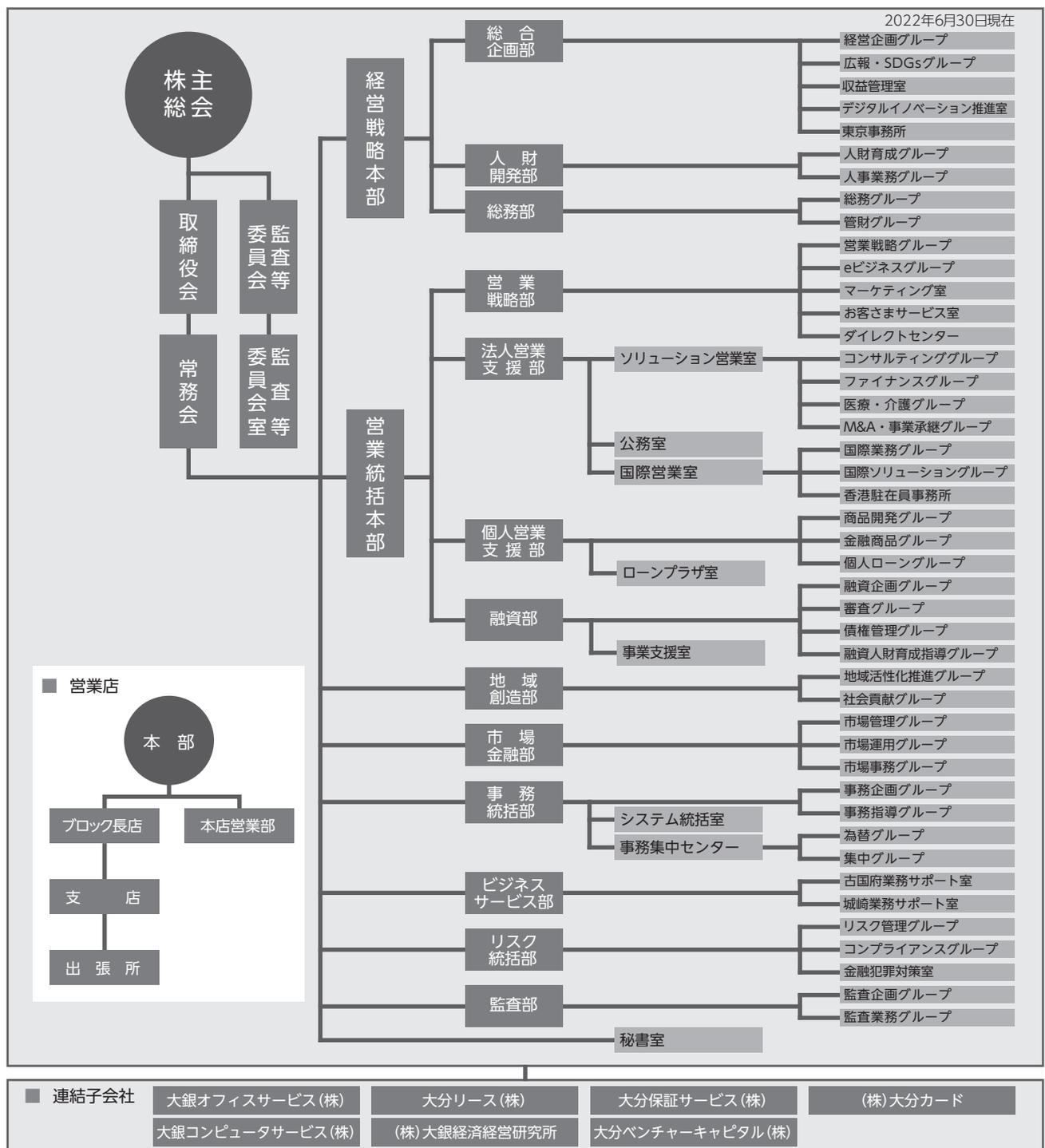
(注) 「議決権の所有割合」の欄の ( ) 内は、連結子会社による間接所有の割合 (内書き)、[ ] 内は、「自己と出資、人事、資金、技術、取引等において緊密な関係があることにより自己の意思と同一の内容の議決権を行使すると認められる者」又は「自己の意思と同一の内容の議決権を行使することに同意している者」による所有割合 (外書き) であります。

(注) 2022年4月1日付で、当行は大銀ビジネスサービス (株) を吸収合併しました。

# 当行の役員・業務組織図

2022年6月30日現在

取締役頭取 (代表取締役)	ごとう 後藤 富一郎	とみいちろう 富一郎	取締役 (常勤監査等委員)	さがら 相良	まさゆき 雅幸	常務執行役員 (本店営業部長兼東支店長)	さとう 佐藤 永松	やすのり 泰則
専務取締役 (代表取締役・営業統括本部長)	たけしま 武島 正幸	まさゆき 正幸	取締役 (常勤監査等委員)	ひらかわ 平川 浩行	ひろゆき 浩行	常務執行役員 (別府支店長)	ながまつ 永松 秀基	ひでき 秀基
専務取締役 (代表取締役・経営戦略本部長)	たかはし 高橋 靖英	やすひで 靖英	取締役 (非常勤監査等委員)	おおさき 大崎 美泉	よしみ 美泉	執行役員 (リスク統括部長)	はなだ 花田 力三	りきぞう 力三
常務取締役	おかまつ 岡松 伸彦	のぶひこ 伸彦	取締役 (非常勤監査等委員)	かわの 河野 光雄	みつお 光雄	執行役員 (総合企画部長)	いけだ 池田 雄	ゆう 雄
常務取締役	しものむら 下ノ村 宏昭	ひろあき 宏昭	取締役 (非常勤監査等委員)	おおろ 大呂 紗智子	さちこ 紗智子	執行役員 (中津支店長兼鶴居支店長)	うえき 植木 克彦	かつひこ 克彦
社外取締役	やまもと 山本 章子	あきこ 章子				執行役員 (地域創造部長)	たかはし 高橋 秀樹	ひでき 秀樹
						執行役員 (事務統括部長)	なかま 仲摩 典幸	のりゆき 典幸
						執行役員 (営業戦略部長)	はまだ 浜田 法男	のりお 法男



# 資本の状況

## 資本金の推移

(単位：百万円)

1979年4月	1988年4月	1993年4月	1994年12月	2009年9月
4,860	6,580	10,000	15,000	19,598

## 株式の所有者別状況

		2022年3月31日現在		
		株主数(人)	所有株式数(単元)	割合(%)
株式の状況 (1単元の株式数100株)	政府及び地方公共団体	3	72	0.04
	金融機関	38	53,949	33.45
	金融商品取引業者	34	2,235	1.39
	その他の法人	467	34,372	21.31
	外国法人等(うち個人)	121(—)	24,591(—)	15.25(—)
	個人その他	6,426	46,044	28.56
	計	7,089	161,263	100.00
単元未満株式の状況(株)			117,334	

(注) 自己株式469,710株は「個人その他」に4,697単元、「単元未満株式の状況」に10株含まれております。

## 大株主(上位10先)

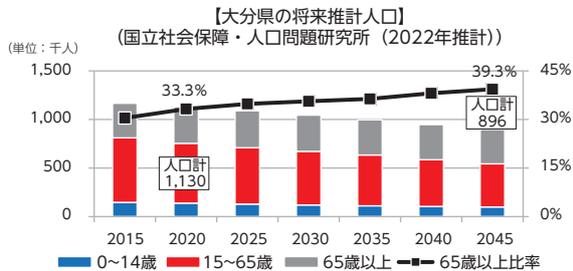
(2022年3月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の 総数に対する所有株式数 の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,582	10.03
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	712	4.51
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	689	4.37
大分銀行行員持株会	大分県大分市府内町三丁目4番1号	421	2.66
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C USL NON-TREATY (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	419	2.65
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	357	2.26
大同生命保険株式会社	大阪府大阪市西区江戸堀一丁目2番1号	263	1.66
膳所 英敏	大分県大分市	213	1.35
株式会社佐伯建設	大分県大分市中島西三丁目5番1号	201	1.27
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	PALISADES WEST 6300, BEE CAVE ROAD BUILDING ONE AUSTIN TX 78746 US (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	193	1.22
計	—	5,055	32.04

# 「地域密着型金融への取り組み」

## 地域社会の繁栄に向けて

地域社会は人口減少・少子高齢化、高い水準の赤字法人比率等、数多くの課題を抱えており、その解決に向けた長期的な取り組みが必要不可欠となっています。大分銀行グループでは、地域社会の繁栄、発展にしっかりと貢献し、地域社会全体にとってプラスとなる取り組みを実践してまいります。



### 長期ビジョン 地域の持続可能性を高める価値創造カンパニー

当行では、2021年4月に10年後の目指す姿として、新たに長期ビジョンを策定いたしました。新たな長期ビジョンは、「環境・社会・経済・顧客」の4つの価値の創造に取り組み、地域のエコシステムを構築し地域価値を創造しながら、地域と当行の共存と、持続可能性を追求する新たなCSVの創造を目指します。長期ビジョンの実現に向けては「SDGs」を当行の経営モデル・地域支援モデルに組み込み、「新たなCSVの創造」と「地域価値の創造」の2つの方向性を定めて、取り組んでまいります。

**環境価値:** 地域社会の一員として、気候変動等、環境を含めた地域の魅力向上に努める

**社会価値:** 地域課題の解決に取り組み、健全な社会形成に貢献する

**経済価値:** 多面的な事業支援を通じ、地域の経済規模を維持する

**顧客価値:** お客様に寄り添ったサービスで、事業や生活を豊かにする



## 「中期経営計画2021」

長期ビジョンのアクションプランとして「中期経営計画2021」(2021年度~2023年度)をスタートしております。「中期経営計画2021」では、これまで当行が実践してきた恒久的戦略である「地域密着化戦略」をさらに強化し、基本戦略とビジョン戦略を実践することで、地域・当行の持続可能性を高めることを目指しています。

「中期経営計画2021」の骨子

長期  
ビジョン

### 地域の持続可能性を高める価値創造カンパニー

未来を見据えた変革への挑戦  
~地域の未来を創る新たなサービス・価値の創造を目指して~

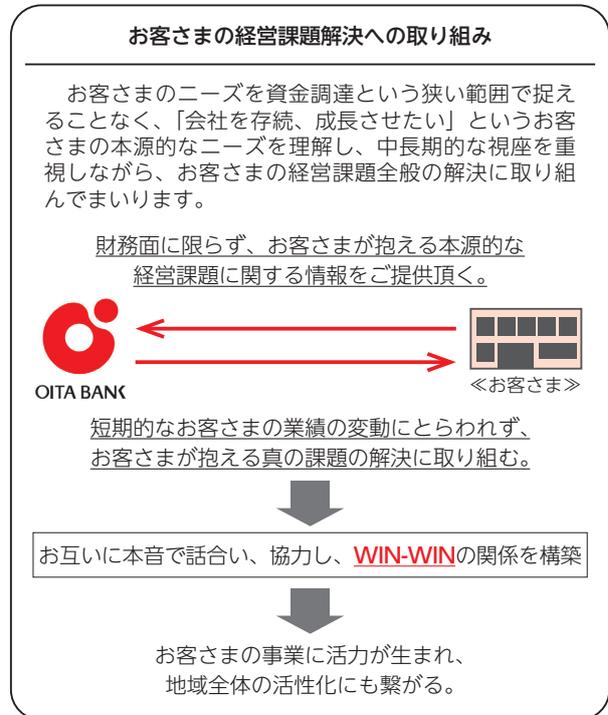
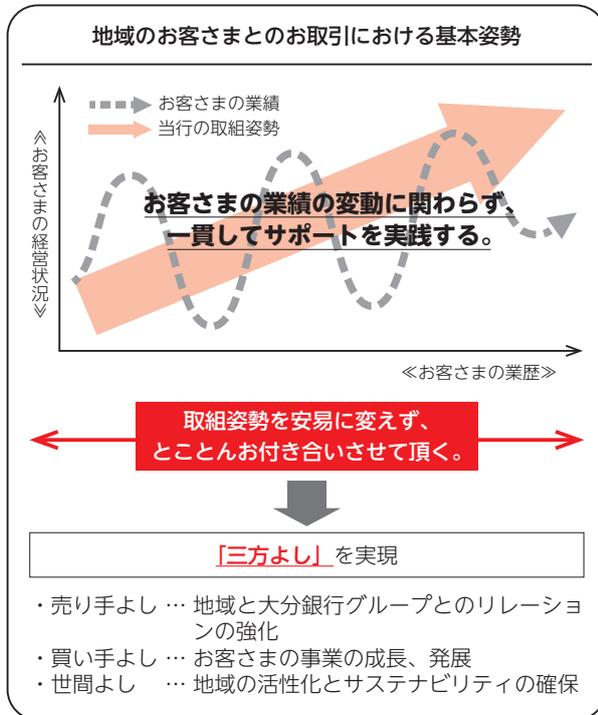
基本  
テーマ

新事業領域 (CSVの変革領域) へのチャレンジに必要な収益力の強化を図っていくために、経営資源の多くを既存業務の維持・強化へ投入し、行動プロセス変革 (CSVの進化領域) を通じた地域密着化戦略の強化 (基本戦略) にウェイトを置いた経営計画としています。

<b>重要 施策</b>	<b>基本 戦略</b>	地域特性を踏まえた金融・非金融サービスの提供
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 行動プロセス変革による地域密着型金融の発揮</li> <li>▶ 地域課題を解決する非金融サービス収益の向上</li> <li>▶ 生産性向上による一人あたり収益性の拡大</li> </ul>
	<b>ビジョン 戦略</b>	SDGsを羅針盤とした新たなビジネスモデルへの挑戦
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 金融の枠組みを超えたビジネスモデルの構築</li> <li>▶ 「専門人材の育成」と「個々の能力を発揮できる組織の構築」</li> </ul>

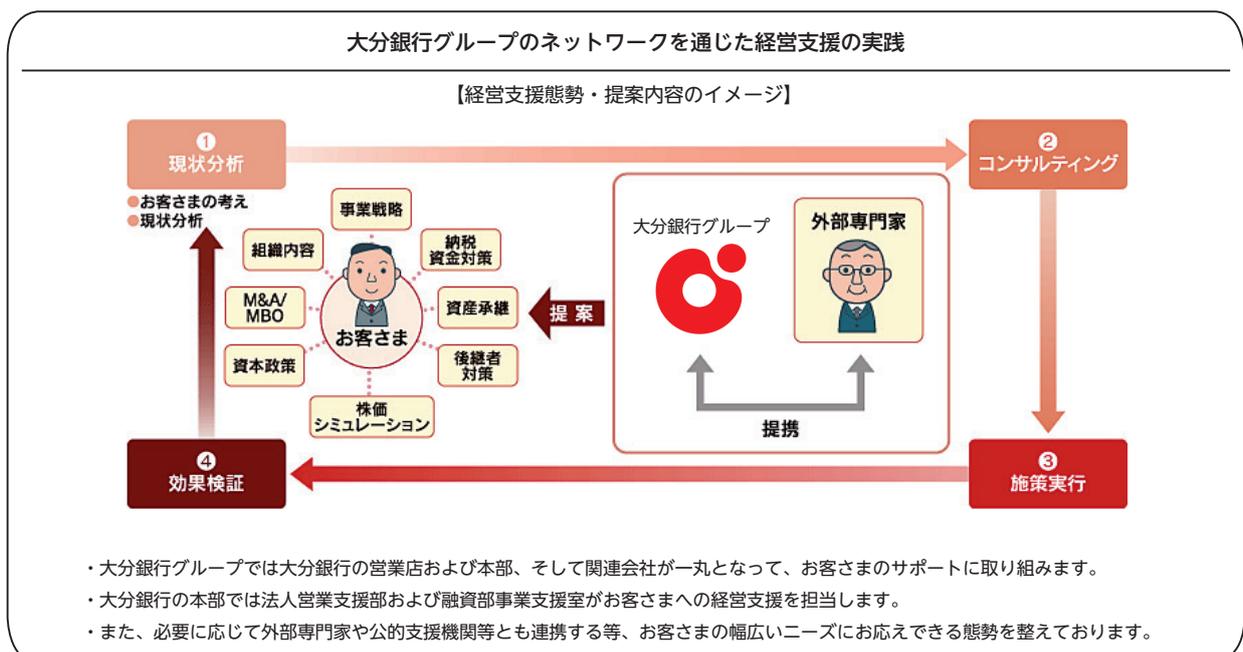
## 地域のお客さまとのお取引における基本姿勢

大分銀行グループは、お客さまの短期的な業績の変動にとらわれることなく、お客さまの事業の発展を「とことんサポート」させて頂きます。「三方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）の実現に長期的かつ一貫して取り組み、地域のお客さまとの間に持続的なリレーションを構築させて頂きます。



## 経営支援の取組方針

中小企業のお客さまの状況を丁寧に把握し、ライフステージや事業の持続可能性の程度等を適切かつ慎重に検討したうえで、お客さまの経営改善や事業再生・業種転換等に資するよう努めてまいります。また、関連会社、外部専門家・外部機関とのネットワーク等を活用し、お客さまの状況に応じた最適なソリューションをお客さまの目線に立って提供し、お客さまの主体的な取り組みを支援してまいります。



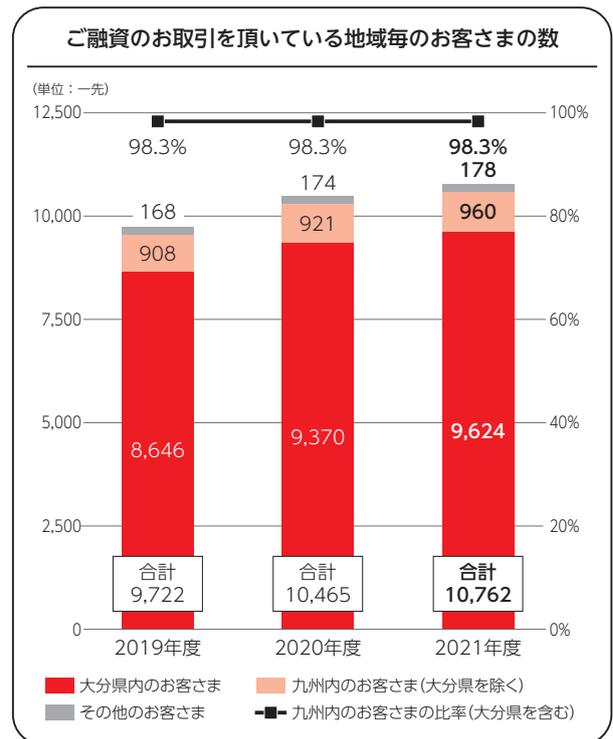
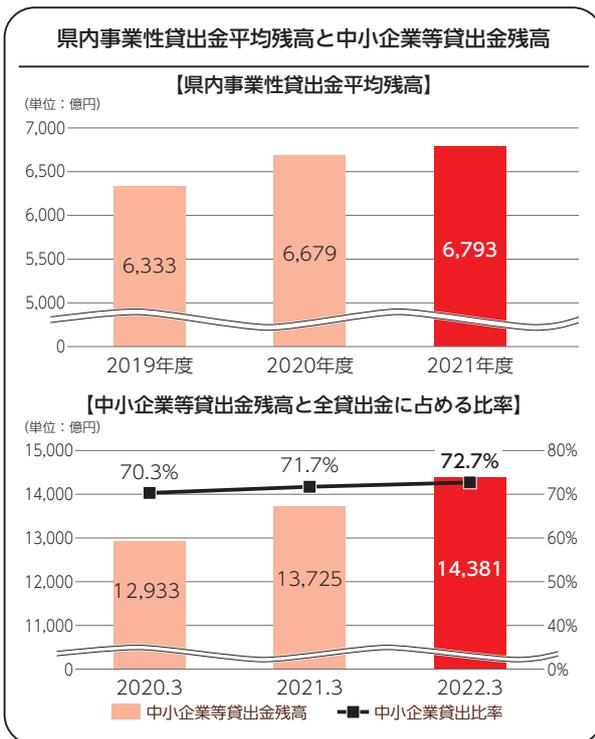
## お客様のライフステージに応じたサポート

大分銀行グループはお客様のライフステージに応じたあらゆる経営ニーズに的確に対応してまいります。大分銀行グループの専門スタッフは企業経営に関する様々なソリューションを提供します。お客様の経営戦略の構築に大分銀行グループの総合力とネットワークを是非ご活用下さい。

お客様のライフステージ	創業・開業	成長・成熟	経営改善	事業再生	整理・事業承継
サポートイメージ	・創業等にあたっての各種相談受付、資金調達等をサポート	・ビジネスマッチングや海外進出、M&A等成長をサポート	・事業計画の策定から計画実行までを総合的にサポート	・事業再生や業種転換を外部機関・公的機関と連携しサポート	・自社株評価や適切なスキームの提案等、問題解決をサポート
サポート内容	資金調達(融資等)	資金調達(融資等)ビジネスマッチング	経営改善支援	事業再生支援	事業承継
	創業サポート	海外サポートM&A	販路拡大・IT化支援	DES・DDS・DIPファイナンス	事業再生支援
	公的助成金	公的助成金事業の多角化	必要に応じた融資支援	業種転換	M&A、廃業支援
	クラウドファンディング・人材紹介事業		コンサルティング		
サポート体系	<p>大分銀行グループ + 大分銀行 本部 + 大分銀行 営業店 + 関連会社(グループ会社)</p> <p>外部専門家連携機関・公的支援機関・海外提携銀行・中小企業活性化協議会・REVIC・大分県信用保証協会等との連携</p>				

## コロナ禍における円滑な資金供給

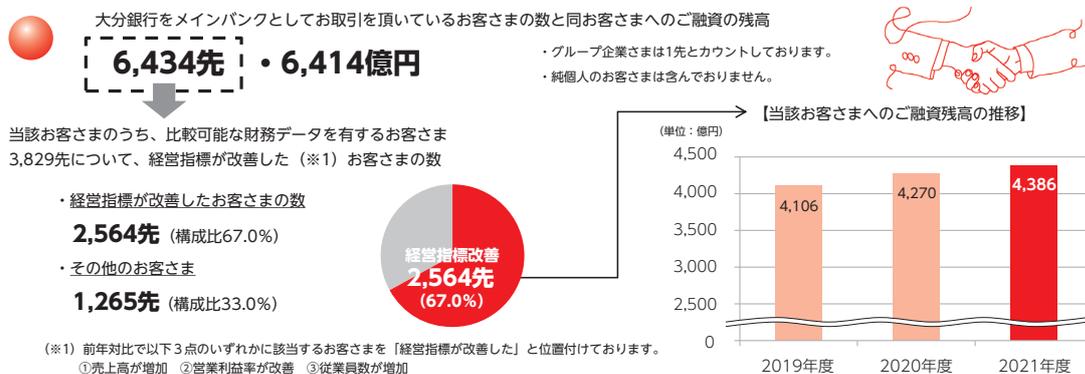
地域の中小企業のお客様や個人のお客様に円滑な資金供給を行うことは、地域金融機関としての使命であるという認識の下、地域事業や生活を支援する取り組みを大分銀行グループ一丸となって実践しております。2021年度のコロナ禍においては、従来のお客様に加え、これまでお取引がなかったお客様に対しても、金融支援に注力した結果、貸出金およびお客様数ともに前年度比で増加いたしました。



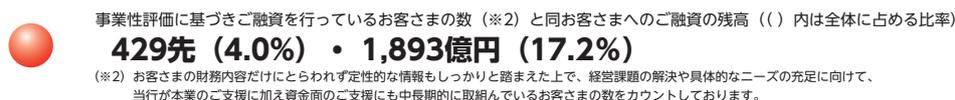
## 経営改善や成長力の強化への取り組み

大分銀行をメインバンクとしてお取引を頂いているお客さまのうち、比較可能な財務データを有するお客さまにつきましては、その67.0%のお客さまの経営指標が前年対比改善（売上高の増加、営業利益率の改善、従業員数の増加のいずれかを実現）しております。

### メインバンクのお取引先に対する経営改善・成長力の強化への取り組み



### 事業性評価の実践



## 「経営者保証に関するガイドライン」の活用状況

大分銀行では引き続き「経営者保証に関するガイドライン」（詳細は当ページ下段に記載）を遵守すると共に、短期のご融資による運転資金への対応等により、中小企業金融の更なる円滑化に取り組んでまいります。2020年度以降につきましては、コロナ禍で先行き不透明な中、最長5年間の返済据置が可能である長期制度融資の取扱い数が増加したため、短期融資の割合は低下しております。

### 「経営者保証に関するガイドライン」の活用状況

「経営者保証に関するガイドライン」を活用されているお客さまの数および全体に占める比率



「経営者保証ガイドライン」	活用先数（-先）	全体に占める比率
2019年度	1,714	18.0%
2020年度	2,385	23.2%
2021年度	1,731	16.2%

### 運転資金に占める短期のご融資の比率

中小企業のお客さまへの貸出金のうち、資金使途が「運転資金」のご融資全体に占める短期のご融資<sup>(※)</sup>の比率



（※）ご融資日から起算して、返済期日までの期間が1年以内であるご融資

運転資金に占める短期のご融資	金額（億円）	全体に占める比率
2019年度	1,197	40.5%
2020年度	1,056	31.6%
2021年度	1,172	34.1%



**円滑な資金供給の促進に向けて**

「短期継続融資」を通じた運転資金融資の内滑化

「経営者保証に関するガイドライン」を活用されているお客さまの数および全体に占める比率

1,731先 (16.2%)

### 「経営者保証に関するガイドライン」とは…

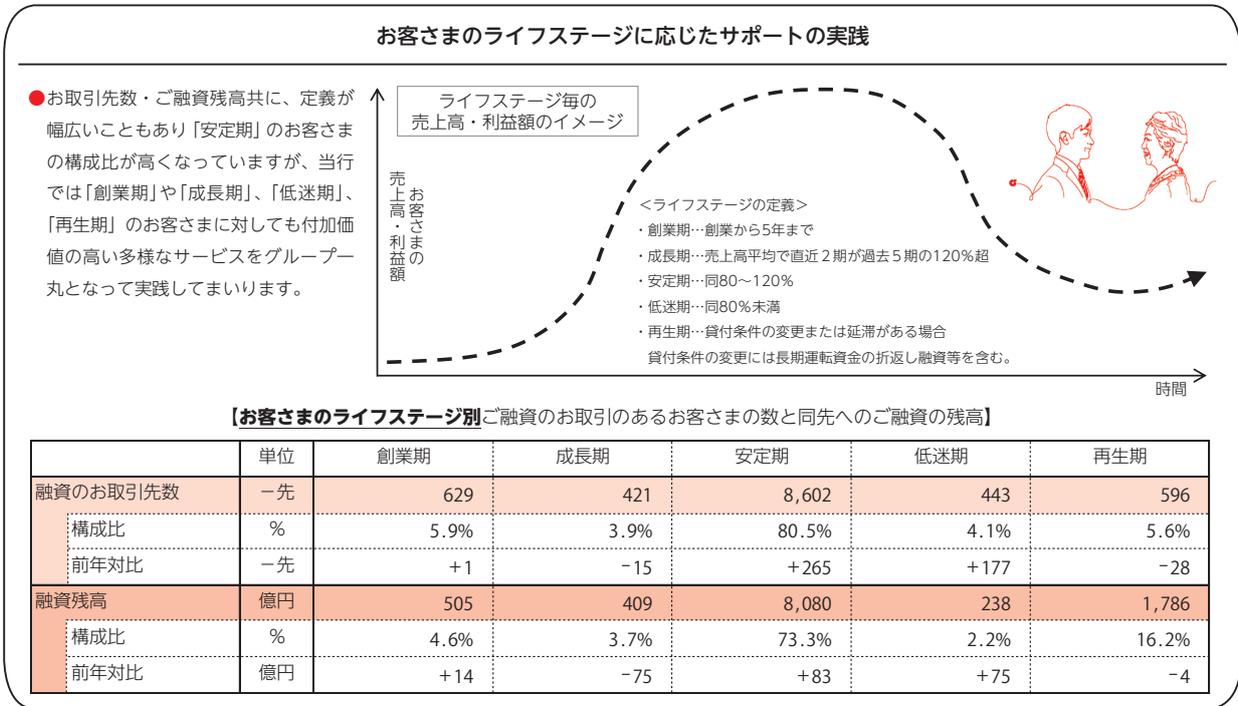
- ・ 中小企業等の経営者の皆さまが保証契約を締結される際や、金融機関が保証履行を求める際における、保証人や債権者の自主的なルールとして、2013年12月に公表されたものです。
- ・ 当該ガイドラインに法的な拘束力はありませんが、中小企業金融の実務の円滑化を通じて中小企業の皆さまの活力を引き出し、地域経済の活性化等に資することを目的としております。

- ・ 「経営者保証に関するガイドライン」や「運転資金に占める短期のご融資の割合」に関する考え方は、金融庁が作成、公表した冊子『円滑な資金供給の促進に向けて』（以下のURLに掲載）に詳しく記載されておりますので、必要に応じてご参照下さい。

『円滑な資金供給の促進に向けて』…  
<http://www.fsa.go.jp/news/27/ginkou/20150730-1/01.pdf>

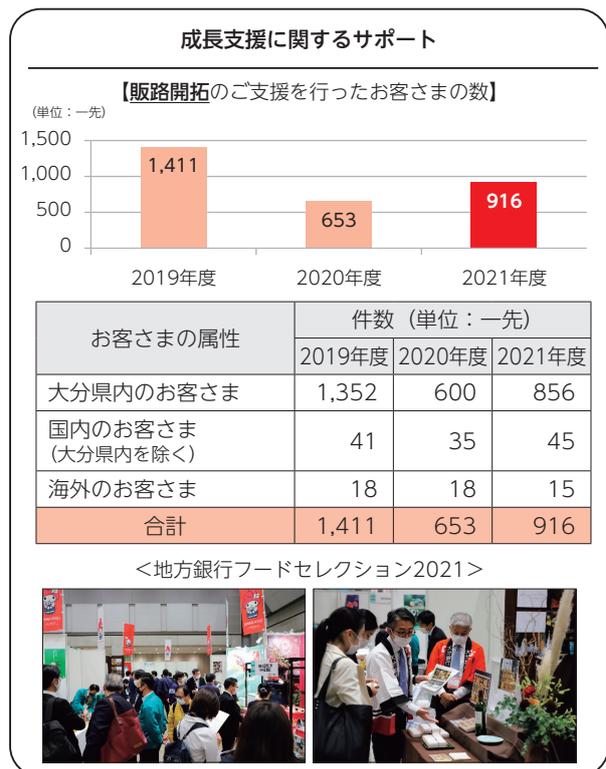
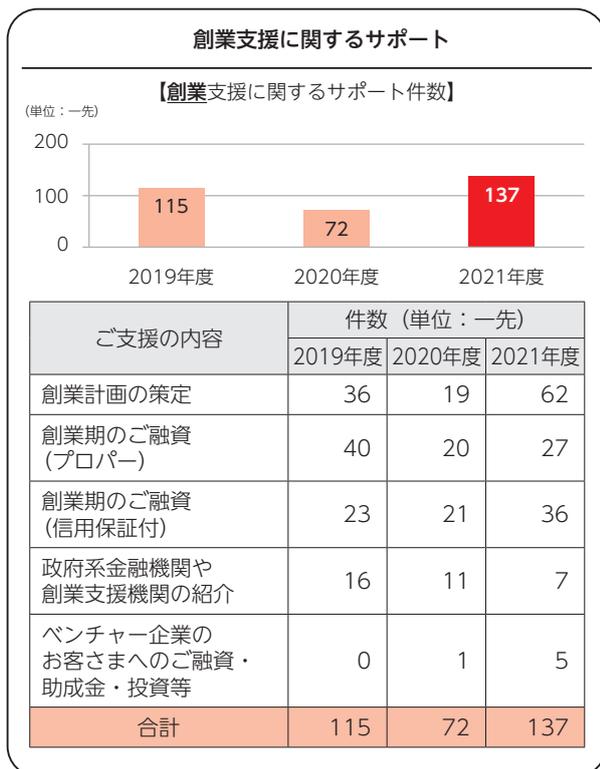
## ライフステージに応じたサポートの実践

大分銀行グループでは、お客さまの業種やライフステージに応じて、専門スタッフが、事業の成長や経営改善のご支援に関する多様なサポートを実践しております。今後も、お客さまのライフステージに応じた経営課題の解決に、積極的に取り組んでまいります。



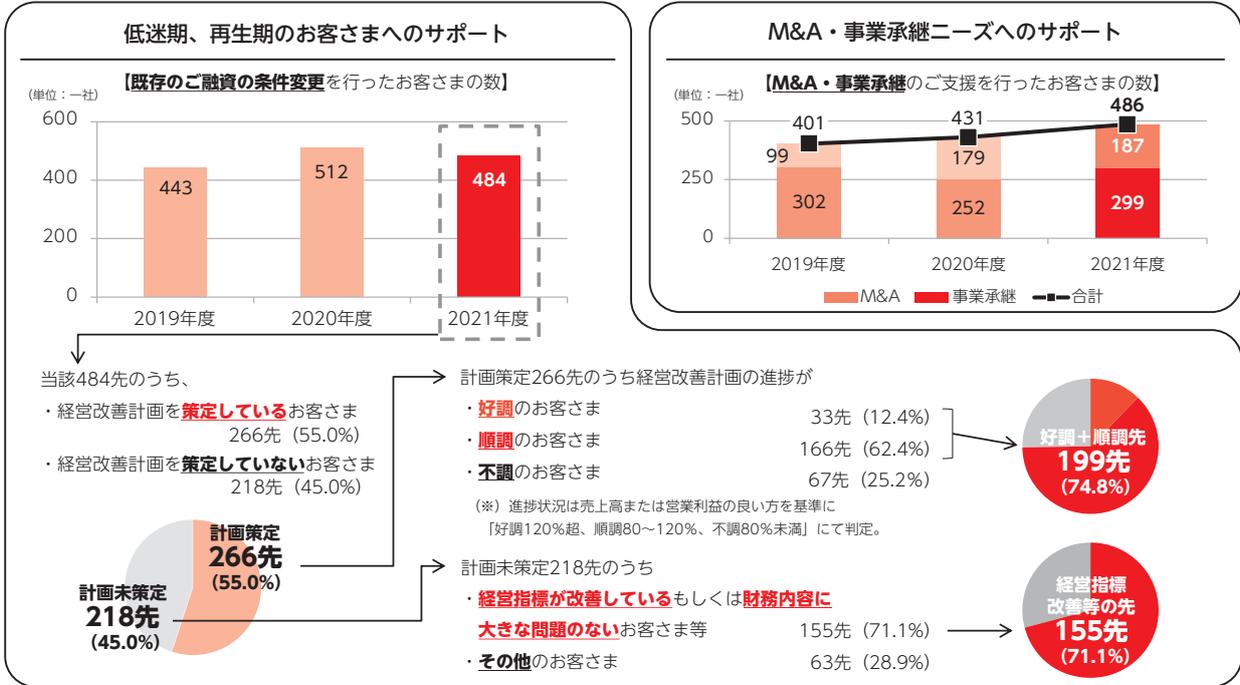
## 各ライフステージに応じたサポート①

創業期のお客さまに対してはご融資はもちろんのこと、創業計画の策定等のサポートも行っております。また、成長期、安定期のお客さまの更なる事業の発展に向けて、販路開拓等に関するご支援も積極的に行っております。2021年度につきましては、コロナ禍における資金的支援ならびに創業支援、販路開拓にも注力した結果、前年対比で増加となりました。



## 各ライフステージに応じたサポート②

2021年度においては、前年度と同様に、コロナの影響も踏まえた上で、ご融資の条件変更等を含む金融支援に積極的に取り組みました。返済条件等の変更を行い、かつ経営改善計画の策定を行ったお客さまのうち、74.8%のお客さまは経営改善計画が好調または順調に進捗しております。  
また、M&A・事業承継ニーズに対するサポートにつきましては、継続的に実践しております。



## だいきんSDGsソリューションについて

持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals) とは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であり、当行グループも2019年2月にSDGs宣言を策定いたしました。  
SDGsはビジネスにおいても重要性が増しており、SDGsを経営に取り入れる企業が増えていきます。  
当行は、地域のSDGs経営を後押しするために様々な支援を行っております。



### SDGsに取り組む上でのソリューションメニュー例

省エネ化促進 設備の新規導入・入替え時の省エネ化をサポート	IT・DX化支援 デジタル化による生産性向上や業務効率化に向けた取り組みを支援
CO <sub>2</sub> 排出量算出・可視化 国際基準であるGHGプロトコルに基づき、企業活動によって排出されたCO <sub>2</sub> 排出量の算出・可視化をサポート	寄付型私募債 私募債発行企業から受け取る手数料の一部を学校や医療機関等、SDGs達成に資する取り組みを行う団体に寄付
人材関連ソリューション 従業員の人材育成、キャリア開発に関連する人事制度の制定や人事システムの構築をサポート	

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

# 経営の安全性・健全性とリスクマネジメント

## コンプライアンス（法令等遵守）について

コンプライアンスとは、法令および企業が社会構成員として行動する上で求められる社会規範等全てのルールを遵守することをいいます。特に信用が最大の財産である銀行にとっては、経営の健全性を高め社会からの信用を得る上での当然の原則です。

銀行業務においては銀行法、民法、会社法はもとより個人情報保護法、消費者契約法、金融商品取引法等、留意すべき法令が多岐にわたります。

従って、金融機関に求められているものは、まさに法令等の遵守であり、経営における自己責任の徹底であると認識しております。

当行は、コンプライアンスを全ての業務の前提とし、真に健全で皆さまから信頼される銀行を目指します。

当行は、反社会的勢力との取引遮断および金融犯罪防止を図るため、適切な取り組みを行っております。

## コンプライアンス体制

当行では、その統括部署として1999年3月に経営監査部（現リスク統括部）を新設し、経営法務、コンプライアンス等、法律面での指導、検証を強化する体制を整えてきました。

全営業店・本部にコンプライアンス担当者を配置し、日常の営業活動の中で法令等遵守違反が発生しないように法令やルールの遵守状況をチェックしております。

また2000年3月から、外部専門家（弁護士、公認会計士）

との意見交流の場である「コンプライアンス・アドバイザー・コミティー」を開催しており、トップ自らがコンプライアンス意識の高揚に努めております。

さらに、コンプライアンスに関わる事項の協議を目的にした「コンプライアンス委員会」を設置いたしております。

コンプライアンスに関する行員一人ひとりのレベルアップを図る目的で、各種コンプライアンス検定試験を奨励しています。

## マネー・ローンダリング及びテロ資金供与防止対策

当行および当行グループは、マネー・ローンダリング及びテロ資金供与の防止が、国際社会において金融機関に求められる責務であることを認識し、「マネー・ローンダリング及び

テロ資金供与防止に係る基本方針」を定めるとともに、当行グループ一体となって、お客さまの資金を金融犯罪から守るため、さまざまな取り組みを行っております。

## リスク管理の基本方針と考え方

金融の自由化・グローバル化やIT技術の向上などにより、銀行を取り巻く環境は大きく変化してきており、それに伴って銀行が直面するリスクも多様化・複雑化しています。銀行経営においては、様々なリスクを的確に把握した上で管理していくことが従来にも増して重要になってきています。

当行は、このような情勢を十分認識し、経営の健全性維持と安定的な収益性、成長性の確保を図り、地域社会の発展に

貢献できる銀行経営を行うため、リスク管理体制の充実・強化に努めています。具体的には、業務部門別の諸リスクを統括管理する部署としてリスク統括部を設置するとともに、「リスク管理委員会」において諸リスクの一元的な管理強化に向けた取り組みを行っております。また、各種「リスク管理方針および管理規程」を制定し、これらに則って、リスクの種類に応じた管理を行っております。

## リスク管理態勢について

### 信用リスク

信用リスク（お取引先の財務内容の悪化等により、貸出金などの元本や利息の回収が困難となり、金融機関が損失を被るリスク）については、そのリスクの大きさや範囲の広さから、業務運営を行っていく上で最も重要なリスクの一つといえます。当行では、貸出資産の健全性の維持・向上のため、適切な信用リスク管理体制の構築に努めております。

与信業務については、「クレジットポリシー（融資の基本方針）」を策定し、与信に携わる行員が遵守すべき基本的な考え方・行動規準を明記するとともに、与信判断・与信管理を行う際の手続を定めています。個別の案件審査においては担保価値にのみとらわれることなく、お取引先の信用力、事業内容、成長性を十分に勘案した適正な審査の徹底に努めております。

また、全体としての与信ポートフォリオについても、格付別・業種別などの信用リスク動向を把握するとともに、「与信

ポートフォリオ管理規程」に基づき、特定の貸出先あるいは業種に対する過度の与信集中を防止しております。

行内の信用リスクの状況や信用リスク管理上の諸課題については「リスク管理委員会」において定期的にモニタリング・協議を行っております。

自己査定については、営業店で一次査定を、融資部で二次査定をそれぞれ行った上で、監査部でその適正性に関し内部監査を行っており、透明性の高い自己査定を行っております。

さらに、人材育成面では、各種研修を実施し、審査能力の向上を図っております。また、地方公共団体向けの貸出等については法人営業支援部が、消費者ローンについては個人営業支援部がそれぞれ担当し、適切なリスク管理に努めております。

### 市場リスク

市場リスクとは、金利や有価証券等の価格、為替等の様々な市場のリスク要素の変動により、保有する資産・負債の価値が変動し、金融機関が損失を被るリスクのことです。

金融の自由化、国際化等の進展による金融環境の変化は、経営上の諸リスクを多様化させており、それらのリスクを適切にコントロールすることが経営の重要課題となっております。

当行では、金利リスク・価格変動リスク・為替リスク等の市場リスクをコントロールしながら安定した収益の確保を目指しております。預貸金に係る市場リスクについてはALM部署、市場取引に係る市場リスクについては市場関連部署にてコントロールを行っております。

リスク管理については、「市場リスク管理方針」および「市場リスク管理規程」に基づき、預貸金取引、市場取引およびオフバランス取引を含めた全ての市場リスクを管理対象として、市場リスク管理に関する体制を整備し運営しております。

預貸金を含む銀行全体の市場リスクの管理については、ALMに基づく運用・調達、ヘッジ方針等の協議を「ALM委員会」、リスク管理上の限度枠の設定、その遵守状況の報告を「リスク管理委員会」で行っております。

市場リスク管理の統括部署であるリスク統括部は、リスク量のモニタリング状況、ストレステストの実施結果等について「リスク管理委員会」へ報告を行っております。

### 流動性リスク

流動性リスクとは、金融機関の財務内容の悪化や信用の失墜により必要な資金の確保ができなくなり、資金繰りがつかなくなる場合や、資金の確保に通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスクのことです。

当行では、市場金融部において当行全体の資金繰りリスクを統合管理しております。

また、流動性リスクの管理部署であるリスク統括部は、資金繰りや支払準備資産等の状況についてモニタリングを行い、「リスク管理委員会」へ報告を行っております。

## オペレーショナル・リスク

オペレーショナル・リスクとは、当行の業務の過程、役職員等の活動若しくはシステムが不適切であることまたは外生的な事象により損失を被るリスクのことです。

当行では、リスク統括部をその総合的な管理部署とし、事務リスクやシステムリスクなどのリスク毎に管理部署を定めて管理しております。また、「オペレーショナル・リスク管理委員会」を開催し、発生事象への対応状況や再発防止策、リスク管理態勢の整備等の協議・報告を行うなど、オペレーショナル・リスクの極小化に努めております。なお、重要度の高い事項については上部組織である「リスク管理委員会」へ付議・報告する体制としています。

## システムリスク

システムリスクとは、コンピュータ・システムの停止または誤作動などシステムの不備等に伴い、損失を被るリスクのことです。

当行では、コンピュータ・システムの安定稼働のため、安全かつ円滑な運用に努めるとともに、システムの方への災害・障害等に備え、危機管理計画（コンティンジェンシー・プラン）を策定し対策を講じております。今後とも、信頼性が高く効率的なシステムを構築してまいります。

## イベントリスク

イベントリスクとは、犯罪・自然災害等偶発的に発生する事件・事故等により、損失を被るリスクをいいます。

当行では、防犯・防災に対する未然防止と、発生時および事後対応の体制を確立することを基本とし、コンティンジェンシープラン（緊急時対応計画）などの各種規程の整備に努めるとともに、防犯・防災訓練を定期的実施し、緊急事態発生時への備えを行っています。

## 人的リスク

人的リスクとは、人事運営上の不公平・不公正（報酬・手当・解雇等の問題）・差別的行為（セクシャルハラスメント等）や役員による法令等の遵守に関して問題となる業務上の行為（業務上横領・交通事故等）から生じる損失・損害などを被るリスク、および業務継続のための人財確保が困難となることから生じる適切な営業態勢・陣容を構築できないリスクのことです。

当行では、人事運営上の問題となる行為、および業務継続のための人財確保が困難となることに関する正確な情報収集を図り、それらの人的リスク顕在化防止および顕在化時の対応に関して、組織的かつ継続的に実施できる体制を構築し、適切に対処しております。

## 事務リスク

事務リスクとは、役職員が正確な事務を怠ること、あるいは事故・不正等を起こすことにより、損失を被るリスクのことです。

当行では、日常の事務リスクに対応するため監査部を活用して、内部牽制機能の充実・強化に努めております。営業店・本部に対し、リスク管理や事務管理、事務処理に関する厳正な監査を実施するとともに、事故防止等を目的に不定期の監査も実施しております。さらに営業店では、目店検査を毎月実施しております。

## 風評リスク

風評リスクとは、企業に対する否定的な世論（悪い評判）が、事実に基づく、基づかないにかかわらず、結果的に当該企業の収益や資本、顧客基盤等に重大な損失をもたらすリスクをいいます。

当行では、日常業務において事件や事故など風評リスクの誘因となる事象発生への未然防止に努めるとともに、リスク統括部を統括管理部署として風評等に関する情報の収集を行い、経営に重大な影響を与える恐れがあると判断した風評等の情報に対しては、ただちに関係部と連携し、必要な対策を講じてまいります。

## 法務リスク

法務リスクとは、当行が関与する取引・訴訟等において法律関係に不確実性・不備等があることにより信用の毀損または損失が発生するリスクやコンプライアンスの欠如により発生するリスクのことです。

当行では、法的なトラブルを回避する観点から、予防的な法務対応に重点を置き、本部・営業店のコンプライアンス統括責任者を中心に法令等遵守への意識の向上を図るとともに、重要な契約等については、各業務を所管する部署、法務担当部署および顧問弁護士が連携し、法務リスクの未然防止に努めております。

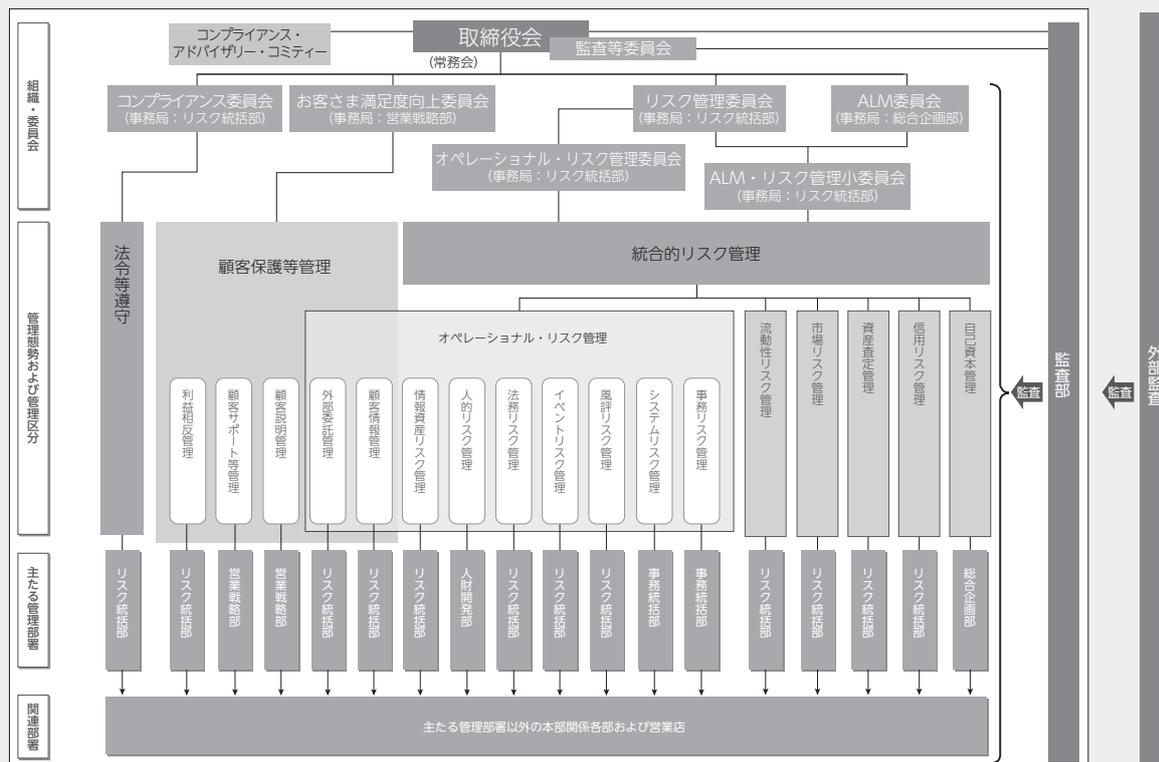
## 情報資産リスク

情報資産とは、情報と情報システム、ならびにそれらが適切に保護、使用され、正当に機能するために必要な要件の全てをいいます。

情報資産リスクとは、情報資産の漏えい、紛失、改ざん、不適切な取得や取扱および不適正な第三者への提供等により、損失を被るリスクのことです。

当行では、情報資産を適切に保護するための安全対策に関する統一方針を情報セキュリティポリシーとして定めるとともに、その具体的な管理基準を情報セキュリティスタンダードとして定め、厳格に情報資産を保護・管理しております。

## 内部管理態勢の体系図



# 経営の安全性・健全性とリスクマネジメント

## 当行の金融商品の勧誘方針

私たちは、金融商品の勧誘に当たっては次の事項を遵守し、お客さまの利益を守ることに努めます。

**お客さまにふさわしい商品をご提供します。**

- お客さまの投資目的、経験、商品へのご理解、財産の状況等に配慮し、お客さまに適した情報のご提供と商品説明を行います。

**お客さまご自身の判断を尊重いたします。**

- 商品の選択・購入はお客さまご自身の判断によってお決めいただきます。
- その際には、商品内容の重要事項についてご確認ください。

**お客さまの立場に立って誠実な勧誘を行います。**

- 金融商品の勧誘の時間帯は、店舗内では所定の営業時間内とします。
- 訪問や電話による勧誘は、お客さまのご希望による場合を除いて、お客さまの不都合な時間帯には行いません。
- 勧誘に当たっては、断定的な判断を示したり、事実と異なることをお伝えする等、お客さまに誤解を与える行為は行いません。
- お客さまの都合に配慮しない一方的な勧誘は行いません。

**お客さまにわかりやすい商品の広告に努めます。**

- 商品の広告に当たっては、商品内容の重要事項の説明を行うほか、お客さまにご理解をいただけるような情報のご提供に努めます。

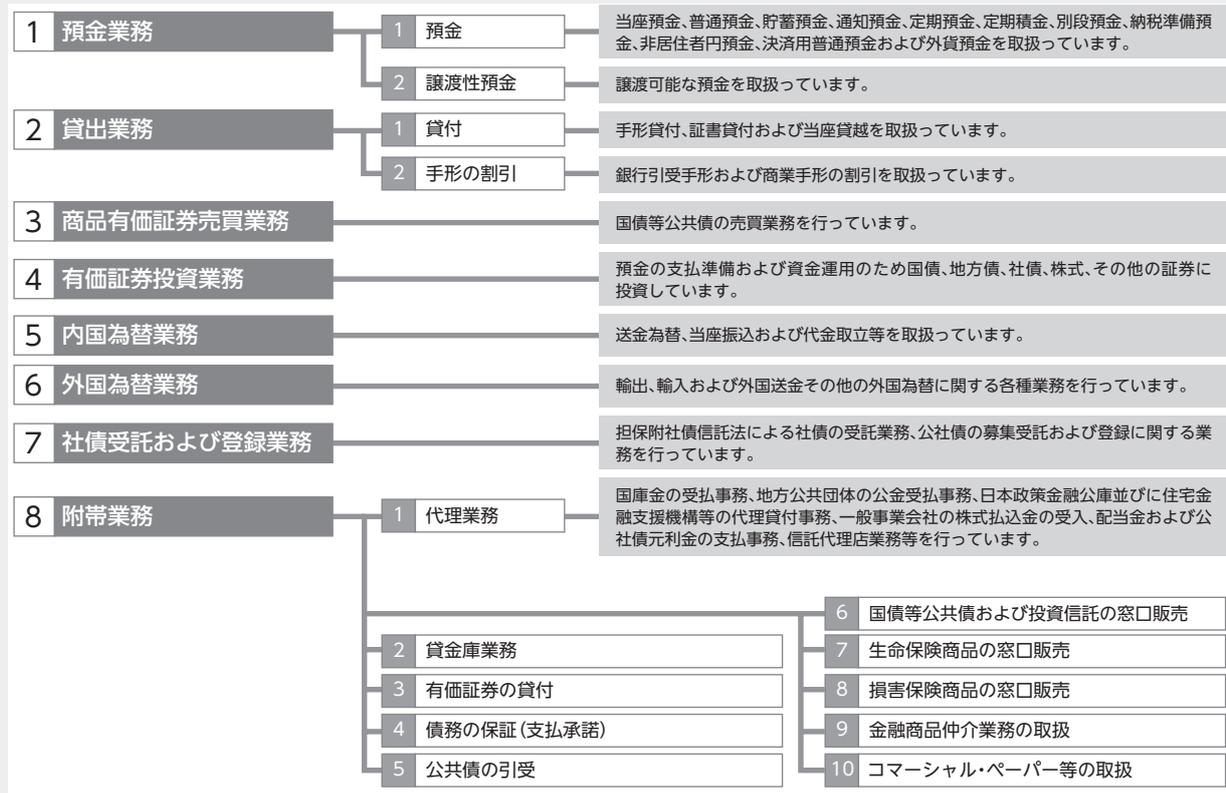
## 金融ADR制度について

金融商品取引法等の改正により、金融分野におけるトラブルについて裁判外で簡易・迅速な解決を行うための実効的な枠組みとして、金融ADR制度（金融分野における裁判外紛争解決制度）が創設されました。当行は銀行法に基づく指定紛争解決機関（指定ADR機関）である一般社団法人 全国銀行協会と手続実施基本契約を締結しております。  
※金融ADR制度（金融分野における裁判外紛争解決制度）は訴訟に代わる、あっせん・調停・仲裁等の当事者の合意に基づく紛争の解決方法です。

### ○当行が契約している銀行法上の指定紛争解決機関

一般社団法人 全国銀行協会  
連絡先 全国銀行協会相談室  
電話番号 0570-017-109（ナビダイヤル） または 03-5252-3772

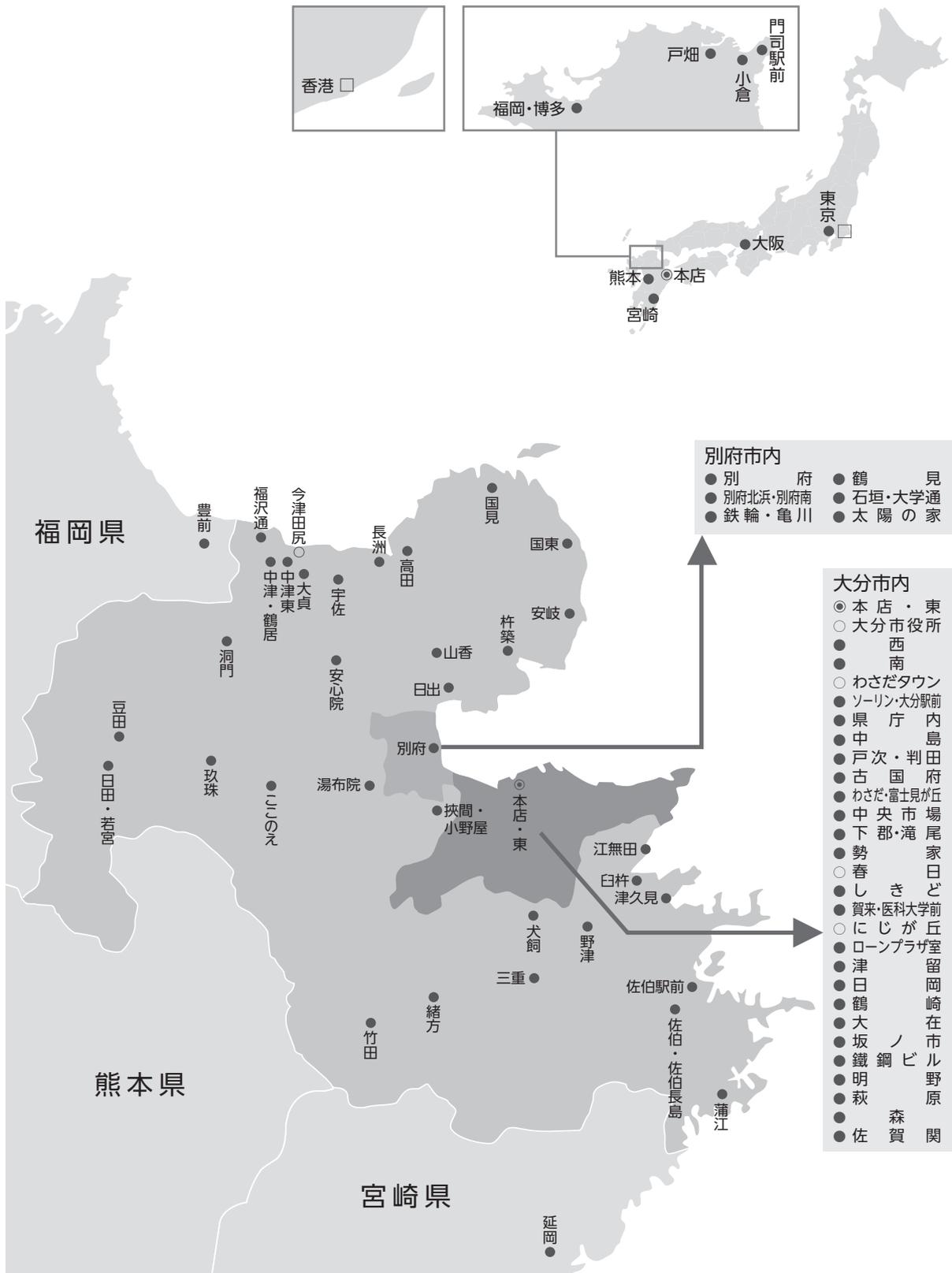
# 主要な業務の内容



# 店舗一覧 (2022年6月30日現在)

## 店舗等の配置

● 本店 ● 支店 ○ 出張所 □ 事務所



# 店舗一覧 (2022年6月30日現在)

	A T M 稼働			信託代理業務取扱店	「フラット35」業務取扱店	外為取扱店	外貨替取扱店	住 所	電 話	バリアフリー設置店
	平日	土曜	日・祝							
<b>大分中央地区</b>										
本店・東支店	●	●	●	●	●	●	●	〒870-0021 大分市内町3丁目4番1号	097-534-1111	●
大分市役所出張所	●							〒870-0046 大分市荷揚町2番31号	097-537-2640	●
ローンプラザ室					●			〒870-0823 大分市東大道1丁目9番1号 (大分銀行宗麟館3階)	097-546-1555 0120-67-0189	●
西支店	●	●	●				●	〒870-0003 大分市生石2丁目3番22号	097-534-5111	
中島支店	●	●	●					〒870-0042 大分市豊町1丁目1番5号	097-534-4331	
県庁内支店	●							〒870-0022 大分市大手町3丁目1番1号	097-532-0188	
ソールン支店・大分駅前支店	●	●	●		●		●	〒870-0823 大分市東大道1丁目9番1号 (大分銀行宗麟館1階)	097-543-1113	●
勢家支店	●	●	●					〒870-0031 大分市勢家町2丁目1番53号	097-537-2121	
春日出張所	●	●	●					〒870-0818 大分市新春日町1丁目4番38号	097-545-1311	
にじが丘出張所	●	●	●					〒870-0874 大分市にじが丘2丁目1番地の1	097-546-1811	
下郡支店・滝尾支店	●	●	●					〒870-0951 大分市下郡3153番地3	097-568-2131	●
中央市場支店	●	●						〒870-0018 大分市豊海3丁目2番1号	097-533-3111	
<b>大分南地区</b>										
南支店	●	●	●		●		●	〒870-0852 大分市田中町12組の3	097-543-5211	●
わさだタウン出張所	●	●	●					〒870-1155 大分市大字玉沢字楠本755番地の1	097-588-8800	●
賀来支店・医科大学前支店	●	●	●		●			〒870-0850 大分市賀来西1丁目16番44号	097-549-1231	●
わさだ支店・富士見が丘出張所	●	●	●					〒870-1151 大分市大字市1157番地	097-541-4321	●
古国府支店	●	●	●		●			〒870-0844 大分市大字古国府647番地1	097-544-5221	●
しきど支店	●	●	●		●		●	〒870-1121 大分市大字篤野862番地の2	097-568-1711	●
戸次支店・判田支店	●	●	●		●		●	〒879-7761 大分市大字中戸次5170番地8	097-597-1111	●
挾間支店・小野屋支店	●	●	●					〒879-5502 由布市挾間町向原338番地3	097-583-1100	
湯布院支店	●	●	●		●		●	〒879-5102 由布市湯布院町川上3040番地1	0977-84-3141	
<b>臨海地区</b>										
鶴崎支店	●	●	●		●	●	●	〒870-0104 大分市南鶴崎3丁目1番12号	097-527-2121	
津留支店	●	●	●					〒870-0934 大分市東津留2丁目1番1号	097-558-6211	●
萩原支店	●	●	●					〒870-0921 大分市萩原3丁目11番39号	097-552-3030	
日岡支店	●	●	●		●		●	〒870-0917 大分市高松1丁目1番1号	097-558-1212	●
鐵鋼ビル支店	●	●	●				●	〒870-0913 大分市松原町3丁目1番11号	097-558-3535	●
明野支店	●	●	●		●		●	〒870-0161 大分市明野東1丁目1番1号	097-558-5560	●
森支店	●	●	●		●			〒870-0128 大分市大字森548番地	097-522-2311	●
大在支店	●	●	●		●		●	〒870-0251 大分市大在中央1丁目11番20号	097-592-0515	●
坂ノ市支店	●	●	●				●	〒870-0308 大分市坂ノ市南1丁目9番7号	097-592-2100	
佐賀関支店	●	●	●					〒879-2201 大分市大字佐賀関2181番地	097-575-1100	
<b>別府地区</b>										
別府支店	●	●	●		●	●	●	〒874-0932 別府市野口中町18番21号	0977-21-2121	●
別府北浜支店・別府南支店	●	●	●				●	〒874-0920 別府市北浜2丁目9番1号	0977-23-3111	
石垣支店・大学通支店	●	●	●		●			〒874-0910 別府市石垣西3丁目9番32号	0977-25-3131	●
鶴見支店	●	●	●					〒874-0838 別府市荘園6組の4	0977-21-1811	
太陽の家支店	●	●	●					〒874-0011 別府市大字内蔵1393番地	0977-67-0800	●
鉄輪支店・亀川支店	●	●	●				●	〒874-0845 別府市北中6組	0977-66-0158	●
<b>県北地区</b>										
杵築支店	●	●	●		●		●	〒873-0001 杵築市大字杵築665番地89	0978-62-2002	
日出支店	●	●	●		●		●	〒879-1506 速見郡日出町2982番地	0977-72-2311	●
山香支店	●							〒879-1307 杵築市山香町大字野原1759番地1	0977-75-1122	
安岐支店	●	●	●				●	〒873-0212 国東市安岐町塩屋291番地12	0978-67-1121	

	A T M 稼働			信託代理業務取扱店	「フラット35」業務取扱店	外為取扱店	外国替取扱店	外貨替取扱店	住 所	電 話	バリアフリー設置店
	平日	土曜	日・祝								
<b>県北地区</b>											
国東支店	●	●	●		●			●	〒873-0503 国東市国東町鶴川1905番地1	0978-72-1313	
国見支店	●								〒872-1401 国東市国見町伊美2440番地9	0978-82-1313	
中津支店・鶴居支店	●	●	●		●	●	●		〒871-0058 中津市豊田町2番地10	0979-24-2211	●
今津田尻出張所	●	●	●						〒879-0121 中津市大字諸田144番1	0979-32-1225	●
福沢通支店	●	●	●						〒871-0038 中津市枝町1696番地の1	0979-24-3311	●
大貞支店	●	●	●						〒871-0153 中津市大字大貞363番地の11	0979-24-6000	
中津東支店	●	●	●						〒871-0011 中津市大字下池永56番1	0979-22-3300	
洞門支店	●								〒871-0201 中津市本耶馬溪町樋田277番地の8	0979-52-2105	
宇佐支店	●	●	●		●			●	〒879-0471 宇佐市大字四日市宇鬼枝77番地	0978-32-2211	●
安心院支店	●	●	●						〒872-0521 宇佐市安心院町下毛2066番地の1	0978-44-1125	
長洲支店	●								〒872-0001 宇佐市大字長洲字坂ノ下553番地の1	0978-38-1211	●
高田支店	●	●	●		●			●	〒879-0628 豊後高田市新町2027番地1	0978-22-3110	
<b>日田・玖珠地区</b>											
日田支店・若宮支店	●	●	●		●	●	●		〒877-0016 日田市三本松1丁目1番2号	0973-23-2101	●
豆田支店	●	●	●						〒877-0005 日田市豆田町4番11号	0973-22-2107	
玖珠支店	●	●	●		●			●	〒879-4403 玖珠郡玖珠町大字帆足154番地の1	0973-72-1121	●
ここのえ支店	●	●	●						〒879-4721 玖珠郡九重町大字栗野1141番地の10	0973-73-1088	●
<b>豊肥地区</b>											
竹田支店	●	●	●		●			●	〒878-0012 竹田市大字竹田町452番地	0974-63-3111	
緒方支店	●	●	●						〒879-6601 豊後大野市緒方町馬場37番地1	0974-42-3111	
三重支店	●	●	●		●			●	〒879-7131 豊後大野市三重町市場512番地5	0974-22-1111	●
犬飼支店	●								〒879-7301 豊後大野市犬飼町犬飼39番地1	097-578-1133	
<b>県南地区</b>											
佐伯支店・佐伯長島支店	●	●	●		●	●	●		〒876-0847 佐伯市城下西町2番7号	0972-22-3311	●
佐伯駅前支店	●	●	●						〒876-0803 佐伯市駅前2丁目4番26号	0972-22-3321	●
蒲江支店	●	●	●						〒876-2401 佐伯市蒲江大字蒲江浦3591番地1	0972-42-0075	●
津久見支店	●	●	●		●			●	〒879-2441 津久見市中央町14番5号	0972-82-2141	
臼杵支店	●	●	●		●			●	〒875-0041 臼杵市大字臼杵字祇園洲2番12	0972-62-2161	●
江無田支店	●	●	●						〒875-0023 臼杵市大字江無田251番地	0972-63-7211	●
野津支店	●	●	●						〒875-0201 臼杵市野津町大字野津市字南町310番地の1	0974-32-2332	
<b>県外</b>											
延岡支店	●								〒882-0053 宮崎県延岡市幸町2丁目133番地	0982-34-4141	
宮崎支店	●								〒880-0805 宮崎市橋通東4丁目1番10号	0985-29-2511	
豊前支店	●								〒828-0021 福岡県豊前市大字八屋2014番地1	0979-82-1101	
小倉支店	●					●	●		〒802-0003 北九州市小倉北区米町1丁目1番21号	093-521-8336	
門司駅前支店	●	●	●					●	〒800-0025 北九州市門司区柳町1丁目3番25号	093-381-0765	
戸畑支店	●								〒804-0083 北九州市戸畑区旭町1番18号	093-871-2731	●
福岡支店・博多支店	●						●	●	〒812-0036 福岡市博多区上呉服町10番10号(呉服町ビジネスセンター2階)	092-281-4381	
熊本支店	●								〒860-0844 熊本市中央区水道町2番13号(水道町213ビル2階)	096-355-5211	●
大阪支店	●						●		〒541-0046 大阪市中央区平野町1丁目8番7号(小池ビル2階)	06-6231-6067	
東京支店	●						●		〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号(日本橋プラザビル12階)	03-3273-0081	

	住 所	URL	電 話
<b>インターネット支店</b>			
ネット赤レンガ支店	〒870-0045 大分市城崎町2丁目6番31号	<a href="https://www.oitabank.co.jp/netakarenga/">https://www.oitabank.co.jp/netakarenga/</a>	0120-849-040

	住 所	電 話
<b>事務所</b>		
香港駐在員事務所	Room 1108,11/F,The Metropolis Tower,10 Metropolis Drive, Hung Hom,Kowloon,Hong Kong	852-2522-8862
東京事務所	〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号(日本橋プラザビル12階)	03-3273-0051

## 当行グループの業績（連結）

当行グループは積極的な営業活動を展開し、業績向上に努めました結果、次のような結果となりました。

### （財政状態）

預金及び譲渡性預金の当連結会計年度末残高は、前連結会計年度末対比1,629億円増加し、3兆4,578億円となりました。  
貸出金の当連結会計年度末残高は、前連結会計年度末対比651億円増加し、1兆9,720億円となりました。  
有価証券の当連結会計年度末残高は、前連結会計年度末対比177億円増加し、1兆2,876億円となりました。

### （経営成績）

連結ベースの経常収益は、国債等債券売却益が増加したものの、株式等売却益及び貸出金利息の減少等により、前連結会計年度対比19億9百万円減少し、557億99百万円となりました。

一方、経常費用は、国債等債券売却損が増加したものの、貸倒引当金繰入額、営業経費及び株式等売却損の減少等により、前連結会計年度対比23億88百万円減少し、485億53百万円となりました。

この結果、経常利益は、前連結会計年度対比4億79百万円増加し、72億46百万円となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益の増加及び法人税等の減少により、前連結会計年度対比17億60百万円増加し、53億76百万円となりました。

### （セグメント別業績）

当行グループの中心である「銀行業」では、経常収益は、株式等売却益の減少等により、前連結会計年度対比22億27百万円減少し、451億41百万円となりました。セグメント利益は、貸倒引当金繰入額の減少等による経常費用の減少が、経常収益の減少を上回ったことから、前連結会計年度対比6億5百万円増加し、61億84百万円となりました。

「リース業」では、経常収益は、リース売上高の増加等により前連結会計年度対比1億56百万円増加し、83億98百万円となりました。セグメント利益は、経常収益は増加したものの、リース売上原価の増加等による経常費用の増加により、前連結会計年度対比1億39百万円減少し、2億12百万円となりました。

「銀行業」、「リース業」を除く「その他」の経常収益は、資金運用収益やその他業務収益の増加等により、前連結会計年度対比1億62百万円増加し、31億86百万円となりました。セグメント利益は、経常収益の増加により、前連結会計年度対比18百万円増加し、8億66百万円となりました。

### ・キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加等により、4,702億82百万円のプラス（前連結会計年度は3,415億21百万円のプラス）となりました。  
投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得による支出等により、341億83百万円のマイナス（前連結会計年度は1,656億63百万円のマイナス）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により、11億90百万円のマイナス（前連結会計年度は12億56百万円のマイナス）となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末対比4,349億13百万円増加し、9,409億96百万円となりました。

## 主要経営指標（連結）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
連結経常収益	60,966百万円	61,696百万円	60,805百万円	57,709百万円	55,799百万円
連結経常利益	9,304百万円	7,782百万円	9,330百万円	6,767百万円	7,246百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	5,976百万円	5,759百万円	5,081百万円	3,615百万円	5,376百万円
連結包括利益	8,012百万円	6,868百万円	△12,150百万円	15,389百万円	△3,416百万円
連結純資産額	196,359百万円	201,937百万円	188,568百万円	202,746百万円	198,072百万円
連結総資産額	3,220,162百万円	3,327,849百万円	3,393,016百万円	3,813,669百万円	4,310,569百万円
1株当たり純資産額	12,466.53円	12,818.82円	11,960.95円	12,855.45円	12,538.72円
1株当たり当期純利益	379.90円	366.12円	322.85円	229.62円	340.96円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	328.60円	316.23円	289.65円	228.47円	339.17円
連結自己資本比率 (国内基準)	10.77%	10.66%	10.76%	10.82%	10.76%
営業活動によるキャッシュ・フロー	△33,781百万円	67,364百万円	112,975百万円	341,521百万円	470,282百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	40,882百万円	△62,252百万円	842百万円	△165,663百万円	△34,183百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,130百万円	△1,333百万円	△12,190百万円	△1,256百万円	△1,190百万円
現金及び現金同等物の期末残高	226,127百万円	229,885百万円	331,493百万円	506,083百万円	940,996百万円
従業員数 〔外、平均臨時従業員数〕	1,883 [903]人	1,867 [844]人	1,856 [800]人	1,832 [755]人	1,767 [725]人

(注) 1 2017年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施いたしました。1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、2017年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算出しております。

2 連結自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は国内基準を採用しております。

# 連結財務諸表

本誌掲載の連結財務諸表は、会社法第396条第1項および金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツの監査証明を受けた連結財務諸表に基づいて作成しております。

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2020年度 (2021年3月31日)	2021年度 (2022年3月31日)
<b>(資産の部)</b>		
現金預け金	512,688	942,673
買入金銭債権	3,914	3,476
金銭の信託	19,946	16,931
有価証券	1,269,941	1,287,683
貸出金	1,906,882	1,972,040
外国為替	12,609	11,591
リース債権及びリース投資資産	15,822	16,538
その他資産	48,616	36,034
有形固定資産	30,459	29,575
建物	5,236	4,869
土地	20,530	20,569
リース資産	25	37
建設仮勘定	16	566
その他の有形固定資産	4,650	3,533
無形固定資産	1,084	895
ソフトウェア	970	784
その他の無形固定資産	113	111
退職給付に係る資産	11,488	9,887
繰延税金資産	965	4,413
支払承諾見返	8,196	8,098
貸倒引当金	△28,945	△29,270
資産の部合計	3,813,669	4,310,569
<b>(負債の部)</b>		
預金	3,195,807	3,360,080
譲渡性預金	99,082	97,809
コールマネー及び売渡手形	—	3,671
売現先勘定	—	16,827
債券貸借取引受入担保金	19,142	138,405
借入金	229,804	426,984
外国為替	35	45
その他負債	44,541	47,501
賞与引当金	1,119	1,136
退職給付に係る負債	6,725	6,602
役員退職慰労引当金	27	29
睡眠預金払戻損失引当金	1,383	1,116
繰延税金負債	736	11
再評価に係る繰延税金負債	4,319	4,174
支払承諾	8,196	8,098
負債の部合計	3,610,922	4,112,496
<b>(純資産の部)</b>		
資本金	19,598	19,598
資本剰余金	13,771	13,768
利益剰余金	143,043	147,390
自己株式	△2,254	△2,122
株主資本合計	174,159	178,634
その他有価証券評価差額金	18,093	9,141
繰延ヘッジ損益	471	1,673
土地再評価差額金	8,664	8,353
退職給付に係る調整累計額	1,025	△18
その他の包括利益累計額合計	28,255	19,149
新株予約権	266	220
非支配株主持分	65	67
純資産の部合計	202,746	198,072
負債及び純資産の部合計	3,813,669	4,310,569

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2020年度 (自 2020年4月 1日 至 2021年3月31日)	2021年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)
<b>経常収益</b>	<b>57,709</b>	<b>55,799</b>
資金運用収益	33,816	33,695
貸出金利息	21,241	20,859
有価証券利息配当金	12,431	12,182
コールローン利息及び買入手形利息	△0	0
預け金利息	137	653
その他の受入利息	5	0
役員取引等収益	9,113	9,086
その他業務収益	9,812	10,743
その他経常収益	4,967	2,274
償却債権取立益	0	0
その他の経常収益	4,967	2,273
<b>経常費用</b>	<b>50,942</b>	<b>48,553</b>
資金調達費用	542	489
預金利息	255	165
譲渡性預金利息	124	86
コールマネー利息及び売渡手形利息	—	9
売現先利息	68	21
債券貸借取引支払利息	39	108
借入金利息	35	18
その他の支払利息	19	79
役員取引等費用	2,300	2,255
その他業務費用	14,120	16,448
営業経費	29,019	27,186
その他経常費用	4,958	2,173
貸倒引当金繰入額	3,622	1,180
その他の経常費用	1,336	993
<b>経常利益</b>	<b>6,767</b>	<b>7,246</b>
<b>特別利益</b>	<b>87</b>	<b>184</b>
固定資産処分益	87	184
<b>特別損失</b>	<b>530</b>	<b>468</b>
固定資産処分損	75	144
減損損失	454	324
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>6,323</b>	<b>6,962</b>
法人税、住民税及び事業税	3,139	1,851
法人税等調整額	△433	△268
法人税等合計	2,706	1,583
<b>当期純利益</b>	<b>3,617</b>	<b>5,379</b>
非支配株主に帰属する当期純利益	2	3
親会社株主に帰属する当期純利益	3,615	5,376

## 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2020年度 (自 2020年4月 1日 至 2021年3月31日)	2021年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)
<b>当期純利益</b>	<b>3,617</b>	<b>5,379</b>
<b>その他の包括利益</b>	<b>11,772</b>	<b>△8,795</b>
その他有価証券評価差額金	7,198	△8,953
繰延ヘッジ損益	1,064	1,202
退職給付に係る調整額	3,508	△1,043
<b>包括利益</b>	<b>15,389</b>	<b>△3,416</b>
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	15,383	△3,418
非支配株主に係る包括利益	6	1

## 連結株主資本等変動計算書

2020年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	19,598	13,778	140,394	△2,279	171,491	10,899	△593	8,958	△2,483	16,780	237	59	188,568
当期変動額													
剰余金の配当			△1,259		△1,259								△1,259
親会社株主に帰属する当期純利益			3,615		3,615								3,615
自己株式の取得				△3	△3								△3
自己株式の処分		△6		28	21								21
土地再評価差額金の取崩			293		293								293
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						7,194	1,064	△293	3,508	11,474	28	6	11,509
当期変動額合計	-	△6	2,649	25	2,668	7,194	1,064	△293	3,508	11,474	28	6	14,177
当期末残高	19,598	13,771	143,043	△2,254	174,159	18,093	471	8,664	1,025	28,255	266	65	202,746

2021年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	19,598	13,771	143,043	△2,254	174,159	18,093	471	8,664	1,025	28,255	266	65	202,746
会計方針の変更による累積的影響額			△41		△41								△41
会計方針の変更を反映した当期首残高	19,598	13,771	143,002	△2,254	174,117	18,093	471	8,664	1,025	28,255	266	65	202,705
当期変動額													
剰余金の配当			△1,260		△1,260								△1,260
親会社株主に帰属する当期純利益			5,376		5,376								5,376
自己株式の取得				△2	△2								△2
自己株式の処分		△41		135	93								93
土地再評価差額金の取崩			310		310								310
利益剰余金から資本剰余金への振替		38	△38		-								-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△8,952	1,202	△310	△1,043	△9,105	△45	1	△9,149
当期変動額合計	-	△3	4,387	132	4,516	△8,952	1,202	△310	△1,043	△9,105	△45	1	△4,632
当期末残高	19,598	13,768	147,390	△2,122	178,634	9,141	1,673	8,353	△18	19,149	220	67	198,072

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2020年度 〔自 2020年4月1日 至 2021年3月31日〕	2021年度 〔自 2021年4月1日 至 2022年3月31日〕
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	6,323	6,962
減価償却費	1,878	1,662
減損損失	454	324
貸倒引当金の増減(△)	2,946	324
賞与引当金の増減額(△は減少)	9	17
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	670	△44
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△42	21
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	3	1
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	△374	△266
資金運用収益	△33,816	△33,695
資金調達費用	542	489
有価証券関係損益(△)	1,717	5,330
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	△63	68
為替差損益(△は益)	12	△4
固定資産処分損益(△は益)	△11	△40
貸出金の純増(△)減	△74,196	△65,158
預金の純増減(△)	284,719	164,272
譲渡性預金の純増減(△)	△2,064	△1,272
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	130,087	197,180
預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減	△1,054	4,928
コールローン等の純増(△)減	△677	437
コールマネー等の純増減(△)	—	3,671
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	10,624	119,263
外国為替(資産)の純増(△)減	△4,247	1,017
外国為替(負債)の純増減(△)	△151	9
リース債権及びリース投資資産の純増(△)減	455	△715
資金運用による収入	33,933	33,736
資金調達による支出	△725	△547
その他	△10,964	35,385
小計	345,991	473,359
法人税等の還付額	8	—
法人税等の支払額	△4,478	△3,077
営業活動によるキャッシュ・フロー	341,521	470,282
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△473,576	△492,940
有価証券の売却による収入	121,993	229,858
有価証券の償還による収入	189,559	226,464
金銭の信託の増加による支出	△3,060	△53
金銭の信託の減少による収入	994	2,971
有形固定資産の取得による支出	△1,819	△1,234
無形固定資産の取得による支出	△244	△138
有形固定資産の売却による収入	510	887
資産除去債務の履行による支出	△20	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△165,663	△34,183
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,259	△1,259
リース債務の返済による支出	△15	△21
自己株式の取得による支出	△3	△2
自己株式の売却による収入	21	93
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,256	△1,190
現金及び現金同等物に係る換算差額	△12	4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	174,589	434,913
現金及び現金同等物の期首残高	331,493	506,083
現金及び現金同等物の期末残高	506,083	940,996

## 注記事項

### 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### 1 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社 8社  
 大銀ビジネスサービス株式会社  
 大銀オフィスサービス株式会社  
 大分リース株式会社  
 大分保証サービス株式会社  
 株式会社大分カード  
 大銀コンピュータサービス株式会社  
 株式会社大銀経済経営研究所  
 大分ベンチャーキャピタル株式会社
- (2) 非連結子会社 7社  
 おおいた自然エネルギーファンド投資事業有限責任組合  
 おおいたPORTAファンド投資事業有限責任組合  
 おおいた中小企業成長ファンド投資事業有限責任組合  
 おおいた農業法人育成ファンド投資事業有限責任組合  
 おおいたブリッジファンド投資事業有限責任組合  
 大分VCサクセスファンド6号投資事業有限責任組合  
 おおいた中小企業支援4号ファンド投資事業有限責任組合  
 非連結子会社は、その資産、経常収益、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

#### 2 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用の非連結子会社  
 該当ありません。
- (2) 持分法適用の関連会社  
 該当ありません。
- (3) 持分法非適用の非連結子会社 7社  
 おおいた自然エネルギーファンド投資事業有限責任組合  
 おおいたPORTAファンド投資事業有限責任組合  
 おおいた中小企業成長ファンド投資事業有限責任組合  
 おおいた農業法人育成ファンド投資事業有限責任組合  
 おおいたブリッジファンド投資事業有限責任組合  
 大分VCサクセスファンド6号投資事業有限責任組合  
 おおいた中小企業支援4号ファンド投資事業有限責任組合  
 持分法非適用の非連結子会社は、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除外しております。
- (4) 持分法非適用の関連会社  
 該当ありません。

#### 3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は次のとおりであります。  
 3月末日 8社

#### 4 会計方針に関する事項

- (1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法  
 商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）により行っております。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法  
 ①有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券については時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。  
 なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
- ②有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。
- (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法  
 デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
- (4) 固定資産の減価償却の方法  
 ①有形固定資産（リース資産を除く）  
 当行の有形固定資産は、定率法を採用しております。  
 また、主な耐用年数は次のとおりであります。
- |     |        |
|-----|--------|
| 建 物 | 5年～31年 |
| その他 | 5年～20年 |
- 連結子会社の有形固定資産は、主として定率法により償却しております。

#### ②無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

#### ③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

#### (5) 貸倒引当金の計上基準

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 2020年10月8日）に規定する各債務者区分の債権については、以下のとおりです。

正常先債権及び要管理先以外の要注意先債権については今後1年間の予想損失額を見込んで計上し、要管理先債権については今後3年間の予想損失額を見込んで計上しております。

破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額に対して今後3年間の予想損失額を見込んで計上しております。

予想損失額は、過去の一定期間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の平均値に基づき将来見込みに応じて、より実態を反映する算定期間に基づいて算定するなどの修正を加えた予想損失率によって算定しております。

破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

なお、破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者等と与信額が一定額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

連結子会社の貸倒引当金は、自己査定結果に基づき、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

#### (6) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

#### (7) 役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、連結子会社において役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

#### (8) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金の預金者からの払戻請求に備えるため、過去の支払実績等を勘案して必要と認められた額を計上しております。

#### (9) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

#### 過去勤務費用

その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により損益処理

#### 数理計算上の差異

各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により投分した額を、それぞれ発生の日翌連結会計年度から損益処理

- (10) 重要な収益の計上方法  
 当行グループの顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。  
 役務取引等収益  
 役務取引等収益は、預金・貸出業務、為替業務及び証券関連業務等に関する事務手数料等であり、顧客との契約に基づきサービスを提供する義務があります。これらの取引は、サービスの提供が完了した時点をもって履行義務が充足されるとし収益を認識しております。
- (11) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準  
 外貨建資産・負債は、連結決算日の為替相場による円換算額を付けております。
- (12) リース取引の処理方法  
 (貸手側)  
 ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準は、リース料受取時にその他業務収益とその他業務費用を計上する方法によっております。
- (13) 重要なヘッジ会計の方法  
 金利リスク・ヘッジ  
 当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日）。以下、「業種別委員会実務指針第24号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる貸出金及びその他有価証券（債券）とヘッジ手段である金利スワップ取引を一定の（残存）期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。  
 連結子会社はヘッジ会計を行っておりません。
- (14) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲  
 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。
- (15) 消費税等の会計処理  
 当行の有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用に計上しております。

#### 重要な会計上の見積り

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結財務諸表にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

- 貸倒引当金
- (1) 当連結会計年度に係る連結財務諸表に計上した額  
 貸倒引当金 29,270百万円
- (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報
- ①算出方法  
 債務者区分は、債務者の財政状態及び経営成績並びに将来の事業計画等を基礎として決定し、その債務者区分に応じて貸倒引当金を計上しております。  
 各債務者区分の債権に関する具体的な貸倒引当金の算出方法は、「連結財務諸表 注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）4 会計方針に関する事項（5）貸倒引当金の計上基準」に記載しております。
- ②主要な仮定  
 主要な仮定は、債務者の将来の事業計画の合理性の評価であり、債務者区分決定の基礎としております。事業計画の合理性の評価には、当該計画の達成可能性を考慮しております。  
 なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う経済への影響については、当連結会計年度末においても当感染症の収束が見通せない状況にあることから、翌連結会計年度以降も継続するものと想定しております。このような状況下において、現時点で見積りに影響を及ぼす入手可能な情報を考慮して債務者区分を決定しております。当該仮定は、前連結会計年度から重要な変更はありません。
- ③翌連結会計年度に係る連結財務諸表に及ぼす影響  
 債務者区分及び新型コロナウイルス感染症の状況や経済への影響等に用いた仮定が変化した場合には、貸倒引当金残高が変動し、損益に影響を及ぼす可能性があります。

#### 会計方針の変更

##### 1 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。）等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、当行及び連結子会社は、従来一時点で収益を計上していた役務取引の一部について、履行義務の充足をもって収益を計上するように変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当連結会計年度の経常収益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ1百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は41百万円減少しております。

当連結会計年度の1株当たり純資産額は2円74銭減少、1株当たり当期純利益は10銭減少、潜在株式調整後1株当たり当期純利益は9銭減少しております。

##### 2 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下、「時価算定会計基準」という。）等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、連結財務諸表に与える影響はありません。

また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うことといたしました。

##### 未適用の会計基準等

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）

- (1) 概要  
 投資信託の時価の算定及び注記に関する取扱い並びに貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合等への出資の時価の注記に関する取扱いが定められました。
- (2) 適用予定日  
 2023年3月期の期首より適用予定であります。
- (3) 当該会計基準等の適用による影響  
 影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

##### 連結貸借対照表関係

- ※1 非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額  
 出資金 2,684百万円
- ※2 無担保の債券貸借取引により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。  
 38,395百万円
- ※3 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、連結貸借対照表の「有価証券」中の社債（その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）によるものに限る。）、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は賃貸借契約によるものに限る。）であります。
- |                    |           |
|--------------------|-----------|
| 破産更生債権及びこれらに準ずる債権額 | 5,192百万円  |
| 危険債権額              | 45,167百万円 |
| 三月以上延滞債権額          | 一百万円      |
| 貸出条件緩和債権額          | 205百万円    |
| 合計額                | 50,566百万円 |
- 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。
- 三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。  
(表示方法の変更)  
「銀行法施行規則等の一部を改正する内閣府令」(2020年1月24日 内閣府令第3号)が2022年3月31日から施行されたことに伴い、銀行法の「リスク管理債権」の区分等を、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく開示債権の区分等に合わせて表示しております。

※4 手形割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

担保に供している資産	4,569百万円
担保に供している資産	
有価証券	576,080百万円
貸出金	97,823百万円
計	673,903百万円

担保資産に対応する債務

預金	19,161百万円
売現先勘定	16,827百万円
債券貸借取引受入担保金	138,405百万円
借入金	421,000百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

有価証券等 37,334百万円  
また、その他資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金 373百万円

※6 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	668,522百万円
うち原契約期間が1年以内のもの	
又は任意の時期に無条件で取消可能なもの	657,613百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内(社内)手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

※7 土地の再評価に関する法律(1998年3月31日公布法律第34号)に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 1998年3月31日  
同法律第3条第3項に定める再評価の方法  
土地の再評価に関する法律施行令(1998年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額に基づいて、実行価格補正等合理的な調整を行って算出。

同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額 9,210百万円

※8 有形固定資産の減価償却累計額 37,015百万円

※9 有形固定資産の圧縮記帳額 1,660百万円  
圧縮記帳額 (当連結会計年度の圧縮記帳額) (-百万円)

※10 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額 11,468百万円

連結損益計算書関係

- ※1 その他の経常収益には、次のものを含んでおります。  
株式等売却益 1,728百万円
- ※2 営業経費には、次のものを含んでおります。  
給料・手当 12,321百万円
- ※3 その他の経常費用には、次のものを含んでおります。  
株式等売却損 388百万円  
株式等償却 436百万円
- ※4 減損損失

廃止の意思決定等により投資額の回収が見込めなくなったため、県内外の営業用店舗等について324百万円の減損損失を計上しております。

上記、減損損失の固定資産の種類ごとの内訳は、その他の有形固定資産324百万円(所有土地265百万円、所有建物58百万円)であります。

稼働資産については、管理会計上の最小区分である営業店単位(ただし、県内においては連携して営業を行っているためブロック単位)をグルーピングの単位として取り扱っております。

また、遊休資産及び売却予定資産については、各々独立した単位として取り扱っております。

回収可能価額は、正味売却価額と使用価値のいずれか高い金額としております。正味売却価額は資産又は資産グループの不動産鑑定価額等からその処分費用見込額を控除して算定し、使用価値は将来キャッシュ・フロー見積額を7.9~9.6%で割り引いて算定しております。

連結包括利益計算書関係

- ※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額
- |              |            |
|--------------|------------|
| その他有価証券評価差額金 |            |
| 当期発生額        | △18,043百万円 |
| 組替調整額        | 4,992百万円   |
| 税効果調整前       | △13,051百万円 |
| 税効果額         | 4,097百万円   |
| その他有価証券評価差額金 | △8,953百万円  |
| 繰延ヘッジ損益      |            |
| 当期発生額        | 1,649百万円   |
| 組替調整額        | 78百万円      |
| 税効果調整前       | 1,728百万円   |
| 税効果額         | △526百万円    |
| 繰延ヘッジ損益      | 1,202百万円   |
| 退職給付に係る調整額   |            |
| 当期発生額        | △1,418百万円  |
| 組替調整額        | △82百万円     |
| 税効果調整前       | △1,501百万円  |
| 税効果額         | 457百万円     |
| 退職給付に係る調整額   | △1,043百万円  |
| その他の包括利益合計   | △8,795百万円  |

連結株主資本等変動計算書関係

- 1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項(単位:千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計 年度末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	16,243	—	—	16,243	
合計	16,243	—	—	16,243	
自己株式					
普通株式	498	1	29	469(注)1、2	
合計	498	1	29	469	

- (注) 1 自己株式の増加1千株は、単元未満株式の買取によるものであります。
- 2 自己株式の減少29千株は、ストック・オプションの権利行使(29千株)によるものであります。

- 2 新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる 株式の数(株)			当連結 会計 年度末 残高 (百万円)	摘要
			当連結 会計 年度期首	当連結 会計年度 増加	当連結 会計年度 減少		
当行	ストック・オプション としての 新株予約権		—			220	
合計			—			220	

3 配当に関する事項

(1) 当連結会計年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力 発生日
2021年6月24日 定時株主総会	普通株式	629	40.00	2021年 3月31日	2021年 6月25日
2021年11月8日 取締役会	普通株式	630	40.00	2021年 9月30日	2021年 12月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力 発生日
2022年6月23日 定時株主総会	普通株式	630	利益 剰余金	40.00	2022年 3月31日	2022年 6月24日

連結キャッシュ・フロー計算書関係

※ 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定	942,673百万円
預け金 (日銀預け金を除く)	△1,676百万円
現金及び現金同等物	940,996百万円

リース取引関係

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引  
(貸手側)

リース投資資産の内訳、リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の金額の回収期日別内訳につきましては、未経過リース料及び見積残存価額の合計額の連結会計年度末残高が当該連結会計年度末残高及び営業債権の連結会計年度末残高の合計額に占める割合が低いと、記載を省略しております。

金融商品関係

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当行は、預金の受入れ、資金の貸付又は手形の割引、有価証券の引受けや売買等の金融商品の取扱いを主たる業務としており、金利変動を伴う金融資産及び金融負債を多額に有しております。そのため、金利変動による不利な影響が生じないようALM (資産負債総合管理) を実施し、その一環として、デリバティブ取引も行っております。

また、連結子会社には、リース業務やクレジットカード業務などの金融商品の取扱いを主たる業務としている子会社があります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当行及び連結子会社が保有する金融資産の主なもののうち、貸出金は、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。また、有価証券及び投資有価証券は、満期保有目的、純投資目的及び事業推進目的で保有しておりますが、それぞれ発行体の信用リスク、金利変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。金融負債の主なもののうち、預金や借入金は、一定の環境の下では市場を利用できなくなる場合など、支払期日にその支払いを実行できなくなる流動性リスクに晒されております。

デリバティブ取引のうち、金利関連の金利スワップ取引は、ALMによるリスクヘッジの目的で行っております。主に将来の金利変動リスクに備えて、貸出金、債券等をヘッジ対象として受取変動・支払固定及び受取固定・支払変動の金利スワップ取引をヘッジ手段として行っております。

通貨関連の通貨スワップ取引、為替予約取引及びクーポンスワップ取引は、主に外貨建債権債務の為替相場変動リスク回避のためのヘッジ目的で行っております。

債券関連の債券先物取引は、主に自己売買業務として行っております。

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、業種別委員会実務指針第24号に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の(残存) 期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。

なお、連結子会社においては、デリバティブ取引を行っておりません。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当行は、「信用リスク管理方針」及び「信用リスク管理規程」等諸規程に従い、貸出業務に限らず、市場取引やオフバランス資産を含めた、銀行業務に係る全ての信用リスクを管理対象として、個別案件ごとの与信審査、与信限度額管理、信用情報管理、内部格付制度、経営改善支援や延滞管理・債権回収等問題債権への対応など信用管理に関する態勢を整備し運営しております。また、連結子会社においても、各社の信用リスク管理規程等諸規程に従って、信用リスクを適切に管理する態勢を整備し運営しております。

これらの信用リスク管理は、当行及び連結子会社の信用リスク管理部署 (審査部署、与信管理部署、問題債権の管理部署など) において行われ、信用リスクの状況や問題点等は信用リスク管理の統括部署である当行のリスク統括部が一体として管理しております。

なお、与信審査については、リスク統括部及び各信用リスク管理部署における信用リスク管理状況の適切性について、監査部署が監査を行う態勢としております。

②市場リスクの管理

当行は、「市場リスク管理方針」及び「市場リスク管理規程」に基づき、預貸金取引、市場取引及びオフバランス取引を含めた全ての市場リスクを管理対象として、市場リスク管理に関する態勢を整備し運営しております。預貸金に係る市場リスク管理についてはALM部署、市場取引に係る市場リスク管理については市場関連部署を中心に管理を行っております。市場リスク管理の統括部署であるリスク統括部はモニタリングを実施し、リスク量の状況、ストレステストの実施結果等についてリスク管理委員会に報告を行っております。また、連結子会社においても、各社のリスクプロファイルに応じて市場リスク管理方針・規程等を含め、市場リスクを適切に管理する態勢を整備し運営しております。

これらの市場リスク管理は、当行及び連結子会社の市場リスク管理部署において行われ、市場リスクの状況や問題点等は市場リスク管理の統括部署である当行のリスク統括部に管理しております。

なお、市場リスク管理の監査については、リスク統括部及び各市場リスク管理部署における市場リスク管理態勢の整備状況等の適切性について、監査部署が監査を行う態勢としております。

(市場リスクに係る定量的情報)

当行において主要なリスク変数である金利リスク及び価格変動リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「貸出金」、「有価証券 (満期保有目的の債券及びその他有価証券)」、「預金及び譲渡性預金」、「デリバティブ取引」のうちの金利スワップ取引等であります。

これらの金融資産及び金融負債について、統計学的手法により一定期間 (詳細は後述保有期間参照) 後の損失額を推計して市場リスク量とし、金利及び価格変動リスクの管理にあつたての定量的分析に利用しております。当該損失額の推計にはVaRを使用しております。

VaRの算出には、ヒストリカル・シミュレーション法を採用しております。前提条件は、観測期間1,250営業日、信頼区間99%、保有期間は政策投資株式のみ125営業日とし、それ以外は60営業日としております。

2022年3月31日現在で当行の主たる金融商品の市場リスク量 (損失の推計値) は、29,946百万円であり、内訳は、有価証券24,730百万円、預貸金等 (有価証券以外) 5,215百万円となっております。

当行では、モデルが算出するVaRと実際の損益を比較するバックテストを実施しております。2021年度に関して実施したバックテストの結果、使用する計測モデルは十分な精度により市場リスクを捕捉しているものと考えられます。

但し、VaR計測は統計的な仮定に基づいて算定したものであり、前提条件や算定方法等によって異なる値となる点や最大損失額の予測を意図するものではない点、及び将来の市場の状況は過去とは大幅に異なることがある点に注意を要します。

なお、金額等から影響が軽微な一部の金融商品及び連結子会社の金融商品につきましては、定量的分析を実施しておりません。

③流動性リスクの管理

当行は、「流動性リスク管理方針」及び「流動性リスク管理規程」に基づき、流動性リスクの管理を行っております。日常的には、市場金融部で資金繰り管理が行われ、管理部署であるリスク統括部はモニタリングを実施し、その状況や支払準備資産等の状況、ストレステストの実施結果等についてリスク管理委員会に報告を行っております。

なお、流動性リスク管理の監査については、リスク統括部及び各流動性リスク管理部署における流動性リスク管理態勢の整備状況等の適切性について、監査部署が監査を行う態勢としております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金は、次表には含めておりません（注1）参照。また、現金預け金及び債券貸借取引受入担保金等は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位：百万円)

	連結貸借 対照表計上額	時 価	差 額
(1) 有価証券			
満期保有目的の債券	59,817	59,289	△528
その他有価証券	1,215,037	1,215,037	—
(2) 貸出金	1,972,040		
貸倒引当金（*1）	△24,872		
	1,947,167	1,948,559	1,391
資産計	3,222,022	3,222,886	863
(1) 預金	3,360,080	3,360,160	79
(2) 譲渡性預金	97,809	97,823	13
(3) 借入金	426,984	426,957	△27
負債計	3,884,875	3,884,941	66
デリバティブ取引（*2）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(12,356)	(12,356)	—
ヘッジ会計が適用されているもの（*3）	2,855	2,855	—
デリバティブ取引計	(9,500)	(9,500)	—

(\*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金（3,405百万円）及び個別貸倒引当金（21,467百万円）を控除しております。

(\*2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で表示しております。

(\*3) ヘッジ対象である有価証券等のヘッジ手段として指定した金利スワップ等であり、繰延ヘッジを適用しております。なお、これらのヘッジ関係に、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」（実務対応報告第40号 2022年3月17日）を適用しております。

(注1) 市場価格のない株式等及び組合出資金の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「その他有価証券」には含まれておりません。

(単位：百万円)

区分	2022年3月31日
非上場株式（*1）（*2）	2,134
組合出資金（*3）	10,694

(\*1) 非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(\*2) 当連結会計年度において、非上場株式の減損処理はありません。

(\*3) 組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日）第27項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預け金	910,181	—	—	—	—	—
有価証券（*1）						
満期保有目的の債券	—	1,500	38,500	—	9,755	10,000
うち国債	—	—	—	—	—	10,000
地方債	—	500	24,000	—	9,755	—
社債	—	1,000	14,500	—	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの	119,790	253,659	133,605	83,945	211,401	302,176
うち国債	—	19,000	—	—	87,000	131,500
地方債	13,360	77,437	44,836	47,783	34,330	34,467
社債	50,742	82,422	31,290	4,048	15,172	62,129
貸出金（*2）	475,144	334,128	255,455	174,188	186,776	505,985
合 計	1,505,117	589,287	427,561	258,134	407,933	818,161

(\*1) 有価証券は、元本についての償還予定額を記載しており、連結貸借対照表価額とは一致していません。

(\*2) 貸出金のうち、破綻懸念先以下に対する債権等、償還予定額が見込めない40,360百万円は含めておりません。

(注3) 借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預金（*）	3,142,419	168,905	47,448	1,084	221	—
譲渡性預金	97,293	516	—	—	—	—
借入金	243,238	75,722	108,023	—	—	—
合 計	3,482,951	245,144	155,472	1,084	221	—

(\*) 預金のうち、要求払預金については「1年以内」に含めて開示しております。

3 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：

観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：

観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：

観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

(単位：百万円)

区分	時 価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
有価証券				
その他有価証券				
国債	233,149	—	—	233,149
地方債	—	251,799	—	251,799
社債	—	234,404	11,348	245,752
株式	66,465	1,156	—	67,621
その他（*1）	43,894	114,155	49,652	207,702
資産計	343,509	601,516	61,001	1,006,026
デリバティブ取引（*2）				
金利関連	—	2,855	—	2,855
通貨関連	—	(12,356)	—	(12,356)
デリバティブ取引計	—	(9,500)	—	(9,500)

(\*1) 「時価の算定に関する会計基準の適用指針（企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日）第26項に定める経過措置を適用した投資信託については、上記表に含めておりません。連結貸借対照表における当該投資信託の金額は209,011百万円であります。

(\*2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で表示しております。

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券				
満期保有目的の債券				
国債	9,564	—	—	9,564
地方債	—	34,226	—	34,226
社債	—	15,498	—	15,498
貸出金	—	—	1,948,559	1,948,559
資産計	9,564	49,725	1,948,559	2,007,848
預金	—	3,360,160	—	3,360,160
譲渡性預金	—	97,823	—	97,823
借入金	—	426,957	—	426,957
負債計	—	3,884,941	—	3,884,941

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

資産

有価証券

有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式及び国債がこれに含まれます。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債及び社債がこれに含まれます。

また、相場価格が入手できない自行保証付私募債は、内部格付、年限に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規発行を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しておりレベル3の時価に分類しております。

その他の公表された相場価格のない一部の有価証券については、外部業者（ブローカー等）より入手した相場価格の時価としており、それらに使用されたインプットに基づきレベル2又はレベル3の時価に分類しております。

貸出金

貸出金については、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を市場金利に信用リスク等を反映させた割引率で割り引いて時価を算定しております。このうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない場合は時価と帳簿価額が近似していることから、帳簿価額を時価としております。また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似していることから、当該価額を時価としております。当該時価はレベル3の時価に分類しております。

負債

預金、及び譲渡性預金

要求払預金については、連結決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間（3ヵ月以内）のものは、時価が帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当行及び連結子会社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、約定期間が短期間（3ヵ月以内）のものは、時価が帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

デリバティブ取引

取引所取引については、取引所等における最終の価格をもって時価としておりレベル1の時価に分類しております。店頭取引については、金利、外国為替相場等のインプットを用いて、将来キャッシュ・フローの現在価値等により算定した価額をもって時価としておりレベル2の時価に分類しております。

(注2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル3の時価に関する情報

(1) 重要な観察できないインプットに関する定量的情報

区分	評価技法	重要な観察できないインプット	インプットの範囲	インプットの加重平均
有価証券				
その他有価証券				
社債（自行保証付私募債）	現在価値技法（*）	割引率	0.3~1.6%	0.7%

(\*) 破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する社債については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定し、社債価額から当該貸倒見積高を控除した額を時価としております。

(2) 期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益

(単位：百万円)

区分	期首残高	当期の損益又はその他の包括利益		購入、売却、発行及び決済の純額	レベル3の時価への振替（*3）	レベル3の時価からの振替（*4）	期末残高	当期の損益に計上した額のうち連結貸借対照表日において保有する金融資産及び金融負債の評価損益（*1）
		損益に計上（*1）	その他の包括利益に計上（*2）					
有価証券								
その他有価証券								
社債	11,849	△47	△35	△418	—	—	11,348	—
その他	72,234	2,266	△640	△466	—	△23,740	49,652	△3

(\*1) 連結損益計算書の「その他業務収益」及び「その他業務費用」に含まれております。

(\*2) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

(\*3) レベル2の時価からレベル3の時価への振替であり、時価の算定に使用しているインプットの観察可能性の変化によるものであります。当該振替は会計期間の末日に行っております。

(\*4) レベル3の時価からレベル2の時価への振替であり、時価の算定に使用しているインプットの観察可能性の変化によるものであります。当該振替は会計期間の末日に行っております。

(3) 時価の評価プロセスの説明

当行グループでは、バック部門及びミドル部門にて時価の算定に関する方針、手続及び時価評価モデルの使用に係る手続を定めており、これに沿って各部門が時価を算定しております。算定された時価は、独立した評価部門において、時価の算定に用いられた評価技法及びインプットの妥当性並びに時価のレベルの分類の適切性を検証しております。なお、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

(4) 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

割引率

割引率は、スワップ・レートなどの基準市場金利に対する調整率であり、主に信用リスクから生じる金融商品のキャッシュ・フローの不確実性に対し市場参加者が必要とする報酬額であるリスク・プレミアムから構成されております。一般的に、割引率の著しい上昇（低下）は、時価の著しい下落（上昇）を生じさせることとなります。

退職給付関係

1 採用している退職給付制度の概要

当行は、確定給付型の制度として、企業年金基金制度及び退職一時金制度を設けており、連結子会社は退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

また、当行において退職給付信託を設定しております。

なお、連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

区分	金額 (百万円)
退職給付債務の期首残高	33,165
勤務費用	1,013
利息費用	197
数理計算上の差異の発生額	△213
退職給付の支払額	△1,551
過去勤務費用の発生額	—
その他	—
退職給付債務の期末残高	32,611

(注) 簡便法を適用した連結子会社の制度の金額を含めて記載しております。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

区分	金額 (百万円)
年金資産の期首残高	37,928
期待運用収益	474
数理計算上の差異の発生額	△1,631
事業主からの拠出額	—
退職給付の支払額	△874
退職給付信託の設定	—
その他	—
年金資産の期末残高	35,896

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

区分	金額 (百万円)
積立型制度の退職給付債務	32,351
年金資産	△35,896
	△3,545
非積立型制度の退職給付債務	260
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△3,285

区分	金額 (百万円)
退職給付に係る負債	6,602
退職給付に係る資産	△9,887
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△3,285

(注) 簡便法を適用した連結子会社の制度の金額を含めて記載しております。

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

区分	金額 (百万円)
勤務費用 (注)	1,013
利息費用	197
期待運用収益	△474
数理計算上の差異の費用処理額	△82
過去勤務費用の費用処理額	—
その他	—
確定給付制度に係る退職給付費用	653

(注) 簡便法を適用した連結子会社の退職給付費用は、一括して「勤務費用」に含めて計上しております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目 (税効果控除前) の内訳は次のとおりであります。

区分	金額 (百万円)
過去勤務費用	—
数理計算上の差異	△1,501
その他	—
合計	△1,501

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目 (税効果控除前) の内訳は次のとおりであります。

区分	金額 (百万円)
未認識過去勤務費用	—
未認識数理計算上の差異	27
その他	—
合計	27

(7) 年金資産に関する事項

①年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	15%
株式	42%
現金及び預金	0%
その他	43%
合計	100%

(注) 年金資産合計には、企業年金制度及び退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が当連結会計年度32%含まれております。

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎 (加重平均で表しております。)

- ①割引率 0.6%
- ②長期期待運用収益率 1.7% (退職給付信託は0.4%)
- ③予想昇給率 6.7%

ストック・オプション等関係

1 スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

営業経費 47百万円

2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	2012年 ストック・オプション	2013年 ストック・オプション	2014年 ストック・オプション	2015年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当行取締役 (社外取締役を除く) 9名	当行取締役 (社外取締役を除く) 10名	当行取締役 (非常勤取締役を除く) 8名 執行役員 8名	当行取締役 (非常勤取締役を除く) 7名 執行役員 7名
株式の種類別のストック・オプションの付与数 (注)	当行普通株式 17,970株	当行普通株式 14,480株	当行普通株式 16,210株	当行普通株式 10,670株
付与日	2012年8月6日	2013年8月19日	2014年8月18日	2015年8月17日
権利確定条件	権利確定条件は定めていない。	権利確定条件は定めていない。	権利確定条件は定めていない。	権利確定条件は定めていない。
対象勤務期間	対象勤務期間は定めていない。	対象勤務期間は定めていない。	対象勤務期間は定めていない。	対象勤務期間は定めていない。
権利行使期間	2012年8月7日～2042年8月6日	2013年8月19日～2043年8月19日	2014年8月19日～2044年8月18日	2015年8月18日～2045年8月17日
付与対象者の区分及び人数	当行取締役 (非常勤取締役を除く) 7名 執行役員 7名	当行取締役 (非常勤取締役を除く) 7名 執行役員 7名	当行取締役 (非常勤取締役を除く) 7名 執行役員 7名	当行取締役 (非常勤取締役を除く) 6名 執行役員 6名
株式の種類別のストック・オプションの付与数 (注)	当行普通株式 18,300株	当行普通株式 12,100株	当行普通株式 14,380株	当行普通株式 15,350株
付与日	2016年8月22日	2017年8月28日	2018年8月27日	2019年8月26日
権利確定条件	権利確定条件は定めていない。	権利確定条件は定めていない。	権利確定条件は定めていない。	権利確定条件は定めていない。
対象勤務期間	対象勤務期間は定めていない。	対象勤務期間は定めていない。	対象勤務期間は定めていない。	対象勤務期間は定めていない。
権利行使期間	2016年8月23日～2046年8月22日	2017年8月29日～2047年8月28日	2018年8月28日～2048年8月27日	2019年8月27日～2049年8月26日
付与対象者の区分及び人数	2020年 ストック・オプション	2021年 ストック・オプション	当行取締役 (監査等委員である取締役及び社外取締役を除く) 5名 執行役員 8名	
株式の種類別のストック・オプションの付与数 (注)	当行普通株式 23,610株	当行普通株式 31,450株		
付与日	2020年8月24日	2021年8月23日		
権利確定条件	権利確定条件は定めていない。	権利確定条件は定めていない。		
対象勤務期間	対象勤務期間は定めていない。	対象勤務期間は定めていない。		
権利行使期間	2020年8月25日～2050年8月24日	2021年8月24日～2051年8月23日		

(注) 2017年10月1日付株式併合 (10株につき1株の割合) による併合後の株式数に換算して記載しております。

- (2) ストック・オプションの規模及びその変動状況  
当連結会計年度（2022年3月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。なお、2017年10月1日付株式併合（10株につき1株の割合）による併合後の株式数に換算して記載しております。

①ストック・オプションの数

	2012年 ストック・オプション	2013年 ストック・オプション	2014年 ストック・オプション	2015年 ストック・オプション
権利確定前（株）				
前連結会計年度末	3,000	3,720	5,390	5,890
付与	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
権利確定	3,000	2,260	3,470	2,660
未確定残	—	1,460	1,920	3,230
権利確定後（株）				
前連結会計年度末	—	—	—	—
権利確定	3,000	2,260	3,470	2,660
権利行使	3,000	2,260	3,470	2,660
失効	—	—	—	—
未行使残	—	—	—	—

	2016年 ストック・オプション	2017年 ストック・オプション	2018年 ストック・オプション	2019年 ストック・オプション
権利確定前（株）				
前連結会計年度末	11,710	9,080	10,800	14,030
付与	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
権利確定	4,570	2,370	2,810	3,670
未確定残	7,140	6,710	7,990	10,360
権利確定後（株）				
前連結会計年度末	—	—	—	—
権利確定	4,570	2,370	2,810	3,670
権利行使	4,570	2,370	2,810	3,670
失効	—	—	—	—
未行使残	—	—	—	—

	2020年 ストック・オプション	2021年 ストック・オプション
権利確定前（株）		
前連結会計年度末	23,610	—
付与	—	31,450
失効	—	—
権利確定	5,060	—
未確定残	18,550	31,450
権利確定後（株）		
前連結会計年度末	—	—
権利確定	5,060	—
権利行使	5,060	—
失効	—	—
未行使残	—	—

②単価情報

	2012年 ストック・オプション	2013年 ストック・オプション	2014年 ストック・オプション	2015年 ストック・オプション
権利行使価格	1株当たり 1円	1株当たり 1円	1株当たり 1円	1株当たり 1円
行使時平均株価	1,688円	1,688円	1,686円	1,687円
付与日における公正な評価単価	1株当たり 2,150円	1株当たり 2,790円	1株当たり 3,590円	1株当たり 5,210円

	2016年 ストック・オプション	2017年 ストック・オプション	2018年 ストック・オプション	2019年 ストック・オプション
権利行使価格	1株当たり 1円	1株当たり 1円	1株当たり 1円	1株当たり 1円
行使時平均株価	1,687円	1,692円	1,692円	1,693円
付与日における公正な評価単価	1株当たり 2,950円	1株当たり 3,910円	1株当たり 3,632円	1株当たり 2,819円

	2020年 ストック・オプション	2021年 ストック・オプション
権利行使価格	1株当たり 1円	1株当たり 1円
行使時平均株価	1,693円	—
付与日における公正な評価単価	1株当たり 2,143円	1株当たり 1,513円

- 3 ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法  
当連結会計年度において付与された2021年ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

- (1) 使用した評価技法 ブラック・ショールズ式  
(2) 主な基礎数値及び見積方法

	2021年ストック・オプション
株価変動性（注）1	33.6%
予想残存期間（注）2	3.5年
予想配当（注）3	1株当たり 80円
無リスク利率（注）4	△0.14%

- (注) 1 2018年2月12日の週から2021年8月16日の週末までの株価の実績に基づき、週次で算出してあります。  
2 就任から退任までの平均的な期間、就任から発行日までの期間などから割り出した発行日時点での予想在任期間の平均によって見積りしてあります。  
3 2021年3月期の配当実績  
4 予想残存期間に対応する国債の利回り  
4 ストック・オプションの権利確定数の見積方法  
基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

税効果会計関係

- 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	8,983百万円
退職給付に係る負債	2,150百万円
減価償却費	1,748百万円
その他	3,252百万円
繰延税金資産小計	16,134百万円
評価性引当額	△6,492百万円
繰延税金資産合計	9,642百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△2,989百万円
退職給付信託設定益	△1,448百万円
その他	△803百万円
繰延税金負債合計	△5,241百万円
繰延税金資産（負債）の純額	4,401百万円

2 連結財務諸表提出会社の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	30.5%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△1.6%
評価性引当額の増減	△8.6%
その他	1.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	22.7%

資産除去債務関係

金額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

賃貸等不動産関係

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

収益認識関係

1 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	調整額	合計
	銀行業	リース業	計			
役務取引等収益						
預金・貸出業務	2,745	0	2,745	967	—	3,713
為替業務	2,523	—	2,523	—	—	2,523
証券関連業務	1,626	—	1,626	—	—	1,626
代理業務	520	—	520	—	—	520
その他	618	—	618	—	—	618
役務取引等収益以外	104	—	104	614	—	718
顧客との契約から生じる経常収益	8,137	0	8,138	1,582	—	9,720
上記以外の経常収益	36,739	8,245	44,984	1,094	—	46,079
外部顧客に対する経常収益	44,877	8,245	53,123	2,676	—	55,799

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務等であり、
- 2 上記以外の経常収益には、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」に基づく収益や企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づく収益等が含まれております。
- 2 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4 会計方針に関する事項 (10) 重要な収益の計上方法」に記載のとおりであります。
- 3 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

- (1) 顧客との契約から生じた債権及び契約負債の残高等  
顧客との契約から生じた債権及び契約負債の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権 (期首残高)	306
顧客との契約から生じた債権 (期末残高)	314
契約負債 (期首残高)	83
契約負債 (期末残高)	90

顧客との契約から生じた債権は、主として顧客より受け取る役務取引等収益に対する債権のうち未収部分であります。契約負債は、顧客から受け取った役務取引等収益のうち前受部分であります。なお、契約負債は、役務取引等の提供に伴って履行義務は充足され、収益へと振替えられます。当連結会計年度に認識した収益のうち、期首の契約負債に含まれていた額は83百万円であります。

- (2) 残存履行義務に配分した取引価格  
当連結会計年度において、当初に予想される顧客との契約期間が1年を超える重要な契約がないため、収益認識会計基準第80-22項に定める取扱いにより当該注記を記載しておりません。

関連当事者情報

1 関連当事者との取引

- (1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引  
① 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主 (会社等の場合に限る。) 等  
該当事項はありません。
- ② 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等  
該当事項はありません。
- ③ 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等  
該当事項はありません。
- ④ 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主 (個人の場合に限る。) 等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	岡村邦彦	大分市	—	当行常務取締役	—	銀行取引	融資	30	貸出金	29

- (注) 1 取引条件及び取引条件の決定方針等  
一般取引と同様な条件で行っております。
- 2 岡村邦彦氏は2021年6月24日付で退任しておりますので、期末残高に代えて退任月の月末残高を記載しております。
- 3 取引金額は平均残高を記載しております。

- (2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引  
該当事項はありません。
- 2 親会社又は重要な関連会社に関する注記  
該当事項はありません。

1 株当たり情報

1 株当たり純資産額	12,538.72円
1 株当たり当期純利益	340.96円
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益	339.17円

(注) 1 1 株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額	198,072百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	288百万円
(うち新株予約権)	220百万円
(うち非支配株主持分)	67百万円
普通株式に係る期末の純資産額	197,784百万円

1 株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数

	15,773千株
--	----------

2 1 株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式数については、自己名義所有株式分を控除し算定しております。

3 1 株当たり当期純利益及び潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

1 株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益	5,376百万円
普通株主に帰属しない金額	—百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益	5,376百万円
普通株式の期中平均株式数	15,767千株

潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益

親会社株主に帰属する	—百万円
当期純利益調整額	—
普通株式増加数	83千株
うち新株予約権	83千株

希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要

重要な後発事象

(連結子会社の吸収合併)

共通支配下の取引等

1 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業内容

結合企業の名称	株式会社大分銀行
事業の内容	銀行業
被結合企業の名称	大銀ビジネスサービス株式会社
事業の内容	銀行業務に係る事務代行業

(2) 企業結合日

2022年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

当行を存続会社、大銀ビジネスサービス株式会社を消滅会社とする吸収合併方式

(4) 結合後企業の名称

株式会社大分銀行

(5) その他取引の概要に関する事項

当行グループにおける経営の効率化及び経営資源の有効活用を目的として、完全子会社である大銀ビジネスサービス株式会社を吸収合併したものであります。

2 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

# 連結リスク管理債権・セグメント情報

## 連結リスク管理債権

(単位：百万円)

		2020年度	2021年度
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	(a)	4,002	5,192
危険債権額	(b)	47,216	45,167
三月以上延滞債権額	(c)	—	—
貸出条件緩和債権額	(d)	525	205
合計	(e) = (a) + (b) + (c) + (d)	51,744	50,566
正常債権額	(f)	1,907,519	1,968,214
総与信残高	(g) = (e) + (f)	1,959,264	2,018,780
総与信残高に占める割合	(e) / (g)	2.64%	2.50%
貸倒引当金	(h)	28,945	29,270
引当率	(h) / (e)	55.93%	57.88%

(注) 「銀行法施行規則等の一部を改正する内閣府令」(2020年1月24日 内閣府令第3号)が2022年3月31日から施行されたことに伴い、銀行法の「リスク管理債権」の区分等を、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく開示債権の区分等に合わせて表示しております。

## セグメント情報等

### 【セグメント情報】

#### 1. 報告セグメントの概要

当行グループの報告セグメントは、当行グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当行グループは、当行における銀行業務を中心に、リース業務、クレジットカード業務などの金融サービス等に係る事業を行っております。

したがって、当行グループは上記の業務別のセグメントから構成されており、「銀行業」、「リース業」の2つを報告セグメントとしております。

#### 2. 報告セグメントごとの経常収益、利益、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、経常収益ベースの数字であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は、一般の取引価格に基づいております。

#### 3. 報告セグメントごとの経常収益、利益、資産その他の項目の金額に関する情報

2020年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	47,128	8,089	55,218	2,511	57,730	△21	57,709
セグメント間の内部経常収益	240	152	392	511	904	△904	—
計	47,369	8,241	55,611	3,023	58,634	△925	57,709
セグメント利益	5,578	351	5,930	848	6,779	△11	6,767
セグメント資産	3,793,592	21,581	3,815,173	17,746	3,832,919	△19,250	3,813,669
その他の項目							
減価償却費	1,718	95	1,813	65	1,879	△1	1,878
資金運用収益	32,842	12	32,855	1,010	33,865	△49	33,816
資金調達費用	527	55	583	5	588	△45	542
減損損失	454	—	454	—	454	—	454
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	2,033	153	2,186	34	2,220	△0	2,219

(注) 1 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務等であります。

3 調整額は、次のとおりであります。

(1) 外部顧客に対する経常収益の調整額△21百万円は、貸倒引当金戻入益の調整であります。

(2) セグメント利益の調整額△11百万円は、セグメント間取引消去であります。

(3) セグメント資産の調整額△19,250百万円は、セグメント間取引消去であります。

(4) 減価償却費の調整額△1百万円は、セグメント間取引消去であります。

(5) 資金運用収益の調整額△49百万円は、セグメント間取引消去であります。

(6) 資金調達費用の調整額△45百万円は、セグメント間取引消去であります。

(7) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額△0百万円は、セグメント間取引消去であります。

4 セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2021年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結財務諸表計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	44,877	8,245	53,123	2,676	55,799	—	55,799
セグメント間の内部経常収益	264	153	417	509	927	△927	—
計	45,141	8,398	53,540	3,186	56,727	△927	55,799
セグメント利益	6,184	212	6,396	866	7,263	△16	7,246
セグメント資産	4,290,382	22,695	4,313,078	18,855	4,331,933	△21,363	4,310,569
その他の項目							
減価償却費	1,501	98	1,600	63	1,664	△1	1,662
資金運用収益	32,661	12	32,673	1,070	33,744	△48	33,695
資金調達費用	474	54	528	4	532	△43	489
減損損失	324	—	324	—	324	—	324
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,271	218	1,489	20	1,510	—	1,510

- (注) 1 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。
- 2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、クレジットカード業務等であります。
- 3 調整額は、次のとおりであります。
- (1) セグメント利益の調整額△16百万円は、セグメント間取引消去であります。
- (2) セグメント資産の調整額△21,363百万円は、セグメント間取引消去であります。
- (3) 減価償却費の調整額△1百万円は、セグメント間取引消去であります。
- (4) 資金運用収益の調整額△48百万円は、セグメント間取引消去であります。
- (5) 資金調達費用の調整額△43百万円は、セグメント間取引消去であります。
- 4 セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## 【関連情報】

2020年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

## 1.サービスごとの情報

(単位: 百万円)

	貸出業務	有価証券 投資業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	21,241	17,871	18,595	57,709

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

## 2.地域ごとの情報

## (1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 3.主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

2021年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

## 1.サービスごとの情報

(単位: 百万円)

	貸出業務	有価証券 投資業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	20,859	15,809	19,130	55,799

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

## 2.地域ごとの情報

## (1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

当行グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 3.主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

2020年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	銀行業	リース業	計		
減損損失	454	—	454	—	454

2021年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	銀行業	リース業	計		
減損損失	324	—	324	—	324

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

2020年度

該当事項はありません。

2021年度

該当事項はありません。

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

2020年度

該当事項はありません。

2021年度

該当事項はありません。

## 当行の業績（単体）

厳しい経営環境のなか、役員一丸となって業績向上に努め、次のような結果となりました。

預 金 等	当期末の預金及び譲渡性預金の合計残高は、前期末に比べ1,644億円増加し3兆4,723億円となりました。
貸 出 金	当期末の貸出金残高は、前期末に比べ653億円増加し、1兆9,782億円となりました。
有 価 証 券	当期末の有価証券残高は、前期末に比べ178億円増加し、1兆2,919億円となりました。
損 益 状 況	<p>経常収益は、国債等債券売却益が増加したものの、株式等売却益及び貸出金利息の減少等により、前期に比べ22億27百万円減少し、451億32百万円となりました。</p> <p>経常費用は、国債等債券売却損が増加したものの、貸倒引当金繰入額、営業経費及び株式等売却損の減少等により、前期に比べ28億15百万円減少し、389億91百万円となりました。</p> <p>この結果、経常利益は、前期に比べ5億87百万円増加し、61億40百万円となりました。</p> <p>また、当期純利益は、経常利益の増加及び課税所得減少に伴う法人税等の減少により、前期に比べ18億32百万円増加し、46億59百万円となりました。</p>

## 主要経営指標（単体）

決算年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
経常収益	50,693百万円	51,574百万円	50,427百万円	47,360百万円	45,132百万円
経常利益	8,317百万円	6,494百万円	8,171百万円	5,552百万円	6,140百万円
当期純利益	5,340百万円	4,922百万円	4,333百万円	2,827百万円	4,659百万円
資本金	19,598百万円	19,598百万円	19,598百万円	19,598百万円	19,598百万円
発行済株式総数	16,243千株	16,243千株	16,243千株	16,243千株	16,243千株
純資産額	183,290百万円	189,036百万円	177,046百万円	186,848百万円	182,573百万円
総資産額	3,203,341百万円	3,311,114百万円	3,378,917百万円	3,796,015百万円	4,294,259百万円
預金残高	2,808,491百万円	2,868,321百万円	2,919,062百万円	3,204,392百万円	3,370,096百万円
貸出金残高	1,798,360百万円	1,846,163百万円	1,839,189百万円	1,912,902百万円	1,978,279百万円
有価証券残高	1,073,392百万円	1,123,775百万円	1,099,559百万円	1,274,095百万円	1,291,928百万円
1株当たり純資産額	11,639.37円	12,002.35円	11,232.70円	11,849.93円	11,560.39円
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	48.50円 (3.50円)	80.00円 (40.00円)	80.00円 (40.00円)	80.00円 (40.00円)	80.00円 (40.00円)
1株当たり当期純利益	339.47円	312.89円	275.34円	179.58円	295.53円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	293.63円	270.25円	247.03円	178.68円	293.98円
単体自己資本比率 (国内基準)	10.11%	9.97%	10.01%	10.01%	9.94%
配当性向	23.56%	25.56%	29.05%	44.55%	27.07%
従業員数 [外、平均臨時従業員数]	1,665 [766]人	1,644 [719]人	1,632 [675]人	1,607 [630]人	1,558 [601]人

- (注) 1 2017年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施いたしました。1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、2017年度（2018年3月）の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算出しております。また、配当性向は2017年度（2018年3月）の期首に株式併合が行われたと仮定して算出しております。
- 2 2017年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施いたしました。2017年度の1株当たり配当額48.50円は、中間配当額3.50円と期末配当額45.00円の合計となり、中間配当額3.50円は株式併合前の配当額、期末配当額45.00円は株式併合後の配当額となります。
- 3 2021年度の中間配当についての取締役会決議は2021年11月8日に行いました。
- 4 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は国内基準を採用しております。

## 財務諸表

本誌掲載の財務諸表は、会社法第396条第1項および金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツの監査証明を受けた財務諸表に基づいて作成しております。

## 貸借対照表

(単位：百万円)

	2020年度 (2021年3月31日)	2021年度 (2022年3月31日)
<b>(資産の部)</b>		
現金預け金	511,638	942,567
現金	33,847	32,489
預け金	477,791	910,077
買入金銭債権	3,914	3,476
金銭の信託	19,946	16,931
有価証券	1,274,095	1,291,928
国債	172,152	243,102
地方債	265,474	286,086
社債	317,363	261,275
株式	71,754	74,176
その他の証券	447,351	427,287
貸出金	1,912,902	1,978,279
割引手形	4,471	4,569
手形貸付	64,431	58,804
証書貸付	1,694,399	1,766,742
当座貸越	149,599	148,163
外国為替	12,609	11,591
外国他店預け	12,586	11,565
取立外国為替	22	25
その他資産	39,788	26,194
未収益	2,582	2,408
金融派生商品	4,619	4,034
金融商品等受入担保金	31,768	17,886
その他の資産	817	1,866
有形固定資産	28,870	28,037
建物	4,649	4,320
土地	19,733	19,772
リース資産	145	185
建設仮勘定	16	566
その他の有形固定資産	4,325	3,192
無形固定資産	954	746
ソフトウェア	847	640
その他の無形固定資産	107	105
前払年金費用	9,576	9,621
繰延税金資産	—	3,360
支払承諾見返	8,192	8,095
貸倒引当金	△26,474	△26,570
資産の部合計	3,796,015	4,294,259
<b>(負債の部)</b>		
預金	3,204,392	3,370,096
当座預金	135,363	139,398
普通預金	2,131,657	2,301,253
貯蓄預金	24,943	25,043
通知預金	5,640	4,840
定期預金	858,622	841,157
定期積金	9,541	9,869
その他の預金	38,622	48,533
譲渡性預金	103,482	102,209
コールマネー	—	3,671
売現先勘定	—	16,827
債券貸借取引受入担保金	19,142	138,405
借入金	224,367	421,102
借入金	224,367	421,102
外国為替	35	45
売渡外国為替	13	17
未払外国為替	22	28
その他負債	36,528	38,859
未決済為替借	0	0
未払法人税等	825	190
未払費用	680	621
前受収益	898	881
給付補填備金	0	0
金融派生商品	8,058	13,535
金融商品等受入担保金	3,271	907
リース債務	145	185
資産除去債務	416	486
その他の負債	22,231	22,051
賞与引当金	1,017	1,032
退職給付引当金	6,033	6,048
睡眠預金払戻損失引当金	1,383	1,116
繰延税金負債	271	—
再評価に係る繰延税金負債	4,319	4,174
支払承諾	8,192	8,095
負債の部合計	3,609,166	4,111,686
<b>(純資産の部)</b>		
資本金	19,598	19,598
資本剰余金	10,585	10,582
資本準備金	10,582	10,582
その他資本剰余金	3	—
利益剰余金	131,516	135,186
利益準備金	10,431	10,431
その他利益剰余金	121,085	124,755
固定資産圧縮積立金	84	84
別途積立金	116,830	119,330
繰越利益剰余金	4,170	5,341
自己株式	△2,254	△2,122
株主資本合計	159,445	163,245
その他有価証券評価差額金	18,000	9,079
繰延ヘッジ損益	471	1,673
土地再評価差額金	8,664	8,353
評価・換算差額等合計	27,136	19,107
新株予約権	266	220
純資産の部合計	186,848	182,573
負債及び純資産の部合計	3,796,015	4,294,259

## 損益計算書

(単位：百万円)

	2020年度 (自 2020年4月 1日 至 2021年3月31日)	2021年度 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)
経常収益	47,360	45,132
資金運用収益	32,850	32,668
貸出金利息	20,277	19,834
有価証券利息配当金	12,430	12,180
コールローン利息	△0	0
預け金利息	137	653
その他の受入利息	5	0
役員取引等収益	8,331	8,296
受入為替手数料	2,725	2,523
その他の役員収益	5,605	5,773
その他業務収益	1,213	1,899
商品有価証券売却益	0	1
国債等債券売却益	1,213	1,898
その他の業務収益	0	—
その他経常収益	4,964	2,267
株式等売却益	4,213	1,711
金銭の信託運用益	63	—
その他の経常収益	687	556
経常費用	41,807	38,991
資金調達費用	524	470
預金利息	255	165
譲渡性預金利息	125	87
コールマネー利息	—	9
売現先利息	68	21
債券貸借取引支払利息	39	108
借入金利息	17	0
金利スワップ支払利息	18	78
役員取引等費用	2,300	2,255
支払為替手数料	918	805
その他の役員費用	1,382	1,450
その他業務費用	6,698	8,813
外国為替売買損	366	304
国債等債券売却損	5,466	7,852
国債等債券償却	—	47
金融派生商品費用	865	609
営業経費	27,548	25,689
その他経常費用	4,735	1,761
貸倒引当金繰入額	3,436	805
貸出金償却	0	0
株式等売却損	960	386
株式等償却	278	430
金銭の信託運用損	—	68
その他の経常費用	60	70
経常利益	5,552	6,140
特別利益	87	184
固定資産処分益	87	184
特別損失	528	466
固定資産処分損	73	142
減損損失	454	324
税引前当期純利益	5,111	5,858
法人税、住民税及び事業税	2,716	1,421
法人税等調整額	△431	△223
法人税等合計	2,284	1,198
当期純利益	2,827	4,659

# 株主資本等変動計算書

2020年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位: 百万円)

	株主資本										評価・換算差額等				新株 予約権	純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益 準備金	利益剰余金			自己 株式	株主 資本 合計	その他 有価 証券 評価 差額金	繰延 ヘッジ 損益	土地 再評価 差額金	評価・ 換算 差額等 合計			
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		固定 資産 圧縮 積立金	別途 積立金	繰越 利益 剰余金									利益 剰余金 合計
当期首残高	19,598	10,582	9	10,592	10,431	112	113,830	5,281	129,654	△2,279	157,565	10,878	△593	8,958	19,243	237	177,046
当期変動額																	
剰余金の配当								△1,259	△1,259		△1,259						△1,259
当期純利益								2,827	2,827		2,827						2,827
自己株式の取得										△3	△3						△3
自己株式の処分			△6	△6						28	21						21
別途積立金の積立							3,000	△3,000	—		—						—
土地再評価差額金の取崩								293	293		293						293
固定資産圧縮積立金の取崩						△27		27	—		—						—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)												7,122	1,064	△293	7,893	28	7,921
当期変動額合計	—	—	△6	△6	—	△27	3,000	△1,110	1,861	25	1,880	7,122	1,064	△293	7,893	28	9,802
当期末残高	19,598	10,582	3	10,585	10,431	84	116,830	4,170	131,516	△2,254	159,445	18,000	471	8,664	27,136	266	186,848

2021年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位: 百万円)

	株主資本										評価・換算差額等				新株 予約権	純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益 準備金	利益剰余金			自己 株式	株主 資本 合計	その他 有価 証券 評価 差額金	繰延 ヘッジ 損益	土地 再評価 差額金	評価・ 換算 差額等 合計			
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		固定 資産 圧縮 積立金	別途 積立金	繰越 利益 剰余金									利益 剰余金 合計
当期首残高	19,598	10,582	3	10,585	10,431	84	116,830	4,170	131,516	△2,254	159,445	18,000	471	8,664	27,136	266	186,848
会計方針の変更による累積的影響額								△0	△0		△0						△0
会計方針の変更を反映した当期首残高	19,598	10,582	3	10,585	10,431	84	116,830	4,170	131,515	△2,254	159,444	18,000	471	8,664	27,136	266	186,847
当期変動額																	
剰余金の配当								△1,260	△1,260		△1,260						△1,260
当期純利益								4,659	4,659		4,659						4,659
自己株式の取得										△2	△2						△2
自己株式の処分			△41	△41						135	93						93
別途積立金の積立							2,500	△2,500	—		—						—
土地再評価差額金の取崩								310	310		310						310
繰越利益剰余金から その他資本剰余金 への振替			38	38				△38	△38		—						—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)												△8,920	1,202	△310	△8,029	△45	△8,075
当期変動額合計	—	—	△3	△3	—	—	2,500	1,171	3,671	132	3,800	△8,920	1,202	△310	△8,029	△45	△4,274
当期末残高	19,598	10,582	—	10,582	10,431	84	119,330	5,341	135,186	△2,122	163,245	9,079	1,673	8,353	19,107	220	182,573

## 注記事項

## 重要な会計方針

## 1 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）により行っております。

## 2 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

## 3 デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

## 4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は、定率法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物 5年～31年  
その他 5年～20年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

## 5 収益の計上方法

顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

役員取引等収益

役員取引等収益は、預金・貸出業務、為替業務及び証券関連業務等に関する事務手数料等であり、顧客との契約に基づきサービスを提供する義務があります。これらの取引は、サービスの提供が完了した時点をもって履行義務が充足されるとし収益を認識しております。

## 6 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

## 7 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 2020年10月8日）に規定する各債務者区分の債権については、以下のとおりです。

正常先債権及び要管理先以外の要管理先債権については今後1年間の予想損失額を見込んで計上し、要管理先債権については今後3年間の予想損失額を見込んで計上しております。

破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額に対して今後3年間の予想損失額を見込んで計上しております。

予想損失額は、過去の一定期間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の平均値に基づき将来見込みに応じて、より実態を反映する算定期間に基づいて算定するなどの修正を加えた予想損失率によって算定しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。

なお、破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者等と与信額が一定額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

(2) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用

その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により損益処理

数理計算上の差異

各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生した事業年度から損益処理

(4) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金の預金者からの払戻請求に備えるため、過去の支払実績等を勘案して必要と認められた額を計上しております。

## 8 ヘッジ会計の方法

金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日。以下、「業種別委員会実務指針第24号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる貸出金及びその他有価証券（債券）とヘッジ手段である金利スワップ取引を一定の（残存）期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

## 9 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識過去勤務費用及び未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表における退職給付に係る会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

## 重要な会計上の見積り

会計上の見積りにより当事業年度に係る財務諸表にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

貸倒引当金

(1) 当事業年度に係る財務諸表に計上した額

貸倒引当金 26,570百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

①算出方法

債務者区分は、債務者の財政状態及び経営成績並びに将来の事業計画等を基礎として決定し、その債務者区分に応じて貸倒引当金を計上しております。

各債務者区分の債権に関する具体的な貸倒引当金の算出方法は、「財務諸表 注記事項（重要な会計方針） 7 引当金の計上基準 (1) 貸倒引当金」に記載しております。

②主要な仮定

主要な仮定は、債務者の将来の事業計画の合理性の評価であり、債務者区分決定の基礎としております。事業計画の合理性の評価には、当該計画の達成可能性を考慮しております。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う経済への影響については、当事業年度末においても当該感染症の収束が見通せない状況にあることから、翌事業年度以降も継続するものと想定しております。このような状況下において、現時点で見積りに影響を及ぼす入手可能な情報を考慮して債務者区分を決定しております。当該仮定は、前事業年度から重要な変更はありません。

③翌事業年度に係る財務諸表に及ぼす影響

債務者区分及び新型コロナウイルス感染症の状況や経済への影響等に用いた仮定が変化した場合、貸倒引当金残高が変動し、損益に影響を及ぼす可能性があります。

## 会計方針の変更

## 1 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、従来一時点で収益を計上していた役員取引の一部について、履行義務の充足をもって収益を計上するように変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

なお、財務諸表に与える影響額は軽微であります。

## 2 時価の算定に関する会計基準等の適用

連結財務諸表と同一の内容であるため、記載を省略しております。

### 貸借対照表関係

- ※1 関係会社の株式又は出資金の総額  
株式 4,787百万円  
出資金 2,563百万円
- ※2 無担保の債券貸借取引により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

38,395百万円

- ※3 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、貸借対照表の「有価証券」中の社債（その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）によるものに限る。）、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は貸借契約によるものに限る。）であります。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額 4,529百万円  
危険債権額 44,066百万円  
三月以上延滞債権額 一百万円  
貸出条件緩和債権額 186百万円  
合計額 48,782百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。

三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。  
(表示方法の変更)

「銀行法施行規則等の一部を改正する内閣府令」（2020年1月24日 内閣府令第3号）が2022年3月31日から施行されたことに伴い、銀行法の「リス管理債権」の区分等を、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく開示債権の区分等に合わせ表示しております。

- ※4 手形割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

4,569百万円

- ※5 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産  
有価証券 576,080百万円  
貸出金 97,823百万円  
計 673,903百万円

担保資産に対応する債務  
預金 19,161百万円  
売現先勘定 16,827百万円  
債券貸借取引受入担保金 138,405百万円  
借入金 421,000百万円

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

有価証券等 37,334百万円

また、その他の資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金 361百万円

- ※6 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高 662,238百万円

うち原契約期間が1年以内のもの 651,329百万円

又は任意の時期に無条件で取消可能なもの

11,468百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

- ※7 有形固定資産の圧縮記帳額

圧縮記帳額 1,660百万円

(当事業年度の圧縮記帳額) (一百万円)

- ※8 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額

11,468百万円

- ※9 取締役との間の取引による取締役に対する金銭債務総額

24百万円

### 有価証券関係

子会社株式及び関連会社株式

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	—	—	—
関連会社株式	—	—	—
合計	—	—	—

(注) 上表に含まれない市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

	貸借対照表計上額 (百万円)
子会社株式	7,351
関連会社株式	—

### 税効果会計関係

- 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生主な原因別の内訳

繰延税金資産  
貸倒引当金 8,106百万円  
退職給付引当金 2,052百万円  
減価償却費 1,747百万円  
その他 3,105百万円  
繰延税金資産小計 15,011百万円  
評価性引当額 △6,450百万円  
繰延税金資産合計 8,560百万円

繰延税金負債  
その他有価証券評価差額金 △2,948百万円  
退職給付信託設定益 △1,448百万円  
その他 △803百万円  
繰延税金負債合計 △5,200百万円  
繰延税金資産（負債）の純額 3,360百万円

- 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率 30.5%  
(調整)  
交際費等永久に損金に算入されない項目 0.7%  
受取配当金等永久に益金に算入されない項目 △1.9%  
評価性引当額の増減 △10.3%  
その他 1.5%  
税効果会計適用後の法人税等の負担率 20.5%

### 収益認識関係

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「連結財務諸表 注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）4 会計方針に関する事項（10）重要な収益の計上方法」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

### 重要な後発事象

「連結財務諸表 注記事項（重要な後発事象）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

# 営業の状況／損益

## 部門別粗利益

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用収益	28,555	4,384	32,850	28,674	4,065	32,668
資金調達費用	402	208	522	411	128	468
資金運用収支	<b>28,152</b>	<b>4,175</b>	<b>32,328</b>	<b>28,262</b>	<b>3,937</b>	<b>32,199</b>
役務取引等収益	8,248	83	8,331	8,216	80	8,296
役務取引等費用	2,245	55	2,300	2,202	53	2,255
役務取引等収支	<b>6,002</b>	<b>27</b>	<b>6,030</b>	<b>6,014</b>	<b>26</b>	<b>6,041</b>
その他業務収益	977	236	1,213	1,178	721	1,899
その他業務費用	4,190	2,508	6,698	3,448	5,365	8,813
その他業務収支	<b>△3,213</b>	<b>△2,271</b>	<b>△5,484</b>	<b>△2,270</b>	<b>△4,643</b>	<b>△6,914</b>
業務粗利益	<b>30,942</b>	<b>1,932</b>	<b>32,874</b>	<b>32,006</b>	<b>△679</b>	<b>31,326</b>
業務粗利益率	<b>0.96%</b>	<b>0.62%</b>	<b>1.00%</b>	<b>0.86%</b>	<b>△0.22%</b>	<b>0.83%</b>

(注) 1.国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引です。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は、国際業務部門に含めております。

2.資金調達費用は金銭の信託運用見合費用（2020年度2百万円、2021年度2百万円）を控除して表示しております。

3.資金運用収益および資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

4.業務粗利益率=  $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times 100$

## 業務純益等

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
業務純益	5,727	5,373
実質業務純益	5,985	5,554
コア業務純益	10,237	11,555
コア業務純益（投資信託解約損益を除く。）	7,309	8,530

## 役務取引等収支の内訳

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
役務取引等収益	<b>8,248</b>	<b>83</b>	<b>8,331</b>	<b>8,216</b>	<b>80</b>	<b>8,296</b>
うち預金・貸出業務	2,769	—	2,769	2,745	—	2,745
うち為替業務	2,664	60	2,725	2,452	70	2,523
うち証券関連業務	1,259	—	1,259	1,626	—	1,626
うち代理業務	702	—	702	520	—	520
うち保護預り・貸金庫業務	51	—	51	51	—	51
うち保証業務	88	22	111	75	9	84
役務取引等費用	<b>2,245</b>	<b>55</b>	<b>2,300</b>	<b>2,202</b>	<b>53</b>	<b>2,255</b>
うち為替業務	863	55	918	752	53	805
うち個人ローン業務	1,281	—	1,281	1,366	—	1,366

## その他業務収支の内訳

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
外国為替売買損益	—	△366	△366	—	△304	△304
国債等債券売買損益	△3,043	△1,209	△4,252	△2,097	△3,856	△5,953
金融派生商品損益	△169	△696	△865	△126	△482	△609
その他	0	—	0	△46	—	△46
合計	<b>△3,213</b>	<b>△2,271</b>	<b>△5,484</b>	<b>△2,270</b>	<b>△4,643</b>	<b>△6,914</b>

## 資金運用・調達勘定の平均残高、利息、利回り

(国内業務部門)

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
<b>資金運用勘定</b>	<b>(261,257)</b> <b>3,218,071</b>	<b>(88)</b> <b>28,555</b>	<b>0.88%</b>	<b>(253,679)</b> <b>3,708,236</b>	<b>(70)</b> <b>28,674</b>	<b>0.77%</b>
うち貸出金	1,804,378	19,264	1.06%	1,886,222	18,940	1.00%
うち商品有価証券	5	0	0.00%	3	0	0.03%
うち有価証券	974,529	9,065	0.93%	1,053,506	9,000	0.85%
うちコールローン	32,232	△8	△0.02%	3,863	0	0.01%
うち預け金	142,076	137	0.09%	504,420	653	0.12%
<b>資金調達勘定</b>	<b>3,389,846</b>	<b>402</b>	<b>0.01%</b>	<b>3,819,805</b>	<b>411</b>	<b>0.01%</b>
うち預金	3,023,056	242	0.00%	3,238,423	162	0.00%
うち譲渡性預金	196,732	125	0.06%	170,293	87	0.05%
うちコールマネー	—	—	—%	11,523	△2	△0.01%
うち債券貸借取引 受入担保金	17,457	17	0.10%	87,464	87	0.10%
うち借入金	165,857	0	0.00%	329,850	0	0.00%

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（2020年度269,683百万円、2021年度222,877百万円）を、資金調達勘定は金銭の信託運用見合額の平均残高（2020年度18,986百万円、2021年度19,734百万円）および利息（2020年度2百万円、2021年度2百万円）を、それぞれ控除して表示しております。

2. ( ) 内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高および利息（内書き）であります。

(国際業務部門)

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
<b>資金運用勘定</b>	<b>309,477</b>	<b>4,384</b>	<b>1.41%</b>	<b>298,885</b>	<b>4,065</b>	<b>1.36%</b>
うち貸出金	66,749	1,013	1.51%	62,266	893	1.43%
うち有価証券	224,224	3,365	1.50%	226,861	3,179	1.40%
うちコールローン	899	8	0.91%	—	—	—%
<b>資金調達勘定</b>	<b>(261,257)</b> <b>304,814</b>	<b>(88)</b> <b>208</b>	<b>0.06%</b>	<b>(253,679)</b> <b>295,162</b>	<b>(70)</b> <b>128</b>	<b>0.04%</b>
うち預金	10,590	13	0.12%	11,152	3	0.03%
うちコールマネー	—	—	—%	2,343	11	0.48%
うち売現先勘定	16,985	68	0.40%	13,762	21	0.15%
うち債券貸借取引 受入担保金	11,132	22	0.19%	14,177	20	0.14%
うち借入金	4,777	16	0.33%	—	—	—%

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（2020年度4百万円、2021年度1百万円）を控除して表示しております。

2. ( ) 内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高および利息（内書き）であります。

3. 国際業務部門の国内店外貸借取引の平均残高は、月次カレント方式（前月末のTT仲値を当該月の取引に適用する方式）により算出しております。

(合計)

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
<b>資金運用勘定</b>	<b>3,266,292</b>	<b>32,850</b>	<b>1.00%</b>	<b>3,753,442</b>	<b>32,668</b>	<b>0.87%</b>
うち貸出金	1,871,128	20,277	1.08%	1,948,488	19,834	1.01%
うち商品有価証券	5	0	0.00%	3	0	0.03%
うち有価証券	1,198,753	12,430	1.03%	1,280,367	12,180	0.95%
うちコールローン	33,132	△0	△0.00%	3,863	0	0.01%
うち預け金	142,076	137	0.09%	504,420	653	0.12%
<b>資金調達勘定</b>	<b>3,433,403</b>	<b>522</b>	<b>0.01%</b>	<b>3,861,288</b>	<b>468</b>	<b>0.01%</b>
うち預金	3,033,647	255	0.00%	3,249,576	165	0.00%
うち譲渡性預金	196,732	125	0.06%	170,293	87	0.05%
うちコールマネー	—	—	—%	13,866	9	0.06%
うち売現先勘定	16,985	68	0.40%	13,762	21	0.15%
うち債券貸借取引 受入担保金	28,589	39	0.13%	101,642	108	0.10%
うち借入金	170,635	17	0.00%	329,850	0	0.00%

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（2020年度269,688百万円、2021年度222,879百万円）を、資金調達勘定は金銭の信託運用見合額の平均残高（2020年度18,986百万円、2021年度19,734百万円）および利息（2020年度2百万円、2021年度2百万円）を、それぞれ控除して表示しております。

2. 国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高および利息は、相殺して記載しております。

## 受取利息・支払利息の分析

(国内業務部門)

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	1,853	△3,749	△1,895	3,790	△3,671	119
うち貸出金	526	△1,040	△514	821	△1,145	△323
うち有価証券	503	△1,886	△1,382	674	△739	△64
うち預け金	48	△2	46	455	60	515
支払利息	38	△119	△81	46	△37	9
うち預金	19	△100	△81	10	△91	△80
うち譲渡性預金	△7	△3	△10	△14	△23	△37
うち債券貸借取引 受入担保金	△8	△0	△8	70	0	70

(注) 残高および利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分する方法によっております。

(国際業務部門)

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	451	△2,143	△1,692	△146	△172	△319
うち貸出金	△67	△591	△659	△66	△52	△119
うち有価証券	437	△1,433	△995	36	△223	△186
支払利息	21	△372	△351	△4	△75	△80
うち預金	△1	△25	△27	0	△9	△9
うち債券貸借取引 受入担保金	5	△52	△47	4	△5	△1

(注) 残高および利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分する方法によっております。

(合計)

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受取利息	2,113	△5,693	△3,579	4,239	△4,422	△182
うち貸出金	488	△1,662	△1,173	787	△1,230	△443
うち有価証券	863	△3,242	△2,378	776	△1,026	△250
うち預け金	48	△2	46	455	60	515
支払利息	49	△473	△424	51	△105	△53
うち預金	20	△128	△108	10	△100	△89
うち譲渡性預金	△7	△3	△10	△14	△23	△37
うち債券貸借取引 受入担保金	△9	△46	△55	77	△9	68

(注) 残高および利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分する方法によっております。

## 営業経費の内訳

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
給料・手当	10,997	10,716
退職給付費用	1,342	607
福利厚生費	2,024	1,950
減価償却費	1,689	1,478
土地建物機械賃借料	576	521
営繕費	110	89
消耗品費	384	298
給水光熱費	266	261
旅費	39	48
通信費	902	937
広告宣伝費	207	159
租税公課	1,717	1,544
その他	7,287	7,075
合計	27,548	25,689

# 営業の状況／預金

## 預金科目別平均残高

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
流動性預金	2,134,190	—	2,134,190	2,359,953	—	2,359,953
うち有利息預金	1,828,625	—	1,828,625	1,993,023	—	1,993,023
定期性預金	877,186	—	877,186	866,522	—	866,522
うち固定金利定期預金	875,287	—	875,287	864,905	—	864,905
うち変動金利定期預金	1,898	—	1,898	1,617	—	1,617
その他の預金	11,680	10,590	22,270	11,947	11,152	23,099
合計	3,023,056	10,590	3,033,647	3,238,423	11,152	3,249,576
譲渡性預金	196,732	—	196,732	170,293	—	170,293
総合計	3,219,788	10,590	3,230,379	3,408,717	11,152	3,419,870

- (注) 1.流動性預金=当座預金+普通預金+貯蓄預金+通知預金  
 2.定期性預金=定期預金+定期積金  
   固定金利定期預金：預入時に満期日迄の利率が確定する定期預金  
   変動金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金  
 3.国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

# 営業の状況／貸出金

## 貸出金科目別平均残高

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
手形貸付	63,613	585	64,199	55,690	372	56,062
証書貸付	1,574,598	66,164	1,640,762	1,671,869	61,893	1,733,763
当座貸越	161,754	—	161,754	154,665	—	154,665
割引手形	4,411	—	4,411	3,997	—	3,997
合計	1,804,378	66,749	1,871,128	1,886,222	62,266	1,948,488

- (注) 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

## 貸出金の業種別内訳

(単位：百万円)

	2020年度		2021年度	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
国内店分 (除く特別国際金融取引勘定)	1,912,902	100.00%	1,978,279	100.00%
製造業	132,623	6.93%	131,760	6.66%
農業・林業	2,993	0.16%	3,544	0.18%
漁業	4,067	0.21%	3,500	0.18%
鉱業・採石業・砂利採取業	617	0.03%	1,723	0.09%
建設業	49,000	2.56%	47,629	2.41%
電気・ガス・熱供給・水道業	67,764	3.54%	66,297	3.35%
情報通信業	11,361	0.59%	14,775	0.75%
運輸業・郵便業	63,946	3.34%	68,433	3.46%
卸売業・小売業	135,862	7.10%	141,321	7.14%
金融業・保険業	79,157	4.14%	83,302	4.21%
不動産業・物品賃貸業	243,989	12.75%	254,214	12.85%
各種サービス業	233,349	12.20%	215,387	10.89%
地方公共団体	297,078	15.53%	308,109	15.57%
その他	591,096	30.92%	638,285	32.26%
海外及び特別国際金融取引勘定分	—	—%	—	—%
政府等	—	—%	—	—%
金融機関	—	—%	—	—%
その他	—	—%	—	—%
合計	1,912,902	100.00%	1,978,279	100.00%

## 貸出金および支払承諾見返の担保別内訳

(単位：百万円)

	貸出金		支払承諾見返	
	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度
有価証券	5,037	5,035	—	—
債権	100	586	—	—
商品	—	—	—	—
不動産	359,893	358,598	1,520	1,469
その他	12,532	11,884	1,024	1,111
計	377,563	376,105	2,544	2,581
保証	860,943	939,713	1,064	2,080
信用	674,395	662,461	4,583	3,434
合計	1,912,902	1,978,279	8,192	8,095
(うち劣後特約付貸出金)	(—)	(—)	(—)	(—)

## 貸出金の使途別内訳

(単位：百万円)

	2020年度		2021年度	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
設備資金	1,273,555	66.58%	1,347,567	68.12%
運転資金	639,347	33.42%	630,712	31.88%
合計	1,912,902	100.00%	1,978,279	100.00%

## 中小企業等に対する貸出金

(単位：件、百万円)

		2020年度	2021年度
総貸出金残高 (A)	貸出先件数	108,753	108,989
	貸出金額	1,912,902	1,978,279
中小企業等貸出金残高 (B)	貸出先件数	108,506	108,739
	貸出金額	1,372,494	1,438,155
(B)	貸出先件数	99.77%	99.77%
(A)	貸出金額	71.74%	72.69%

(注) 1.本表の貸出金残高には、特別国際金融取引勘定分を含んでおりません。

2.中小企業等とは、資本金3億円(ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円)以下の会社又は常用する従業員が300人(ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人)以下の企業等であります。

## 貸出金の預金に対する比率

		2020年度			2021年度		
		国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
預貸率	期末値	55.68%	619.14%	57.42%	54.79%	468.94%	56.44%
	期中平均値	55.60%	630.27%	57.49%	54.90%	558.30%	56.54%

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

## リスク管理債権

(単位：百万円)

		2020年度	2021年度
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	(a)	3,383	4,529
危険債権額	(b)	46,195	44,066
三月以上延滞債権額	(c)	—	—
貸出条件緩和債権額	(d)	510	186
合計 (e) = (a) + (b) + (c) + (d)		50,090	48,782
正常債権額	(f)	1,884,118	1,950,178
総与信残高 (g) = (e) + (f)		1,934,209	1,998,960
総与信残高に占める割合 (e) / (g)		2.58%	2.44%
貸倒引当金 (h)		26,474	26,570
引当率 (h) / (e)		52.85%	54.46%

(注) 「銀行法施行規則等の一部を改正する内閣府令」(2020年1月24日 内閣府令第3号)が2022年3月31日から施行されたことに伴い、銀行法の「リスク管理債権」の区分等を、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく開示債権の区分等に合わせて表示しております。

### 用語説明

#### 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

#### 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しない債権。

#### 三月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しない債権。

#### 貸出条件緩和債権

債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行なった貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しない債権。

#### 正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸出条件緩和債権以外のものに区分される債権。

## 貸倒引当金の内訳

(単位：百万円)

	2020年度		2021年度	
	期末残高	期中増減	期末残高	期中増減
一般貸倒引当金	3,243	257	3,425	181
個別貸倒引当金	23,230	2,684	23,145	△85
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—
合計	26,474	2,942	26,570	96

## 貸出金の償却

(単位：百万円)

2020年度	2021年度
0	0

## 特定海外債権の状況

2020年度、2021年度ともに、該当する項目はありません。

## 金融機能再生緊急措置法（金融再生法）に基づく債権区分

(単位：百万円)

	2021年度	貸出金等に占める割合
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	4,529	0.22%
危険債権	44,066	2.20%
要管理債権	186	0.00%
正常債権	1,950,178	97.58%
合計	1,998,960	100.00%

### 用語説明

#### 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

#### 危険債権

債務者が経営破綻の状態に至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しない債権。

#### 要管理債権

三月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

#### 正常債権

債務者の財政状態および経営成績に特に問題がないものとして、上記3区分の債権以外のものに区分される債権。

## 営業の状況／証券

### 有価証券科目別平均残高

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
国債	162,834	—	162,834	216,333	—	216,333
地方債	256,331	—	256,331	284,426	—	284,426
短期社債	—	—	—	—	—	—
社債	321,610	—	321,610	290,925	—	290,925
株式	45,111	—	45,111	50,220	—	50,220
その他の証券	188,640	224,224	412,865	211,600	226,861	438,461
うち外国債券	—	224,224	224,224	—	225,976	225,976
うち外国株式	—	—	—	—	884	884
合計	974,529	224,224	1,198,753	1,053,506	226,861	1,280,367

(注) 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

### 商品有価証券の平均残高

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
商品国債	3	3
商品地方債	2	0
商品政府保証債	—	—
その他の商品有価証券	—	—
合計	5	3

### 有価証券の預金に対する比率

	2020年度			2021年度			
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計	
預証率	期末値	31.46%	2,312.44%	38.51%	31.35%	1,496.35%	37.20%
	期中平均値	30.26%	2,117.19%	37.10%	30.90%	2,034.15%	37.43%

(注) 預金には譲渡性預金を含んでおります。

# 営業の状況／ALM

## 定期預金の残存期間別残高

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	定期預金	うち固定金利 定期預金	うち変動金利 定期預金	定期預金	うち固定金利 定期預金	うち変動金利 定期預金
3か月未満	190,040	189,586	447	189,224	189,042	176
3か月以上6か月未満	160,218	160,047	170	153,823	153,681	141
6か月以上1年未満	269,513	268,953	560	264,352	263,962	389
1年以上2年未満	77,163	76,868	294	83,036	82,648	388
2年以上3年未満	64,072	63,763	309	64,783	64,369	413
3年以上	61,531	61,521	10	48,871	48,871	—
合計	822,540	820,741	1,793	804,091	802,575	1,509

(注) 本表の預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

## 貸出金の残存期間別残高

(単位：百万円)

	2020年度			2021年度		
	貸出金	うち固定金利	うち変動金利	貸出金	うち固定金利	うち変動金利
1年以下	152,292	—	—	171,940	—	—
1年超3年以下	234,352	140,388	93,963	209,851	132,270	77,580
3年超5年以下	196,268	129,801	66,466	189,954	131,143	58,810
5年超7年以下	125,888	72,426	53,462	134,807	82,630	52,176
7年超	1,054,500	322,184	732,316	1,123,562	343,083	780,478
期間の定めのないもの	149,599	139,709	9,889	148,163	139,433	8,729
合計	1,912,902	—	—	1,978,279	—	—

(注) 残存期間1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしております。

## 保有有価証券の残存期間別残高

(単位：百万円)

	2020年度							
	国債	地方債	短期社債	社債	株式	その他の証券		
						うち外国債券	うち外国株式	
1年以下	29,647	25,893	—	88,666	—	31,443	24,142	—
1年超3年以下	13,275	74,619	—	103,921	—	90,870	61,569	—
3年超5年以下	6,140	70,123	—	84,052	—	63,625	25,316	—
5年超7年以下	—	49,130	—	12,588	—	21,895	7,069	—
7年超10年以下	34,078	21,278	—	12,364	—	117,340	47,750	—
10年超	89,011	24,428	—	15,769	—	78,416	70,525	—
期間の定めのないもの	—	—	—	—	71,754	43,760	0	—
合計	172,152	265,474	—	317,363	71,754	447,351	236,373	—
	2021年度							
	国債	地方債	短期社債	社債	株式	その他の証券		
						うち外国債券	うち外国株式	
1年以下	—	13,330	—	57,325	—	55,777	37,503	—
1年超3年以下	19,237	78,170	—	95,430	—	75,067	53,758	—
3年超5年以下	—	69,302	—	56,008	—	56,833	11,838	—
5年超7年以下	—	47,945	—	11,146	—	31,176	23,787	—
7年超10年以下	86,235	43,757	—	23,078	—	73,496	13,284	—
10年超	137,629	33,581	—	18,286	—	73,284	65,664	—
期間の定めのないもの	—	—	—	—	74,176	61,650	0	1,863
合計	243,102	286,086	—	261,275	74,176	427,287	205,839	1,863

(注) 「株式」には自己株式を含めておりません。

# 営業の状況／時価等情報

## 2020年度 売買目的有価証券

該当ありません。

## 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種 類	2020 年度		
		貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	491	493	2
	地方債	11,013	11,017	3
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	11,504	11,510	5
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	13,600	13,599	△0
	社債	15,528	15,517	△11
	その他	—	—	—
	小計	29,128	29,116	△12
合 計		40,633	40,626	△6

## その他有価証券

(単位：百万円)

	種 類	2020 年度		
		貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	56,278	32,364	23,914
	債券	419,156	415,788	3,367
	国債	54,587	54,073	513
	地方債	172,100	170,521	1,579
	社債	192,468	191,193	1,274
	その他	219,164	210,171	8,992
	小計	694,599	658,324	36,274
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	8,675	9,387	△711
	債券	295,199	298,251	△3,052
	国債	117,073	119,553	△2,479
	地方債	68,760	69,099	△339
	社債	109,365	109,599	△233
	その他	217,807	225,290	△7,482
	小計	521,683	532,929	△11,245
合 計		1,216,282	1,191,254	25,028

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

	2020 年度	
	貸借対照表計上額	
株式	2,011	
その他	7,477	
合 計	9,488	

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 金銭の信託関係

金銭の信託は、全て運用目的であります。

(単位：百万円)

	2020 年度	
	貸借対照表計上額	当事業年度の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	19,946	—

## 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

(単位：百万円)

	2020 年度		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
子会社・子法人等株式	—	—	—
関連法人等株式	—	—	—
合 計	—	—	—

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

(単位：百万円)

	2020 年度	
	貸借対照表計上額	
子会社・子法人等株式	7,690	
関連法人等株式	—	
合 計	7,690	

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社・子法人等株式及び関連法人等株式」には含めておりません。

## 当事業年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

## 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

	2020 年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	22,203	3,935	960
債券	19,773	150	—
国債	6,132	39	—
地方債	10,794	103	—
社債	2,846	7	—
その他	75,430	1,340	5,466
合 計	117,408	5,427	6,426

## 保有目的を変更した有価証券

該当ありません。

## 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（時価を把握することが極めて困難なものを除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当事業年度における減損処理額は、該当ありません。

なお、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、時価が取得原価に比べて50%程度以上下落した場合であります。また、時価が取得原価に比べて30%以上50%未満下落した場合は、金融商品会計に関する実務指針に基づき当行が制定した基準に該当するものを時価が「著しく下落した」と判断しております。

## 2021年度 売買目的有価証券

該当ありません。

### 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種 類	2021 年度		
		貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	9,953	9,564	△389
	地方債	34,287	34,172	△114
	社債	15,522	15,498	△23
	その他	—	—	—
	小計	59,762	59,235	△527
合 計		59,762	59,235	△527

### その他有価証券

(単位：百万円)

	種 類	2021 年度		
		貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	54,323	29,210	25,112
	債券	247,976	246,278	1,697
	国債	19,237	19,003	234
	地方債	152,383	151,536	846
	社債	76,354	75,738	616
	その他	189,645	183,932	5,712
	小計	491,944	459,421	32,523
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	13,052	15,195	△2,143
	債券	482,725	491,749	△9,023
	国債	213,911	220,473	△6,561
	地方債	99,416	101,041	△1,625
	社債	169,398	170,234	△836
	その他	227,068	236,396	△9,327
	小計	722,847	743,342	△20,494
合 計		1,214,792	1,202,764	12,028

(注) 上表に含まれない市場価格のない株式等及び組合出資金の貸借対照表計上額  
(単位：百万円)

	2021 年度	
	貸借対照表計上額	
非上場株式	2,011	
組合出資金	8,009	

組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日) 第27項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

### 金銭の信託関係

金銭の信託は、全て運用目的であります。

(単位：百万円)

	2021 年度	
	貸借対照表計上額	当事業年度の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	16,931	—

### 子会社・子法人等株式及び関連法人等株式

(単位：百万円)

	2021 年度		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
子会社・子法人等株式	—	—	—
関連法人等株式	—	—	—
合 計	—	—	—

(注) 上表に含まれない市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

	2021 年度	
	貸借対照表計上額	
子会社・子法人等株式	7,351	
関連法人等株式	—	

### 当事業年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

### 当事業年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

	2021 年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	4,967	1,383	386
債券	45,010	52	268
国債	40,447	—	268
地方債	4,553	52	—
社債	10	—	—
その他	182,507	2,173	7,584
合 計	232,485	3,609	8,239

### 保有目的を変更した有価証券

該当ありません。

### 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券(市場価格のない株式等及び組合出資金を除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

当事業年度における減損処理額は、47百万円(うち、社債47百万円)であります。

なお、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、時価が取得原価に比べて50%程度以上下落した場合であります。また、時価が取得原価に比べて30%以上50%未満下落した場合は、金融商品会計に関する実務指針に基づき当行が制定した基準に該当するものを時価が「著しく下落した」と判断しております。

# 営業の状況／デリバティブ取引情報

## 2020年度

### 1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

#### 金利関連取引（2021年3月31日現在）

該当ありません。

#### 通貨関連取引（2021年3月31日現在）（単位：百万円）

区分	種類	2020年度				
		契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価	評価損益	
金融商品取引所	通貨先物	—	—	—	—	
	通貨オプション	—	—	—	—	
店頭	通貨スワップ	108,495	55,355	81	81	
	クーポンスワップ	88,355	82,306	181	181	
	為替	売建	97,753	1,000	△5,192	△5,192
		買建	3,296	1,000	155	155
	通貨オプション	—	—	—	—	
	その他	—	—	—	—	
合計		—	—	△4,774	△4,774	

(注) 1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。  
2.時価の算定  
割引現在価値等により算定しております。

#### 株式関連取引（2021年3月31日現在）

該当ありません。

#### 債券関連取引（2021年3月31日現在）

該当ありません。

#### 商品関連取引（2021年3月31日現在）

該当ありません。

#### クレジットデリバティブ取引（2021年3月31日現在）

該当ありません。

### 2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

#### 金利関連取引（2021年3月31日現在）（単位：百万円）

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2020年度		
			契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価
原則的処理方法	金利スワップ	受取固定・支払変動	7,000	7,000	138
		受取変動・支払固定	35,000	35,000	1,196
	金利先物	—	—	—	
	金利オプション	—	—	—	
	その他	—	—	—	
金利スワップの特例処理	金利	—	—	—	
	スワップ	—	—	—	
合計		—	—	1,335	

(注) 1.主として業種別監査委員会報告第24号に基づき、繰延ヘッジによっております。  
2.時価の算定  
取引所取引については、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引については、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。  
3.金利スワップの特例処理によるものではありません。

#### 通貨関連取引（2021年3月31日現在）

該当ありません。

#### 株式関連取引（2021年3月31日現在）

該当ありません。

#### 債券関連取引（2021年3月31日現在）

該当ありません。

## 2021年度

### 1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

#### 金利関連取引（2022年3月31日現在）

該当ありません。

#### 通貨関連取引（2022年3月31日現在）（単位：百万円）

区分	種類	2021年度				
		契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価	評価損益	
金融商品取引所	通貨先物	—	—	—	—	
	通貨オプション	—	—	—	—	
店頭	通貨スワップ	107,703	67,314	△8,470	△8,470	
	クーポンスワップ	130,151	122,113	183	183	
	為替	売建	65,449	9	△4,069	△4,069
		買建	8,422	—	0	0
	通貨オプション	—	—	—	—	
	その他	—	—	—	—	
合計		—	—	△12,356	△12,356	

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。

#### 株式関連取引（2022年3月31日現在）

該当ありません。

#### 債券関連取引（2022年3月31日現在）

該当ありません。

#### 商品関連取引（2022年3月31日現在）

該当ありません。

#### クレジットデリバティブ取引（2022年3月31日現在）

該当ありません。

### 2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

#### 金利関連取引（2022年3月31日現在）（単位：百万円）

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2021年度		
			契約額等	契約額等のうち1年超のもの	時価
原則的処理方法	金利スワップ	受取固定・支払変動	—	—	—
		受取変動・支払固定	45,000	45,000	2,855
	金利先物	—	—	—	
	金利オプション	—	—	—	
	その他	—	—	—	
金利スワップの特例処理	金利	—	—	—	
	スワップ	—	—	—	
合計		—	—	2,855	

(注) 1.主として業種別監査委員会報告第24号に基づき、繰延ヘッジによっております。  
2.金利スワップの特例処理によるものではありません。

#### 通貨関連取引（2022年3月31日現在）

該当ありません。

#### 株式関連取引（2022年3月31日現在）

該当ありません。

#### 債券関連取引（2022年3月31日現在）

該当ありません。

# 営業の状況／諸比率

## 利益率

(単位：%)

	2020年度	2021年度
総資産経常利益率	0.15	0.15
純資産経常利益率	3.25	3.55
総資産当期純利益率	0.07	0.11
純資産当期純利益率	1.65	2.70

(注) 1. 総資産経常(当期純)利益率 =  $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{総資産(除く支払承諾見返)平均残高}} \times 100$       2. 純資産経常(当期純)利益率 =  $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{純資産勘定平均残高}} \times 100$

## 利鞘

(単位：%)

	2020年度			2021年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合計	国内業務部門	国際業務部門	合計
資金運用利回り	0.88	1.41	1.00	0.77	1.36	0.87
資金調達原価	0.78	0.31	0.79	0.66	0.28	0.67
総資金利鞘	0.10	1.10	0.21	0.11	1.08	0.20

# 自己資本の充実の状況等／自己資本の構成に関する事項【単体ベース】【連結ベース】

## バーゼルⅢ第3の柱（市場規律）に基づく開示

銀行法施行規則（1982年大蔵省令第10号）第19条の2第1項第5号二等に規定する自己資本の充実の状況について金融庁長官が別に定める事項（2014年2月18日 金融庁告示第7号、所謂バーゼルⅢ第3の柱）として、事業年度に係る説明書類に記載すべき事項を当該告示に則り、本章で開示しております。

なお、本章中における「自己資本比率告示」及び「告示」は、2006年3月27日金融庁告示第19号、所謂バーゼルⅢ第1の柱（最低所要自己資本比率）を指しております。

## 自己資本の構成に関する事項

### 単体自己資本比率（国内基準）

（単位：百万円、％）

項目	2021年度	2020年度
コア資本に係る基礎項目		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	162,614	158,815
うち、資本金及び資本剰余金の額	30,180	30,184
うち、利益剰余金の額	135,186	131,516
うち、自己株式の額（△）	2,122	2,254
うち、社外流出予定額（△）	630	629
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	220	266
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	3,425	3,243
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	3,425	3,243
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	1,127	1,752
コア資本に係る基礎項目の額	(イ) 167,387	164,078
コア資本に係る調整項目		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	518	663
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	518	663
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
前払年金費用の額	6,690	6,659
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額	(ロ) 7,209	7,323
自己資本		
自己資本の額 ((イ) - (ロ))	(ハ) 160,178	156,755
リスク・アセット等		
信用リスク・アセットの額の合計額	1,539,001	1,493,155
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	418	655
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	418	655
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	71,976	72,140
信用リスク・アセット調整額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	—
リスク・アセット等の額の合計額	(ニ) 1,610,977	1,565,296
自己資本比率		
自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	9.94	10.01

## 連結自己資本比率（国内基準）

（単位：百万円、％）

項目	2021年度	2020年度
コア資本に係る基礎項目		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	178,003	173,529
うち、資本金及び資本剰余金の額	33,366	33,370
うち、利益剰余金の額	147,390	143,043
うち、自己株式の額（△）	2,122	2,254
うち、社外流出予定額（△）	630	629
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	△18	1,025
うち、為替換算調整勘定	—	—
うち、退職給付に係るものの額	△18	1,025
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る新株予約権の額	220	266
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	3,929	3,713
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	3,929	3,713
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	1,127	1,752
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	13	19
コア資本に係る基礎項目の額	(イ) 183,275	180,307
コア資本に係る調整項目		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	622	753
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	622	753
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
退職給付に係る資産の額	6,875	7,989
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関するものの額	—	—
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額	(ロ) 7,498	8,743
自己資本		
自己資本の額 ((イ) - (ロ))	(ハ) 175,777	171,563
リスク・アセット等		
信用リスク・アセットの額の合計額	1,554,770	1,507,703
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	418	655
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	418	655
マーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	77,461	77,875
信用リスク・アセット調整額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額調整額	—	—
リスク・アセット等の額の合計額	(ニ) 1,632,232	1,585,578
連結自己資本比率		
連結自己資本比率 ((ハ) / (ニ))	10.76	10.82

# 自己資本の充実の状況等／定性的な開示事項【単体ベース】【連結ベース】

## 自己資本調達手段の概要

### 自己資本調達手段（2022年3月末）

自己資本調達手段	コア資本に係る基礎項目の額に算入された額	概要
普通株式	19,598百万円	完全議決権株式

## 銀行、連結グループの自己資本の充実度に関する評価方法の概要

当行では、コア資本をベースとして、各リスクカテゴリーに配賦した資本（リスク資本）の範囲内に計量化されたリスク量（信用リスク、市場リスク）が収まっていることを月次でモニタリングし、自己資本の充実度を評価する態勢としています。

また、配賦した資本に対する利益率を内部管理上の収益指標に活用することにより、健全性の確保とリスクに見合った収益の獲得を目指しています。

その他、自己資本の充実度を管理するものとして、以下の管理を実施しています。

- ・自己資本比率
- ・早期警戒制度の枠組みにおける「銀行勘定の金利リスク」量
- ・統合ストレステスト

なお、連結子会社を含んだ自己資本の充実度については、自己資本比率により評価しております。

## 信用リスクに関する事項

### 1. リスク管理の方針及び手続の概要

（信用リスクとは）

信用リスクとは、お取引先の倒産や経営悪化等を原因として、貸出金の元本や利息の回収が困難となり、銀行が損失を被るリスクをいいます。

（信用リスク管理の基本方針）

当行では、「与信ポートフォリオ管理規程」を制定し、信用リスクの分散を基本とする最適な与信ポートフォリオの構築を目指すとともに、「信用格付」、「自己査定」及び「信用リスク定量化」を通じて、信用リスクの客観的かつ定量的な把握に取り組んでいます。なお、計測した信用リスク量については、半期毎にリスク管理委員会にて評価を実施するとともに、経営陣への報告を行っております。

連結子会社についても、当行の関与のもと、信用リスクの適切な管理に取り組んでおります。

（貸倒引当金の計上基準）

当行の貸倒引当金は、当行「貸倒償却及び貸倒引当金等の計上基準書」に基づき、次のとおり計上しています。

- ・債務者区分が正常先及び要注意先の貸出資産に対しては、各債務者区分毎に予想損失額1年間分を、一般貸倒引当金として計上。
- ・債務者区分が要管理先の貸出資産（ただし、与信額10億円未満の先。与信10億円以上の先についてはDCF法を適用）に対しては、3年間の予想損失額を一般貸倒引当金として計上。
- ・債務者区分が破綻懸念先、実質破綻先、破綻先の貸出資産に対しては、回収不能見込額に対して個別貸倒引当金を計上。

なお、全ての債権は自己査定基準書に基づき、営業店にて1次査定、融資部にて2次査定を実施後、監査部にて内部監査を実施しており、その結果に基づいて上記の引当を行っています。

連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額をそれぞれ引当てております。

### 2. 標準的手法が適用されるポートフォリオに関する事項

（1）リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称

（2）エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称

リスク・ウェイトの判定においては、内部管理との整合を考慮し、また、特定の格付機関に偏らず、格付の客観性を高めるためにも複数の格付機関等を利用することが適切との判断に基づき、(株)格付投資情報センター(R&I)、(株)日本格付研究所(JCR)、S&Pグローバル・レーティング、ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク(Moody's)の4社を採用しております。

※エクスポージャーの種類による格付機関の使い分けは行っていません。

※連結子会社においても、当行と同様の取扱としております。

## 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

（信用リスク削減手法とは）

当行では、自己資本比率の算出において、告示第80条の規定に基づく「信用リスク削減手法」として「包括的手法」を適用しております。信用リスク削減手法とは、当行が抱える信用リスクを軽減するための措置であり、担保、保証、貸出金と預金との相殺等が該当します。

（方針及び手続）

エクスポージャーの信用リスクの削減手段として有効に認められる適格金融資産担保については、行内規程に基づいて評価及び管理を行っており、自行預金及び日本国政府が発行する円建て債券を適格金融資産担保として取り扱っております。また、保証については、住宅金融支援機構や政府関係機関の保証並びに我が国の地方公共団体の保証が主体となっており、貸出金と自行預金については、債務者の担保（総合口座を含む）登録のない定期預金を対象としています。

（信用リスク削減手法の適用に伴う信用リスクの集中）

同一の信用リスク削減手法に偏ることなく、信用リスクは分散されております。

連結子会社においては、信用リスク削減手法の適用はありません。

## 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要

当行の派生商品取引にかかる取引相手の信用リスクに関しては、カレント・エクスポージャー方式により与信相当額を算出しております。長期決済期間取引に該当する取引は行っておりません。

派生商品取引の当行全体の与信相当額や主な取引項目の内訳はリスク管理委員会に報告されます。

担保による保全については、一部の取引でデリバティブ担保契約（C S A契約）によりお互いに担保を提供する契約となっております。

なお、自らの信用力の悪化により担保を追加的に提供することが必要になる場合がありますが、自己資本比率へ重大な影響を与える取引はありません。

連結子会社においては、派生商品取引及び長期決済期間取引に該当する取引を行っておりません。

## 証券化エクスポージャーに関する事項

### 1. リスク管理の方針及びリスク特性の概要

当行は、新規の証券化又は再証券化については、お客さまや市場の動向に応じて検討いたします。

また、投資家としては今後も投資対象として適切な銘柄があれば投資機会を探っていきたくと考えております。

大分リース株式会社においても、新規の証券化又は再証券化につきましては、お客さまや市場の動向に応じて検討いたします。

当行が投資家として保有する場合の証券化商品については、それに関連する信用リスクならびに金利リスクを有することとなります。

これらはいずれも貸出金や有価証券等の取引より発生するものと基本的に変わるものではありません。

### 2. 自己資本比率告示第248条第1項第1号から第4号まで（自己資本比率告示第302条の2第2項において準用する場合を含む。）に規定する体制の整備及びその運用状況の概要

証券化商品に対しては裏付け資産の状況や外部格付の継続的なモニタリングを行い、厳格なリスク管理体制の構築に努めております。

### 3. 信用リスク削減手法として証券化取引を用いる場合の方針

該当ありません。

### 4. 証券化エクスポージャーの信用リスク・アセットの額の算出に使用する方式の名称

当行では、証券化エクスポージャーの信用リスク・アセット額の算出には「外部格付準拠方式」を使用しております。

連結グループである大分リース株式会社においても、証券化エクスポージャーの信用リスク・アセット額の算出には「外部格付準拠方式」を使用しております。

### 5. 証券化エクスポージャーのマーケット・リスク相当額の算出に使用する方式の名称

該当ありません。

### 6. 銀行が証券化目的導管体を用いて第三者の資産に係る証券化取引を行った場合には、当該証券化目的導管体の種類及び当該銀行が当該証券化取引に係る証券化エクスポージャーを保有しているかどうかの別

該当ありません。

### 7. 銀行の子法人等（連結子法人等を除く。）及び関連法人等のうち、当該銀行が行った証券化取引（銀行が証券化目的導管体を用いて行った証券化取引を含む。）に係る証券化エクスポージャーを保有しているものの名称

該当ありません。

### 8. 証券化取引に関する会計方針

当行及び連結グループである大分リース株式会社では、証券化取引の会計上処理につきましては、金融資産の契約上の権利に対する支配が他に移転したことにより金融資産の消滅を認識する「売却処理」を採用しております。

### 9. 証券化エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関の名称（使用する適格格付機関を変更した場合には、その理由を含む。）

証券化エクスポージャーのリスク・ウェイトの判断については、(株) 格付投資情報センター（R & I）、(株) 日本格付研究所（J C R）、S&Pグローバル・レーティング（S & P）、ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク（M o o d y ' s）の適格格付機関4社を使用しています。

なお、証券化エクスポージャーの種類による格付機関の使い分けは行っておりません。

### 10. 内部評価方式を用いている場合には、その概要

該当ありません。

### 11. 定量的な情報に重要な変更が生じた場合には、その内容

該当ありません。

## オペレーショナル・リスクに関する事項

### 1. リスク管理の方針及び手続の概要

(オペレーショナル・リスク管理態勢)

オペレーショナル・リスクとは、銀行の業務の過程、役職員（パートタイマー、派遣社員等を含む）の活動、もしくはシステムが不適切であること又は外生的な事象により、当行が損失を被るリスクをいいます。

当行では、オペレーショナル・リスク管理方針及び同管理規程を制定し、事務リスク、システムリスク、法務リスク、人的リスク、イベントリスク、風評リスク及び情報資産リスクをオペレーショナル・リスクと定義し、その総合的な管理部署をリスク統括部と定めるとともに、各リスクの所管部署等を定めています。各リスクの所管部署はリスク統括部と連携して定期的にリスク管理上の重要課題の抽出を行い、改善する取り組みを実施しております。各所管部署が認識した事務ミス・障害事例、その改善策等は、オペレーショナル・リスク管理委員会において協議・報告を行い、リスク管理の実効性を高めるとともに極小化に努めています。なお、重要度の高い事項については上部組織であるリスク管理委員会へ付議・報告する体制としています。

連結子会社についても、当行の関与のもとオペレーショナル・リスクの適切な管理に取り組んでおります。

### 2. オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称

当行では、自己資本比率規制上のオペレーショナル・リスク相当額の算出にあたっては、金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適切であるかどうかを判断するための基準」に定める「基礎的手法」を採用しております。

連結子会社においても、オペレーショナル・リスク相当額の算出には「基礎的手法」を採用しております。

## 出資等又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

(リスク管理の方針)

当行では、「市場取引において資産・負債を健全かつ効率的な運用・調達を図り安定的な収益を確保するために、能動的に一定の市場リスクを引き受け適切に管理する」という市場リスク管理方針に則り、株式等のリスク管理を行っております。

(手続きの概要)

上場株式等の価格変動リスクの計測は、バリュエーション・アット・リスク（以下、VaR）により行っております。計測手法はヒストリカル・シミュレーション法を採用し、観測期間1,250営業日、信頼区間99%、保有期間は政策投資株式のみ125営業日とし、それ以外は60営業日として計測しております。半期毎にリスク管理委員会において、自己資本や市場環境等を勘案してVaRによるリスク限度額を決定し、その限度額を遵守しながら収益の確保に努めております。

株式等の評価については、子会社株式又は関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち時価のあるものについては移動平均法による時価法、市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。また、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

株式等について、会計方針等を変更した場合は財務諸表等規則第8条の3に基づき、変更の理由や影響額について財務諸表の注記に記載しております。

連結子会社が保有する株式等の評価については、当行に準じて行っております。

## 金利リスクに関する事項

### 1. リスク管理の方針及び手続の概要

(リスク管理の方針および金利リスクの定義)

当行では「市場取引において、資産・負債を健全かつ効率的な運用・調達を図り、安定的な収益を確保するために、能動的に一定の市場リスクを引き受け、適切に管理する」という市場リスク管理方針に則り、金利リスクを市場リスクのひとつとして管理しています。

金利リスクについては、「金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利または期間のミスマッチが存在している中で金利が変動することにより、利益が低下ないし損失を被るリスク」と定義しています。

(金利リスクの管理と手続)

当行では、金利感応性を有する全ての資産・負債、オフバランス取引を金利リスクの管理対象とし、重要性を踏まえて金利リスクを計測しています。金利リスクの管理には、VaR、 $\Delta$ EVE（金利変動に伴う経済価値の変化量）等の指標を用いています。

当行は、金利リスクを適切に管理するため、リスク管理委員会で半期毎にVaR及び $\Delta$ EVEに対する限度枠、アラームポイントを設定して、管理を行っております。具体的には、VaRについては、統合的リスク管理において預金・貸出金の金利リスク及び有価証券の市場リスクに対する限度額としてのリスク資本を配賦し、預金・貸出金は月次、有価証券は日次で計測したVaRがその範囲内に収まっているかを確認しています。 $\Delta$ EVEについては、自己資本に対する比率が一定の水準を超えないよう管理しています。これらの限度枠の遵守状況はリスク管理委員会に月次で報告し、健全性の確保に努めています。

なお、当行では連結の金利リスクは、重要性の観点より、銀行単体の金利リスクと等しいものとみなしています。

### 2. 金利リスクの算定手法の概要

( $\Delta$ EVEに関する事項)

(1) 流動性預金に割り当てられた金利改定の平均満期

4年です。

(2) 流動性預金に割り当てられた最長の金利改定満期

10年としています。

(3) 流動性預金への満期の割当て方法（コア預金モデル等）及びその前提

普通預金など満期のない流動性預金については、内部モデルを使用して預金残高推移を統計的に解析し、将来の預金残高推移を保守的に推計することで実質的な満期を計測しています。推計にあたっては、過去の預金残高の変化と景気指標との関係性、市場金利に対する預金金利の追随率、将来人口推計に基づく影響を考慮しています。将来の預金残高推移の推計結果については定期的にバックテストを実施するなど、モデルの検証等は十分に行っております。

(4) 固定金利貸出の期限前返済や定期預金の早期解約に関する前提

金融庁が定める「保守的な前提」を採用しています。

(5) 複数の通貨の集計方法及びその前提

通貨ごとに算出した $\Delta$ EVEが正となる通貨のみを単純合算しています。

(6) スプレッドに関する前提

スプレッド及びその変動は考慮していません。

- (7) 内部モデルの使用等、 $\Delta$ EVEに重大な影響を及ぼすその他の前提  
 コア預金については、内部モデルで過去の実績及び将来推計データを用いて推計しているため、実績値または将来推計データが大きく変動した場合、 $\Delta$ EVEに影響を及ぼす可能性があります。
- (8) 前期の開示からの変動に関する説明  
 $\Delta$ EVE最大値は、内外金利の上昇に伴う金利リスク低減策（ヘッジ等）、有価証券の入替等により、前期末比減少しています。
- (9) 計測値の解釈や重要性に関するその他の説明  
 $\Delta$ EVEは基準値であるコア資本の20%以内に収まっており、金利リスク管理上、問題ない水準と認識しています。

(その他の金利リスクの算定方法)

金利リスクを含む市場リスクのVaR計測には、ヒストリカル・シミュレーション法を採用しています。金利リスクのVaRの前提条件は、観測期間1,250日、信頼区間99%、保有期間60日とし、預金・貸出金は月次、有価証券は日次で計測を行っています。計測結果については、バックテストやストレス・テストなどにより、計測手法や管理方法の妥当性・有効性を検証しています。

## 連結の範囲に関する事項

### 1.自己資本比率告示第26条の規定により連結自己資本比率を算出する対象となる会社の集団（以下「連結グループ」という。）に属する会社と連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（1976年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づき連結の範囲（以下「会計連結範囲」という。）に含まれる会社との相違点及び当該相違点の生じた原因

連結グループに属する会社と会計連結範囲に含まれる会社に相違点はありません。

### 2.連結グループのうち、連結子会社の数並びに主要な連結子会社の名称及び主要な業務の内容

連結グループに属する連結子会社は8社です。

なお、大銀ビジネスサービス株式会社は、2022年4月1日付で当行に吸収合併いたしました。

主要な連結子会社

名 称	主要な業務の内容
大銀ビジネスサービス株式会社	文書等保管、現金等の精算・整理業務
大銀オフィスサービス株式会社	経理関係計算業務
大分リース株式会社	リース業
大分保証サービス株式会社	債務保証業
株式会社大分カード	クレジットカード業
大銀コンピュータサービス株式会社	コンピュータ関連業務
株式会社大銀経済経営研究所	金融・経済の調査・研究、経営相談業務
大分ベンチャーキャピタル株式会社	ベンチャーキャピタル業

### 3.自己資本比率告示第32条が適用される金融業務を営む関連法人等の数並びに当該金融業務を営む関連法人等の名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産の額並びに主要な業務の内容

該当ありません。

### 4.連結グループに属する会社であって会計連結範囲に含まれないもの及び連結グループに属しない会社であって会計連結範囲に含まれるものの名称、貸借対照表の総資産の額及び純資産額並びに主要な業務の内容

該当ありません。

### 5.連結グループ内の資金及び自己資本の移動に係る制限等の概要

連結子会社8社全てにおいて、債務超過会社はなく自己資本は充実しております。また、連結グループ内において、自己資本にかかる支援は行っておりません。

# 自己資本の充実の状況等／定量的な開示事項【単体ベース】

## 自己資本の充実度に関する事項

### 1.信用リスクに対する所要自己資本の額及びこのうち次に掲げるポートフォリオごとの額

信用リスクに対する所要自己資本の額  
資産（オン・バランス）項目

(単位：百万円)

項 目	(参考) 告示で定める リスク・ウェイト (%)	2020年度		2021年度	
		信用リスク・ アセットの額 (A)	所要自己資本 の額 (A×4%)	信用リスク・ アセットの額 (A)	所要自己資本 の額 (A×4%)
1. 現金	0	—	—	—	—
2. 我が国の中央政府及び中央銀行向け	0	—	—	—	—
3. 外国の中央政府及び中央銀行向け	0~100	—	—	—	—
4. 国際決済銀行等向け	0	—	—	—	—
5. 我が国の地方公共団体向け	0	—	—	—	—
6. 外国の中央政府等以外の公共部門向け	20~100	791	31	—	—
7. 国際開発銀行向け	0~100	—	—	—	—
8. 地方公共団体金融機構向け	10~20	100	4	200	8
9. 我が国の政府関係機関向け	10~20	14,033	561	13,719	548
10. 地方三公社向け	20	267	10	176	7
11. 金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	20~100	40,760	1,630	30,991	1,239
12. 法人等向け	20~100	573,169	22,926	581,913	23,276
13. 中小企業等向け及び個人向け	75	328,242	13,129	359,692	14,387
14. 抵当権付住宅ローン	35	46,338	1,853	46,647	1,865
15. 不動産取得等事業向け	100	233,575	9,343	247,472	9,898
16. 三月以上延滞等	50~150	428	17	575	23
17. 取立未済手形	20	—	—	—	—
18. 信用保証協会等による保証付	0~10	2,195	87	1,555	62
19. 株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	10	—	—	—	—
20. 出資等	100~1250	66,941	2,677	73,529	2,941
21. 上記以外	100~250	64,603	2,584	68,318	2,732
22. 証券化	—	38,934	1,557	43,247	1,729
（うちSTC要件適用分）	—	—	—	—	—
（うち非STC要件適用分）	—	38,934	1,557	43,247	1,729
23. 再証券化	—	—	—	—	—
24. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	—	57,240	2,289	47,874	1,914
（ルック・スルー方式）	—	47,351	1,894	38,283	1,531
（マドレー方式）	—	9,889	395	9,591	383
（蓋然性方式 250%）	—	—	—	—	—
（蓋然性方式 400%）	—	—	—	—	—
（フォールバック方式 1,250%）	—	—	—	—	—
25. 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	655	26	418	16
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	—	—	—	—	—
合 計	—	1,468,280	58,731	1,516,332	60,653

(注) 所要自己資本の額は、資産（オン・バランス）項目の信用リスク・アセット額に国内基準適用行の最低基準である4%を乗じて算出しております。

オフ・バランス項目

(単位：百万円)

項 目	掛目 (%)	2020年度		2021年度	
		信用リスク・アセットの額 (A)	所要自己資本の額 (A×4%)	信用リスク・アセットの額 (A)	所要自己資本の額 (A×4%)
1. 任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	0	—	—	—	—
2. 原契約期間が1年以下のコミットメント	20	1,133	45	1,127	45
3. 短期の貿易関連偶発債務	20	20	0	63	2
4. 特定の取引に係る偶発債務 (うち経過措置を適用する元本補填信託契約)	50	2,137	85	2,094	83
5. NIF又はRUF	50<75>	—	—	—	—
6. 原契約期間が1年超のコミットメント	50	2,519	100	4,697	187
7. 内部格付手法におけるコミットメント	<75>	—	—	—	—
8. 信用供与に直接的に代替する偶発債務 (うち借入金の保証)	100	2,188	87	889	35
(うち有価証券の保証)	100	2,188	87	889	35
(うち手形引受)	100	—	—	—	—
(うち経過措置を適用しない元本補填信託契約)	100	—	—	—	—
(うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供)	100	—	—	—	—
9. 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等 (控除後)	—	—	—	—	—
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等 (控除前)	100	—	—	—	—
控除額 (△)	—	—	—	—	—
10. 先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	100	—	—	—	—
11. 有価証券の買付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	100	3,901	156	7,679	307
12. 派生商品取引及び長期決済期間取引 カレント・エクスポージャー方式	—	5,492	219	2,449	97
派生商品取引	—	5,492	219	2,449	97
(1) 外為関連取引	—	4,608	184	1,739	69
(2) 金利関連取引	—	384	15	710	28
(3) 金関連取引	—	—	—	—	—
(4) 株式関連取引	—	—	—	—	—
(5) 貴金属 (金を除く) 関連取引	—	—	—	—	—
(6) その他のコモディティ関連取引	—	—	—	—	—
(7) クレジット・デリバティブ取引 (カウンターパーティー・リスク)	—	500	20	—	—
(8) 一括清算ネットティング契約による与信相当額削減効果 (△)	—	—	—	—	—
長期決済期間取引	—	—	—	—	—
SA-CCR	—	—	—	—	—
(1) 派生商品取引	—	—	—	—	—
(2) 長期決済期間取引	—	—	—	—	—
期待エクスポージャー方式	—	—	—	—	—
13. 未決済取引	—	—	—	—	—
14. 証券化エクスポージャーに係る適格なサービサー・キャッシュ・アドバンスの信用供与枠のうち未実行部分	0	—	—	—	—
15. 上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	—	—	—	—	—
合 計	—	17,393	695	19,001	760

(注) 所要自己資本の額は、オフ・バランス取引項目のリスク・アセット額に国内基準適用行の最低基準である4%を乗じて算出しております。

CVAリスク相当額

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
CVAリスク相当額	598	293
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	7,481	3,667
所要自己資本額	299	146

(注) CVAリスク相当額に対する所要自己資本の額は、CVAリスク相当額を8%で除して得た額に、国内基準適用行の最低水準である4%を乗じて算出しております。なお、CVAリスク相当額は簡便的リスク測定方式により算出しております。

適格中央清算機関関連エクスポージャー

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
適格中央清算機関関連エクスポージャー	—	—
適格中央清算機関関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額	—	—
所要自己資本額	—	—

(注) 中央清算機関関連エクスポージャーに対する所要自己資本の額は、中央清算機関関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額に、国内基準適用行の最低水準である4%を乗じて算出しております。

## 2.オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額及びこのうち銀行が使用する手法ごとの額 オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本額	2,885	2,879
うち基礎的手法	2,885	2,879
うち粗利益配分手法	—	—
うち先進的計測手法	—	—

(注) 所要自己資本額は、オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額に、国内基準適用行の最低基準である4%を乗じて算出してあります。

## 3.単体総所要自己資本額 (国内基準)

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
単体総所要自己資本額	62,611	64,439

(注) 当行は、海外営業拠点を有していないため、リスク・アセット等の合計額に4%を乗じて算出してあります。

信用リスク (リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く。)に関する事項

- 1.信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高及びエクスポージャーの主な種類別の内訳
- 2.信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高のうち、区分ごとの額及びそれらのエクスポージャーの主な種類別の内訳
- 3.3ヶ月以上延滞エクスポージャーの期末残高又はデフォルトしたエクスポージャーの期末残高及び区分ごとの内訳

### オンバランス・エクスポージャーの期末残高

(単位：百万円)

区 分	2020年度	2021年度
1. 現金	33,847	32,489
2. 我が国の中央政府及び中央銀行向け	706,272	1,323,332
3. 外国の中央政府及び中央銀行向け	90,060	84,008
4. 国際決済銀行等向け	—	—
5. 我が国の地方公共団体向け	563,864	597,111
6. 外国の中央政府等以外の公共部門向け	3,958	—
7. 国際開発銀行向け	—	—
8. 地方公共団体金融機構向け	1,000	2,000
9. 我が国の政府関係機関向け	140,339	137,193
10. 地方三公社向け	1,822	1,310
11. 金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	200,342	153,079
12. 法人等向け	767,232	772,045
13. 中小企業等向け及び個人向け	446,266	487,619
14. 抵当権付住宅ローン	132,531	133,432
15. 不動産取得等事業向け	234,756	248,746
16. 三月以上延滞等	303	609
17. 取立未済手形	—	—
18. 信用保証協会等による保証付	82,557	83,543
19. 株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—
20. 出資等	66,941	73,529
21. 上記以外	49,879	53,594
22. 証券化	5,921	5,690
(うち、STC要件適用分)	—	—
(うち、非STC要件適用分)	5,921	5,690
23. 再証券化	—	—
24. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	213,162	215,349
合 計	3,741,059	4,404,689

### オフバランス・エクスポージャーの期末残高

(単位：百万円)

区 分	2020年度	2021年度
任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	607,988	645,600
原契約期間が1年以下のコミットメント	5,765	5,729
短期の貿易関連偶発債務	104	318
特定の取引に係る偶発債務	7,056	7,026
原契約期間が1年超のコミットメント	7,038	10,909
信用供与に直接的に代替する偶発債務	2,256	905
有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	98,427	145,037
派生商品取引及び長期決済期間取引	339,659	356,242
合 計	1,068,297	1,171,768

### 3ヶ月以上延滞エクスポージャーの業種別内訳

(単位：百万円)

業 種 名	2020年度	2021年度
製造業	0	9
農業・林業	5	0
漁業	2	—
建設業	2	—
運輸業・郵便業	—	—
卸売業・小売業	15	—
金融業・保険業	—	—
不動産業・物品賃貸業	—	—
各種サービス業	24	13
その他	197	586
合 計	248	609

(注) 3ヶ月以上延滞エクスポージャーについて、地域別に区分していません。

#### 4.一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中の増減額

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中増減額 (単位：百万円)

		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
一般貸倒引当金	2020年度	2,986	3,243	2,986	3,243
	2021年度	3,243	3,425	3,243	3,425
個別貸倒引当金	2020年度	20,546	23,230	20,546	23,230
	2021年度	23,230	23,145	23,230	23,145
特定海外債権引当勘定	2020年度	—	—	—	—
	2021年度	—	—	—	—
合計	2020年度	23,532	26,474	23,532	26,474
	2021年度	26,474	26,570	26,474	26,570

(個別貸倒引当金の地域別、業種別内訳) (単位：百万円)

	期首残高 2020年3月末	当期増加額	当期減少額	期末残高 2021年3月末
国内計	20,546	4,216	1,532	23,230
国外計	—	—	—	—
地域別合計	20,546	4,216	1,532	23,230
製造業	551	30	119	462
農業・林業	19	15	15	19
漁業	540	55	2	594
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—
建設業	167	428	96	499
電気・ガス・熱供給・水道業	—	1,861	—	1,861
情報通信業	—	—	—	—
運輸業・郵便業	1,162	—	41	1,120
卸売業・小売業	6,577	574	461	6,690
金融業・保険業	2,348	—	18	2,330
不動産業・物品賃貸業	1,255	752	107	1,900
各種サービス業	5,179	136	663	4,652
地方公共団体	—	—	—	—
その他	2,741	362	6	3,098
業種別計	20,546	4,216	1,532	23,230

(単位：百万円)

	期首残高 2021年3月末	当期増加額	当期減少額	期末残高 2022年3月末
国内計	23,230	3,321	3,406	23,145
国外計	—	—	—	—
地域別合計	23,230	3,321	3,406	23,145
製造業	462	121	55	528
農業・林業	19	6	10	16
漁業	594	0	55	539
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—
建設業	499	2	379	122
電気・ガス・熱供給・水道業	1,861	1,610	308	3,163
情報通信業	—	—	—	—
運輸業・郵便業	1,120	—	281	839
卸売業・小売業	6,690	285	1,005	5,969
金融業・保険業	2,330	—	204	2,126
不動産業・物品賃貸業	1,900	35	444	1,491
各種サービス業	4,652	1,260	526	5,386
地方公共団体	—	—	—	—
その他	3,098	0	136	2,962
業種別計	23,230	3,321	3,406	23,145

#### 5.業種別又は取引相手別の貸出金償却の額

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
卸売業・小売業	—	—
製造業	—	—
その他	0	0
合計	0	0

#### 6.標準的手法が適用されるエクスポージャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果をもとにした後の残高並びに自己資本比率告示第79条の5第2項第2号、第177条の2第2項第2号、第248条並びに第248条の4第1項第1号及び第2号の規定により1,250%のリスク・ウェイトが適用されるエクスポージャーの額

リスク・ウェイトの区分毎のエクスポージャー

(単位：百万円)

リスク・ウェイト	2020年度		2021年度	
	外部格付有り	外部格付無し	外部格付有り	外部格付無し
0%	—	1,360,197	—	2,004,453
10%	—	225,719	—	224,048
20%	99,566	204,300	101,281	153,079
35%	—	132,531	—	133,432
50%	20,578	—	19,157	—
75%	—	446,266	—	487,619
100%	14,975	973,873	18,143	999,517
150%以上～1250%未満	5,921	10,119	5,690	10,425
1,250% リスク・ウェイトみなし計算分	—	—	—	—
合計	141,041	3,566,170	144,272	4,227,926

(注) オンバランス・エクスポージャーのみを記載しております。また、「リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー」については詳細把握が困難なため、「リスク・ウェイトのみなし計算分」の「外部格付無し」の区分に一括計上しております。

## 信用リスク削減手法に関する事項

### 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

(単位：百万円)

区分	2020年度	2021年度
現金及び自行預金	20,252	20,305
金	—	—
適格債券	—	—
適格株式	—	—
適格投資信託	—	—
適格金融資産担保合計	20,252	20,305
適格保証	84,020	84,712
適格クレジット・デリバティブ	—	—
適格保証、適格クレジット・デリバティブ合計	84,020	84,712

## 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

### 1.与信相当額の算出に用いる方式

スワップ取引等の派生商品取引の与信相当額はカレント・エクスポージャー方式にて算出しております。  
 なお、長期決済期間取引に該当する取引は行っておりません。

### 2.グロス再構築コストの額（零を下回らないものに限る。）の合計額

グロス再構築コストの額の合計額は4,033百万円です。

### 3.担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額

担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額は次のとおりであります。  
 なお、派生商品取引については担保による信用リスク削減を行っておりません。

(単位：百万円)

種類及び取引の区分	2020年度	2021年度
派生商品取引	13,726	9,925
外国為替関連取引及び金関連取引	12,544	6,394
金利関連取引	1,182	3,530
株式関連取引	—	—
貴金属関連取引（金関連取引を除く。）	—	—
その他のコモディティ関連取引	—	—
クレジット・デリバティブ	—	—
合計	13,726	9,925

(注) 1.原契約期間が5日以内の外為関連取引の与信相当額は、上記記載から除いております。  
 2.証券投資信託等に含まれる派生商品取引及び長期決済期間取引は含めておりません。

### 4.2.に掲げる合計額及びグロスのアドオンの合計額から3.に掲げる額を差し引いた額（カレント・エクスポージャー方式を用いる場合に限る。）

グロス再構築コストの合計額及びグロスのアドオンの合計額から担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額を差し引いた額はゼロになります。

### 5.担保の種類別の額

該当ありません。

### 6.担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額

担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

種類及び取引の区分	2020年度	2021年度
派生商品取引	13,726	9,925
外国為替関連取引及び金関連取引	12,544	6,394
金利関連取引	1,182	3,530
株式関連取引	—	—
貴金属関連取引（金関連取引を除く。）	—	—
その他のコモディティ関連取引	—	—
クレジット・デリバティブ	—	—
合計	13,726	9,925

(注) 1.原契約期間が5日以内の外為関連取引の与信相当額は、上記記載から除いております。  
 2.証券投資信託等に含まれる派生商品取引及び長期決済期間取引は含めておりません。

### 7.与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額をクレジット・デリバティブの種類別、かつ、プロテクションの購入又は提供の別に区分した額

該当ありません。

8.信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額  
該当ありません。

証券化エクスポージャーに関する事項

1.銀行がオリジネーターである証券化エクスポージャーに関する事項

該当ありません。

2.銀行が投資家である証券化エクスポージャーに関する事項

(1) 銀行が投資家として保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

原資産の種類	2020年度	2021年度
船舶	5,921	5,690
合計	5,921	5,690

(2) 銀行が投資家として保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

リスク・ウェイト区分	2020年度		2021年度	
	残高	所要自己資本	残高	所要自己資本
20%以下	—	—	—	—
20%超 50%以下	—	—	—	—
50%超 100%以下	—	—	—	—
100%超 1,250%以下	5,921	1,557	5,690	1,729
合計	5,921	1,557	5,690	1,729

(注) 1.オフバランス取引は該当ありません。  
2.再証券化エクスポージャーに該当する取引は保有しておりません。

(3) 自己資本比率告示第248条並びに第248条の4第1項第1号及び第2号の規定により1,250パーセントのリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

該当ありません。

(4) 保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳

該当ありません。

出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項

1.貸借対照表計上額、時価及び次に掲げる事項に係る貸借対照表計上額

出資等エクスポージャーの貸借対照表計上額等

(単位：百万円)

	2020年度		2021年度	
	貸借対照表額	時価	貸借対照表額	時価
上場している出資等又は株式等エクスポージャーの貸借対照表計上額	64,954	—	67,376	—
上記に該当しない出資等又は株式等エクスポージャーの貸借対照表計上額	2,011	—	2,011	—
合計	66,966	66,966	69,388	69,388

(注) 1.他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額を含んでおります。  
2.証券投資信託等に含まれる出資又は株式等エクスポージャーは含めておりません。

子会社・関連会社株式の貸借対照表計上額等

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
子会社・子法人等	4,787	4,787
関連法人等	—	—
合計	4,787	4,787

2.出資等又は株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

出資等又は株式等エクスポージャー

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
売却損益額	3,253	1,324
償却額	278	430

3.貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額は23,016百万円です。

なお、証券投資信託等に含まれる出資又は株式等エクスポージャーは含めておりません。

## 4.貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

該当ありません。

## 金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

IRRBB 1 : 金利リスク					
項番		イ	ロ	ハ	ニ
		△EVE		△NII	
		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	15,423	24,050	5,197	3,804
2	下方パラレルシフト	13,499	21,992	4,727	5,143
3	スティープ化	8,665	16,134		
4	フラット化				
5	短期金利上昇				
6	短期金利低下				
7	最大値	15,423	24,050		
		ホ		へ	
		当期末		前期末	
8	自己資本の額	160,178		156,755	

# 自己資本の充実の状況等／定量的な開示事項【連結ベース】

その他の金融機関等（自己資本比率告示第29条第6項第1号に規定するその他金融機関等をいう。）であって銀行の子法人等であるもののうち、自己資本比率規制上の所要自己資本を下回った会社の名称と所要自己資本を下回った額の総額

該当ありません。

## 自己資本の充実度に関する事項

### 1.信用リスクに対する所要自己資本の額及びこのうち次に掲げるポートフォリオごとの額

信用リスクに対する所要自己資本の額  
資産（オン・バランス）項目

(単位：百万円)

項 目	(参考) 告示で定める リスク・ウェイト (%)	2020年度		2021年度	
		信用リスク・ アセットの額 (A)	所要自己資本 の額 (A×4%)	信用リスク・ アセットの額 (A)	所要自己資本 の額 (A×4%)
1. 現金	0	-	-	-	-
2. 我が国の中央政府及び中央銀行向け	0	-	-	-	-
3. 外国の中央政府及び中央銀行向け	0~100	-	-	-	-
4. 国際決済銀行等向け	0	-	-	-	-
5. 我が国の地方公共団体向け	0	-	-	-	-
6. 外国の中央政府等以外の公共部門向け	20~100	791	31	-	-
7. 国際開発銀行向け	0~100	-	-	-	-
8. 地方公共団体金融機構向け	10~20	100	4	200	8
9. 我が国の政府関係機関向け	10~20	14,033	561	13,719	548
10. 地方三公社向け	20	267	10	176	7
11. 金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	20~100	40,951	1,638	30,949	1,237
12. 法人等向け	20~100	585,919	23,436	595,873	23,834
13. 中小企業等向け及び個人向け	75	331,086	13,243	362,667	14,506
14. 抵当権付住宅ローン	35	46,338	1,853	46,647	1,865
15. 不動産取得等事業向け	100	233,582	9,343	247,479	9,899
16. 三月以上延滞等	50~150	460	18	608	24
17. 取立未済手形	20	-	-	-	-
18. 信用保証協会等による保証付	0~10	2,196	87	1,555	62
19. 株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	10	-	-	-	-
20. 出資等	100~1250	62,430	2,497	68,977	2,759
21. 上記以外	100~250	67,658	2,706	71,481	2,859
22. 証券化	-	38,934	1,557	43,247	1,729
(うちSTC要件適用分)	-	-	-	-	-
(うち非STC要件適用分)	-	38,934	1,557	43,247	1,729
23. 再証券化	-	-	-	-	-
24. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	-	57,417	2,296	48,096	1,923
(ルック・スルー方式)	-	47,351	1,894	38,283	1,531
(マデート方式)	-	10,066	402	9,813	392
(蓋然性方式 250%)	-	-	-	-	-
(蓋然性方式 400%)	-	-	-	-	-
(フォールバック方式 1,250%)	-	-	-	-	-
25. 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	-	655	26	418	16
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	-	-	-	-	-
合 計	-	1,482,825	59,313	1,532,099	61,283

(注) 所要自己資本の額は、資産（オン・バランス）項目の信用リスク・アセット額に国内基準適用行の最低基準である4%を乗じて算出しております。

## オフ・バランス項目

(単位：百万円)

項 目	掛目 (%)	2020年度		2021年度	
		信用リスク・ アセットの額 (A)	所要自己資本 の額 (A×4%)	信用リスク・ アセットの額 (A)	所要自己資本 の額 (A×4%)
1. 任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	0	—	—	—	—
2. 原契約期間が1年以下のコミットメント	20	1,133	45	1,127	45
3. 短期の貿易関連偶発債務	20	20	0	63	2
4. 特定の取引に係る偶発債務 (うち経過措置を適用する元本補填信託契約)	50	2,137	85	2,094	83
5. NIF又はRUF	50<75>	—	—	—	—
6. 原契約期間が1年超のコミットメント	50	2,519	100	4,697	187
7. 内部格付手法におけるコミットメント	<75>	—	—	—	—
8. 信用供与に直接的に代替する偶発債務	100	2,191	87	891	35
(うち借入金の保証)	100	2,191	87	891	35
(うち有価証券の保証)	100	—	—	—	—
(うち手形引受)	100	—	—	—	—
(うち経過措置を適用しない元本補填信託契約)	100	—	—	—	—
(うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供)	100	—	—	—	—
9. 買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等 (控除後)	—	—	—	—	—
買戻条件付資産売却又は求償権付資産売却等 (控除前)	100	—	—	—	—
控除額 (△)	—	—	—	—	—
10. 先物購入、先渡預金、部分払込株式又は部分払込債券	100	—	—	—	—
11. 有価証券の買付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	100	3,901	156	7,679	307
12. 派生商品取引及び長期決済期間取引	—	5,492	219	2,449	97
カレント・エクスポージャー方式	—	5,492	219	2,449	97
派生商品取引	—	5,492	219	2,449	97
(1) 外為関連取引	—	4,608	184	1,739	69
(2) 金利関連取引	—	384	15	710	28
(3) 金関連取引	—	—	—	—	—
(4) 株式関連取引	—	—	—	—	—
(5) 貴金属 (金を除く) 関連取引	—	—	—	—	—
(6) その他のコモディティ関連取引	—	—	—	—	—
(7) クレジット・デリバティブ取引 (カウンターパーティー・リスク)	—	500	20	—	—
(8) 一括清算ネットティング契約による与信相当額削減効果 (△)	—	—	—	—	—
長期決済期間取引	—	—	—	—	—
SA-CCR	—	—	—	—	—
(1) 派生商品取引	—	—	—	—	—
(2) 長期決済期間取引	—	—	—	—	—
期待エクスポージャー方式	—	—	—	—	—
13. 未決済取引	—	—	—	—	—
14. 証券化エクスポージャーに係る適格なサービサー・キャッシュ・アドバンスの信用供与枠のうち未実行部分	0	—	—	—	—
15. 上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	—	—	—	—	—
合 計	—	17,396	695	19,003	760

(注) 所要自己資本の額は、オフ・バランス取引項目のリスク・アセット額に国内基準適用行の最低基準である4%を乗じて算出しております。

## CVAリスク相当額

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
CVAリスク相当額	598	293
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	7,481	3,667
所要自己資本額	299	146

(注) CVAリスク相当額に対する所要自己資本の額は、CVAリスク相当額を8%で除して得た額に、国内基準適用行の最低水準である4%を乗じて算出しております。なお、CVAリスク相当額は簡便的リスク測定方式により算出しております。

## 適格中央清算機関関連エクスポージャー

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
適格中央清算機関関連エクスポージャー	—	—
適格中央清算機関関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額	—	—
所要自己資本額	—	—

(注) 中央清算機関関連エクスポージャーに対する所要自己資本の額は、中央清算機関関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額に、国内基準適用行の最低水準である4%を乗じて算出しております。

## 2.オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額及びこのうち連結グループが使用する手法ごとの額

オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本額	3,115	3,098
うち基礎的手法	3,115	3,098
うち粗利益配分手法	—	—
うち先進的計測手法	—	—

(注) 所要自己資本額は、オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額に、国内基準適用行の最低基準である4%を乗じて算出しております。

## 3.連結総所要自己資本額 (国内基準)

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
連結総所要自己資本額	63,423	65,289

(注) 当行は、海外営業拠点を有していないため、リスク・アセット等の合計額に4%を乗じて算出しております。

信用リスク (リスク・ウェイトのみなし計算又は信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く。)に関する事項

- 1.信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高及びエクスポージャーの主な種類別の内訳
- 2.信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高のうち、区分ごとの額及びそれらのエクスポージャーの主な種類別の内訳
- 3.3ヵ月以上延滞エクスポージャーの期末残高又はデフォルトしたエクスポージャーの期末残高及び区分ごとの内訳

オンバランス・エクスポージャーの期末残高

(単位：百万円)

区 分	2020年度	2021年度
1. 現金	33,849	32,491
2. 我が国の中央政府及び中央銀行向け	706,273	1,323,424
3. 外国の中央政府及び中央銀行向け	90,060	84,008
4. 国際決済銀行等向け	—	—
5. 我が国の地方公共団体向け	564,030	597,251
6. 外国の中央政府等以外の公共部門向け	3,958	—
7. 国際開発銀行向け	—	—
8. 地方公共団体金融機構向け	1,000	2,000
9. 我が国の政府関係機関向け	140,339	137,193
10. 地方三公社向け	1,822	1,310
11. 金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	201,296	152,871
12. 法人等向け	780,790	786,933
13. 中小企業等向け及び個人向け	450,058	491,587
14. 抵当権付住宅ローン	132,531	133,432
15. 不動産取得等事業向け	234,763	248,752
16. 三月以上延滞等	359	671
17. 取立未済手形	—	—
18. 信用保証協会等による保証付	82,559	83,544
19. 株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—
20. 出資等	62,430	68,977
21. 上記以外	52,934	56,757
22. 証券化	5,921	5,690
(うちS T C要件適用分)	—	—
(うち非S T C要件適用分)	5,921	5,690
23. 再証券化	—	—
24. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	213,380	215,627
合 計	3,758,360	4,422,527

オフバランス・エクスポージャーの期末残高

(単位：百万円)

区 分	2020年度	2021年度
任意の時期に無条件で取消可能又は自動的に取消可能なコミットメント	614,634	651,884
原契約期間が1年以下のコミットメント	5,765	5,729
短期の買戻関連偶発債務	104	318
特定の取引に係る偶発債務	7,056	7,026
原契約期間が1年超のコミットメント	7,038	10,909
信用供与に直接的に代替する偶発債務	2,260	908
有価証券の貸付、現金若しくは有価証券による担保の提供又は有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	98,427	145,037
派生商品取引及び長期決済期間取引	339,659	356,242
合 計	1,074,946	1,178,056

3ヵ月以上延滞エクスポージャーの業種別内訳 (単位：百万円)

業 種 名	2020年度	2021年度
製造業	0	9
農業・林業	5	2
漁業	2	—
建設業	3	—
運輸業・郵便業	—	—
卸売業・小売業	15	—
金融業・保険業	—	—
不動産業・物品賃貸業	—	—
各種サービス業	29	15
その他	199	589
合 計	255	615

(注) 3ヵ月以上延滞エクスポージャーについて、地域別に区分していません。

#### 4.一般貸倒引当金、個別貸倒引当金及び特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中の増減額 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、特定海外債権引当勘定の期末残高及び期中増減額

(単位：百万円)

		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
一般貸倒引当金	2020年度	3,471	3,713	3,471	3,713
	2021年度	3,713	3,929	3,713	3,929
個別貸倒引当金	2020年度	22,527	25,232	22,527	25,232
	2021年度	25,232	25,341	25,232	25,341
特定海外債権引当勘定	2020年度	—	—	—	—
	2021年度	—	—	—	—
合計	2020年度	25,998	28,945	25,998	28,945
	2021年度	28,945	29,270	28,945	29,270

#### (個別貸倒引当金の地域別、業種別内訳)

(単位：百万円)

	期首残高 2021年3月末	当期増加額	当期減少額	期末残高 2022年3月末
国内計	23,230	3,321	3,406	23,145
国外計	—	—	—	—
地域別合計	23,230	3,321	3,406	23,145
製造業	462	121	55	528
農業・林業	19	6	10	16
漁業	594	0	55	539
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—
建設業	499	2	379	122
電気・ガス・熱供給・水道業	1,861	1,610	308	3,163
情報通信業	—	—	—	—
運輸業・郵便業	1,120	—	281	839
卸売業・小売業	6,690	285	1,005	5,969
金融業・保険業	2,330	—	204	2,126
不動産業・物品賃貸業	1,900	35	444	1,491
各種サービス業	4,652	1,260	526	5,386
地方公共団体	—	—	—	—
その他	3,098	0	136	2,962
業種別計	23,230	3,321	3,406	23,145

(注) 本表は、単体ベースでの個別貸倒引当金のみを記載しております。  
連結子会社の個別貸倒引当金については、全体に占める割合が僅少であり、地域別、業種別の切り口での集計を行っておりません。

#### 5.業種別又は取引相手別の貸出金償却の額

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
製造業	—	—
卸売業・小売業	—	—
個人	128	86
その他	0	0
合計	128	86

(注) 個別貸倒引当金控除前の金額を記載しております。

#### 6.標準的手法が適用されるエクスポージャーについて、リスク・ウェイトの区分ごとの信用リスク削減手法の効果をもとにした後の残高並びに自己資本比率告示第79条の5第2項第2号、第177条の2第2項第2号、第248条並びに第248条の4第1項第1号及び第2号の規定により1,250%のリスク・ウェイトが適用されるエクスポージャーの額

リスク・ウェイトの区分毎のエクスポージャー

(単位：百万円)

リスク・ウェイト	2020年度		2021年度	
	外部格付有り	外部格付無し	外部格付有り	外部格付無し
0%	—	1,360,197	—	2,004,453
10%	—	225,719	—	224,048
20%	99,566	204,300	101,281	153,079
35%	—	132,531	—	133,432
50%	20,578	—	19,157	—
75%	—	446,266	—	487,619
100%	14,975	973,873	18,143	999,517
150%以上～1250%未満	5,921	10,119	5,690	10,425
1250%	—	—	—	—
リスク・ウェイトみなし計算分	—	213,162	—	215,349
合計	141,041	3,566,170	144,272	4,227,926

(注) 本表は、単体ベースでのオンバランス・エクスポージャーのみを記載しております。また、「リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー」については詳細把握が困難なため、「リスク・ウェイトみなし計算分」の「外部格付無し」の区分に一括計上しております。なお、連結子会社及びオフバランスのエクスポージャーについては、全体に占める割合が僅少であり、リスク・ウェイト別の切り口での集計を行っておりません。

## 信用リスク削減手法に関する事項

### 信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

(単位：百万円)

区分	2020年度	2021年度
現金及び自行預金	20,252	20,305
金	—	—
適格債券	—	—
適格株式	—	—
適格投資信託	—	—
適格金融資産担保合計	20,252	20,305
適格保証	84,020	84,712
適格クレジット・デリバティブ	—	—
適格保証、適格クレジット・デリバティブ合計	84,020	84,712

(注) 本表は、単体ベースでの信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーのみを記載しております。連結子会社においては、信用リスク削減手法の適用はありません。

## 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

### 1.与信相当額の算出に用いる方式

スワップ取引等の派生商品取引の与信相当額はカレント・エクスポージャー方式にて算出しております。  
 なお、長期決済期間取引に該当する取引は行っておりません。  
 また、連結子会社においては、派生商品取引及び長期決済期間取引に該当する取引は行っておりません。

### 2.グロス再構築コストの額（零を下回らないものに限る。）の合計額

グロス再構築コストの額の合計額は4,033百万円です。

### 3.担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額

担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額は次のとおりであります。  
 なお、派生商品取引については担保による信用リスク削減を行っておりません。

(単位：百万円)

種類及び取引の区分	2020年度	2021年度
派生商品取引	13,726	9,925
外国為替関連取引及び金関連取引	12,544	6,394
金利関連取引	1,182	3,530
株式関連取引	—	—
貴金属関連取引（金関連取引を除く）	—	—
その他のコモディティ関連取引	—	—
クレジット・デリバティブ	—	—
合計	13,726	9,925

(注) 1.原契約期間が5日以内の外為関連取引の与信相当額は、上記記載から除いております。  
 2.証券投資信託等に含まれる派生商品取引及び長期決済期間取引は含めておりません。

### 4.2.に掲げる合計額及びグロスのアドオンの合計額から3.に掲げる額を差し引いた額（カレント・エクスポージャー方式を用いる場合に限る。）

グロス再構築コストの合計額及びグロスのアドオンの合計額から担保による信用リスク削減手法の効果を勘案する前の与信相当額を差し引いた額はゼロになります。

### 5.担保の種類別の額

該当ありません。

### 6.担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額

担保による信用リスク削減手法の効果を勘案した後の与信相当額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

種類及び取引の区分	2020年度	2021年度
派生商品取引	13,726	9,925
外国為替関連取引及び金関連取引	12,544	6,394
金利関連取引	1,182	3,530
株式関連取引	—	—
貴金属関連取引（金関連取引を除く）	—	—
その他のコモディティ関連取引	—	—
クレジット・デリバティブ	—	—
合計	13,726	9,925

(注) 1.原契約期間が5日以内の外為関連取引の与信相当額は、上記記載から除いております。  
 2.証券投資信託等に含まれる派生商品取引及び長期決済期間取引は含めておりません。

## 7.与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額をクレジット・デリバティブの種類別、かつ、プロテクションの購入又は提供の別に区分した額

該当ありません。

## 8.信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額

該当ありません。

## 証券化エクスポージャーに関する事項

### 1.連結グループがオリジネーターである証券化エクスポージャーに関する事項

該当ありません。

### 2.連結グループが投資家である証券化エクスポージャーに関する事項

#### (1) 連結グループが投資家として保有する証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

(単位：百万円)

原資産の種類	2020年度	2021年度
船舶	5,921	5,690
合計	5,921	5,690

#### (2) 連結グループが投資家として保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウエイトの区分ごとの残高及び所要自己資本の額

(単位：百万円)

リスク・ウエイト区分	2020年度		2021年度	
	残高	所要自己資本	残高	所要自己資本
20%以下	—	—	—	—
20%超 50%以下	—	—	—	—
50%超 100%以下	—	—	—	—
100%超 1,250%以下	5,921	1,557	5,690	1,729
合計	5,921	1,557	5,690	1,729

(注) 1.オフバランス取引は該当ありません。  
2.再証券化エクスポージャーに該当する取引は保有しておりません。

#### (3) 自己資本比率告示第248条並びに第248条の4第1項第1号及び第2号の規定により1,250パーセントのリスク・ウエイトが適用される証券化エクスポージャーの額及び主な原資産の種類別の内訳

該当ありません。

#### (4) 保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無及び保証人ごと又は当該保証人に適用されるリスク・ウエイトの区分ごとの内訳

該当ありません。

## 出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項

### 1.連結貸借対照表計上額、時価及び次に掲げる事項に係る連結貸借対照表計上額

#### 出資等エクスポージャーの連結貸借対照表計上額等

(単位：百万円)

	2020年度		2021年度	
	連結貸借対照表額	時価	連結貸借対照表額	時価
上場している出資等又は株式等エクスポージャーの連結貸借対照表計上額	65,255		67,621	
上記に該当しない出資等又は株式等エクスポージャーの連結貸借対照表計上額	2,161		2,134	
合計	67,417	67,417	69,756	69,756

(注) 1.他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額を含んでおります。  
2.証券投資信託等に含まれる出資等又は株式等エクスポージャーは含めておりません。

### 2.出資等又は株式等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

#### 出資等又は株式等エクスポージャー

(単位：百万円)

	2020年度	2021年度
売却損益額	3,265	1,340
償却額	282	436

### 3.連結貸借対照表で認識され、かつ、連結損益計算書で認識されない評価損益の額

連結貸借対照表で認識され、かつ、連結損益計算書で認識されない評価損益の額は23,099百万円です。  
 なお、証券投資信託等に含まれる出資又は株式等エクスポージャーは含めておりません。

### 4.連結貸借対照表及び連結損益計算書で認識されない評価損益の額

該当ありません。

### 金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

IRRBB 1：金利リスク					
項番		イ	ロ	ハ	ニ
		△EVE		△NII	
		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	15,423	24,050	5,197	3,804
2	下方パラレルシフト	13,499	21,992	4,727	5,143
3	スティープ化	8,665	16,134		
4	フラット化				
5	短期金利上昇				
6	短期金利低下				
7	最大値	15,423	24,050		
		ホ		ハ	
		当期末		前期末	
8	自己資本の額	175,777		171,563	

# 銀行等の報酬等に関する情報開示【単体ベース】【連結ベース】

## 1. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等に関する組織体制の整備状況に関する事項

### (1) 「対象役職員」の範囲

開示の対象となる報酬告示に規定されている「対象役員」および「対象従業員等」（合わせて「対象役職員」）の範囲については、以下のとおりであります。

#### ① 「対象役員」の範囲

「対象役員」は、当行の取締役であります。なお、社外取締役を除いております。

#### ② 「対象従業員等」の範囲

当行では、対象役員以外の当行の役員および従業員ならびに主要な連結子法人等の役職員のうち、「高額の報酬等を受ける者」で当行およびその主要な連結子法人等の業務の運営または財産の状況に重要な影響を与える者等を「対象従業員等」として、開示の対象としております。

なお、当行の対象役員以外の役員および従業員ならびに主要な連結子法人等の役職員で、対象従業員等に該当する者はありません。

#### (ア) 「主要な連結子法人等」の範囲

「主要な連結子法人等」とは、銀行の連結総資産に対する当該子法人等の総資産の割合が2%を超えるものおよびグループ経営に重要な影響を与える連結子法人等であり、該当ありません。

#### (イ) 「高額の報酬等を受ける者」の範囲

「高額の報酬等を受ける者」とは、当行の有価証券報告書記載の「役員区分ごとの報酬の総額」を同記載の「対象となる役員の数」により除すことで算出される「対象役職員の平均報酬額」以上の報酬を受ける者を指します。

#### (ウ) 「グループの業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者」の範囲

「グループの業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者」とは、その者が通常行う取引や管理する事項が、当行および主要な連結子法人等の業務の運営に相当程度の影響を与え、または取引等に損失が発生することにより財産の状況に重要な影響を与える者であります。

### (2) 対象役職員の報酬等の決定について

#### ① 対象役職員の報酬等の決定について

当行では、株主総会において役員報酬の総額（上限額）を決定しております。株主総会で決議された取締役（監査等委員である取締役を除く）の報酬の個人別の配分については、取締役会に付議の上、決定しております。また、監査等委員である取締役の報酬の個人別の配分については、監査等委員会にて協議の上、決定しております。

### (3) 報酬委員会等の構成員に対して払われた報酬等の総額および報酬委員会等の会議の開催回数

	開催回数（2021年4月～2022年3月）
取締役会	1回

(注) 報酬等の総額については、報酬委員会等の職務執行に係る対価に相当する部分のみを切り離して算出することができないため、報酬等の総額は記載しておりません。

## 2. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等の体系の設計および運用の適切性の評価に関する事項

### (1) 報酬等に関する方針について

「対象役員」の報酬等に関する方針

当行の取締役（監査等委員である取締役及び社外取締役を除く）に対する報酬等は、「確定金額報酬」、「役員賞与」及び「ストック・オプション報酬」で構成され、監査等委員である取締役及び社外取締役に対する報酬等は、「確定金額報酬」で構成されております。

「確定金額報酬」及び「役員賞与」については、株主総会で定められた報酬年額限度額（取締役300百万円、監査等委員である取締役80百万円）の範囲内で、業績等を総合的に勘案し、取締役（監査等委員である取締役を除く）については取締役会に付議の上、監査等委員である取締役については監査等委員会にて協議の上、決定しております。「ストック・オプション報酬」については、株主総会で定められた新株予約権としての報酬年額限度額（70百万円）の範囲内で、取締役会の決議により各取締役（監査等委員である取締役及び社外取締役を除く）に対して権利の割当を行っております。

## 3. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等の体系とリスク管理の整合性ならびに報酬等と業績の連動に関する事項

対象役職員の報酬等の決定に当たっては、株主総会で役員全体の報酬総額が決議され、決定される仕組みになっております。

## 4. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等の種類、支払総額および支払方法に関する事項

対象役職員の報酬等の総額（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

区分	人数 (人)	報酬等の総額 (百万円)	固定報酬の総額			変動報酬の総額		退職慰労金
			基本報酬	ストック・オプション	賞与	賞与		
対象役員	10	326	209	184	24	51	51	65

(注) 1 当行は2021年6月24日付で監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行しております。上記の表の対象役員には監査役を含んでおります。

2 株式報酬型ストックオプションの権利行使期間は以下のとおりであります。

なお、当該ストックオプション契約では、行使期間中であっても権利行使は役員の退任時まで繰延べることとしております。

		行使期間
株式会社大分銀行	第1回株式報酬型新株予約権	2012年8月7日から2042年8月6日まで
株式会社大分銀行	第2回株式報酬型新株予約権	2013年8月20日から2043年8月19日まで
株式会社大分銀行	第3回株式報酬型新株予約権	2014年8月19日から2044年8月18日まで
株式会社大分銀行	第4回株式報酬型新株予約権	2015年8月18日から2045年8月17日まで
株式会社大分銀行	第5回株式報酬型新株予約権	2016年8月23日から2046年8月22日まで
株式会社大分銀行	第6回株式報酬型新株予約権	2017年8月29日から2047年8月28日まで
株式会社大分銀行	第7回株式報酬型新株予約権	2018年8月28日から2048年8月27日まで
株式会社大分銀行	第8回株式報酬型新株予約権	2019年8月27日から2049年8月26日まで
株式会社大分銀行	第9回株式報酬型新株予約権	2020年8月25日から2050年8月24日まで
株式会社大分銀行	第10回株式報酬型新株予約権	2021年8月24日から2051年8月23日まで

## 5. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等の体系に関し、その他参考となるべき事項

特段、前項までに掲げたもののほか、該当する事項はありません。



感動を、シェアしたい。  
**大分銀行**